

[御嵩町]

地区	中濃	寺院番号	41006b	県遺跡番号	21521-7380	分布図番号	M8
ふりがな		ぐけいじきゅうけいだい (ぐけいじもとやしきあと)		所在地		可児郡御嵩町中澤堂平	
寺院名		愚溪寺旧境内					
(史跡・遺跡名)		(愚溪寺元屋敷跡)					
時代区分		中世（鎌倉）～		宗派		臨済宗	
立地		山腹		現状(植生)		山林（アカマツ）	
東西規模	450m	南北規模	250m	標高(比高差)	182m (30m)	平坦面面類	A+D
沿革	臨済宗妙心寺派の日峰の法嗣である義天玄承が、愚溪庵を開創した。義天は応永35（1428）年に日峰から印可状を与えられており、愚溪寺はこの頃成立したと考えられている。永享11（1439）年3月、大垣内衛門淨珍・藤木道満・今井左近宗源の3名が寺の背後の山を寄進した。文安5（1448）年には、愚溪庵西側の宝塚（宝塚古墳）、翌年には放岡と高尾峰の寄進を受け、同日付で守護代斎藤利永が寄進状を書き、4月3日に細川勝元が施工状を出した。永正3（1506）年、土岐政房が寺内の乱暴狼藉を戒める十ヶ条の禁制状を与えた。さらに政房は寺号を与え、愚溪寺とした。当寺所蔵の天保年間（1830～44）に描かれた愚溪寺旧寺城図にもあるように、山内には徳隣軒・雲松軒・梅仙庵・宝塚庵等の塔頭をもつ広大な規模の本寺となり、室町時代禅寺の最適の地であったが、寒気が厳しく不便な地であったため、天保11（1840）年から嘉永2（1849）年にかけて現在地に移転し、再興した。						
遺構	石積み、石庭、石橋、溝、土壠、基壇、礎石、集石						
遺物	大窯小皿、近世陶磁器						
有形文化財等	斎藤年永寄進山の絵図（文安6（1449）年頃）、旧寺城図（江戸時代）						
参考文献	御嵩町史編さん室 1992『御嵩町史』通史編上、御嵩町、御嵩町史編さん室 1990『御嵩町史』通史編下、御嵩町、澤田天瑞 1995『愚溪寺庭園（竜安寺庭園の原点）』『愚溪寺庭園』、中部庭園同好会						

調査所見 御嵩町北部に連なる北山山地の山腹、現境内から北西約1kmの地点に立地する。方丈跡がある平坦面①を中心に、北西から南東を尾根、北東を山に囲まれ、南には天池（鏡容池と称した）がひかえる。①は高さ4～5mの石積みを伴い、平坦面の北部が一段高く、北西部に方丈、南東部に庫裏、①の北東側に土蔵があったとされる。①への入口は、高石垣の中央に石段跡があり、石垣の東側にスロープ状の入口と長屋門跡がある。方丈跡の正面には石庭があり、「臥龍石」と称される石材を旧寺城図とほぼ同じ位置に確認できる。①の北西部には、沢からの流水を高石垣の下方へ流す溝や土堀があるほか、石積みを伴う方形の高まり（②祠堂跡）がある。②の東側で沢幅が広くなるが、旧寺城図にはこの場所に「泉水」と表記されている。①の北東部は岩盤を削った高い切岸があり、切岸の上には帯状の広い平坦面が連続する。この平坦面へ上がる通路上で大窯の小皿片を確認した。北西侧の尾根上には広く安定した平坦面が広がり、平坦面間を往来するための出入り口がある。旧寺城図によると、この尾根上には雲松軒・梅仙庵があり、平坦面や出入り口の形状から、雲松軒跡の位置を特定した。一方、南東側の尾根上にみられる平坦面は、横に伸びる長方形の区画を指向し、土壠や石積みで区画している。③には2間×6間の礎石を伴う基壇があり、徳隣庵跡の可能性がある。この尾根上では、近世陶磁器片や小角礫の集石が散見されるが用途は不明である。

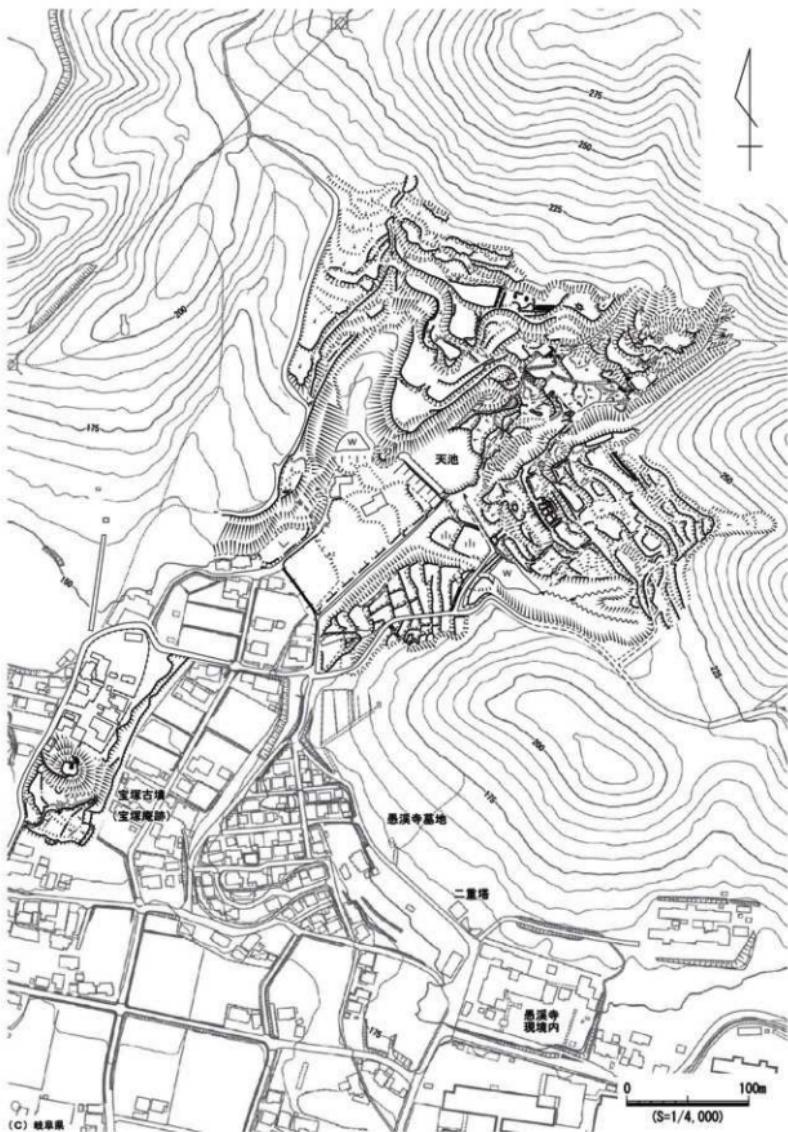


図50 愚溪寺旧境内（愚溪寺元里敷跡）地形観察図（1）



図51 慶次寺旧境内（慶次寺元屋敷跡）地形観察図（2）

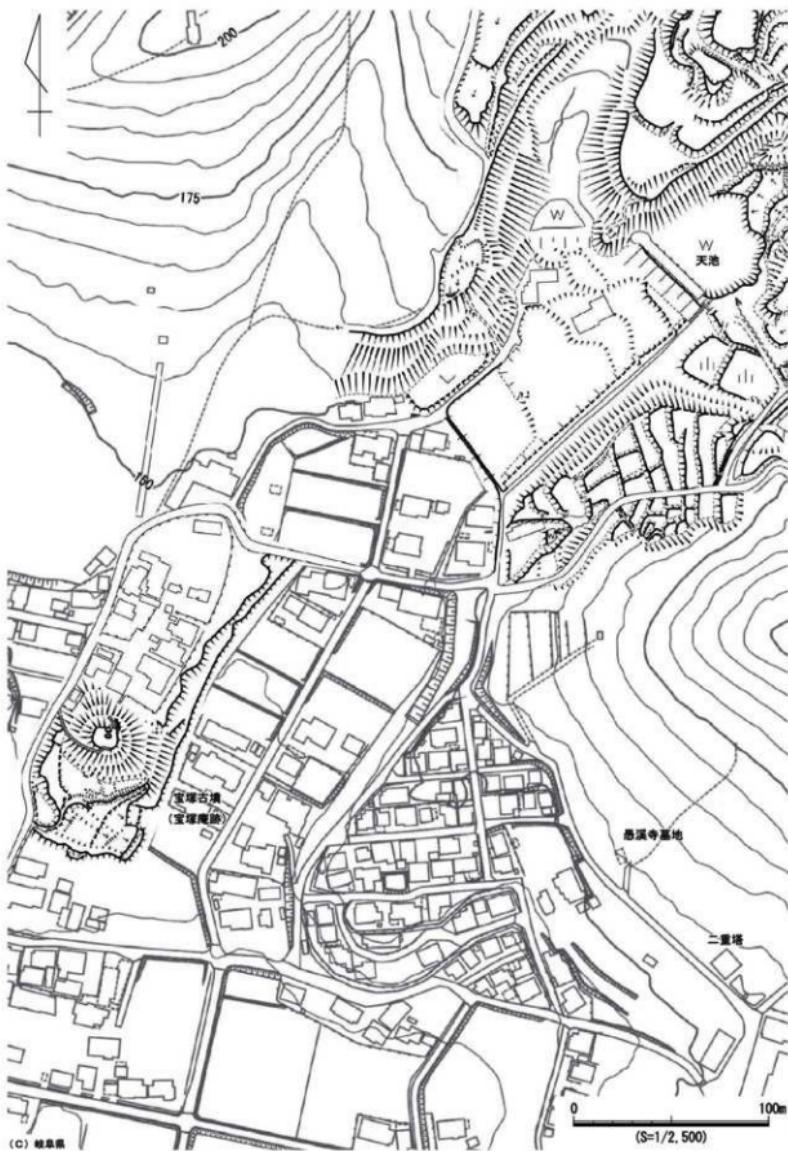


図52 懸渓寺旧境内（懸渓寺元里敷跡） 地形観察図（3）

地区	中濃	寺院番号	41016	県遺跡番号	—	分布図番号	M8
ふりがな	いいたかさんごくらくじ	所在地	可児郡御嵩町御嵩				
寺院名 (史跡・遺跡名)	飯高山極楽寺						
時代区分	古代（平安）～				天台宗		
立地	山腹				現状(植生)	境内地・山林（スギ・ヒノキ）	
東西規模	115m	南北規模	120m	標高(比高差)	197m (47m)	平坦面面類	B+D
沿革	<p>本尊十一面觀音は平安時代の延喜年間（901～923）に開眼供養したものと伝わり、また成立は承平2（932）年ともいわれ、一時は41001願興寺の末寺として坊を構えて栄えたという。当寺の成立に関して、以下のように伝えられている。最澄の法孫である淨藏が、師の足跡をたどり東国教化の途中、師によって開かれた御嵩の願興寺に身を寄せていたところ、「寺の東方の地に桂の古木があり、常に天人がこれに寄る。」と晝夢の告げがあった。早速長岡の地を訪ねると、晝夢のとおり桂の古木を見出しができ、仏徳を感じた淨藏は、桂の古木を切り出し、一刀三札して觀音像を彫刻した。これが本尊の十一面觀世音菩薩と伝えられている。この尊像を安置するための堂宇は、桂の古木があった場所に里人によって建立された。</p>						
遺構	—						
遺物	—						
有形文化財等	—						
参考文献	御嵩町史編さん室 1992『御嵩町史』通史編上、御嵩町						
備考	長岡觀音堂ともよばれ、堂には「大悲闍」の額が掛かる。						

調査所見 極楽寺は、御嵩町北部に連なる北山山地の山腹に立地する。周囲を尾根に囲まれた谷地形の最奥に2段の高い石積みを設け、南南西向きの本堂が建つ（①）。石積みの上段は小ぶりな石材を密に積むが、下段は大ぶりな石材を積んでいることから、上・下段で築造に時期差がある可能性がある。境内の東西両側の尾根筋に沿って沢が流れ、東側の沢は本堂正面の池の前を通り西側の沢へ合流するため、本堂は沢に囲まれた範囲の中心に位置する。東側の沢沿いには、輪郭が明瞭な小規模の平坦面が連なる（②）が、各平坦面に木が直線的に並ぶことから、植林等の後世の改変を受けている可能性がある。本堂前の③は、境内の中で最も広い平坦面である。北東から南西に向かってやや傾斜するが、近代の瓦片が散乱しており、建物が建っていた可能性がある。その南側には輪郭がやや不明瞭な平坦面群（④）がみられる。各平坦面間を行き来する出入口は確認できず、沢に沿って擁壁がみられ、②同様後世の改変を受けている可能性がある。



図 53 飯高山極楽寺 地形観察図

中濃圏域参考文献

- 青山貞一 1976 『郷土史池尻村』
- 安藤剛 2007 『富加の古事記』
- 太田成和編 1987 『郡上八幡町史』下巻、八幡町役場
- 石川力山 1980 『美濃国祥雲山龍泰寺史』
- 板取村教育委員会 1982 『板取村史』
- 上之保村教育委員会 1992 『かみのほの石造物』
- 上之保村教育委員会 2000 『上之保村史誌』
- 可児町郷土史刊行会 1960 『可児町郷土史』
- 可児町 1980 『可児町史』通史編
- 可児市成人大学歴史講座 1984 『可児市の伝承地名』
- 可児市教育委員会市史編纂室 2006 『崇王寺一仏像 建築 大般若経一』可児市史調査報告書第1集、可児市教育委員会
- 兼山村史編纂委員会 1972 『兼山村史』
- 苅田乙三郎・佐伯吉六・渡邊紋治郎・堀川芳松編 1914 『東白川村誌』、苅田乙三郎
- 川辺町史編纂室 1996 『川辺町史』通史編、川辺町教育委員会
- 観音講中 2019 『白雲山観音堂』
- 岐阜県教育委員会 2003 『岐阜県中世城館跡総合調査報告書第2集』(岐阜地区・美濃地区)
- 岐阜県教育委員会 2007 『改訂版岐阜県遺跡地図』
- 岐阜縣加茂郡役所 1921 『美濃國加茂郡誌』
- 岐阜県加茂郡和知尋常高等小学校 1936 『和知村誌』
- 岐阜県仏教会 2001 『寺院名鑑』
- 岐阜県文化財保護センター2005 『重竹遺跡・上西田遺跡・洞雲戸遺跡』岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第91号
- 久々利村誌編纂会 1935 『久々利村誌』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2003 『岩井戸岩陰遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第81集
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2006 『清願寺跡』岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第100集
- 坂祝町教育委員会町史編纂事務局 2005 『坂祝町史』通史編、坂祝町教育委員会
- 澤田天瑞 1995 「愚溪寺庭園（竜安寺庭園の原点）」『愚溪寺庭園』、中部庭園同好会七宗町教育委員会
- 七宗町教育委員会1993 『七宗町史』通史編
- 莊川村史編纂室 1975 『莊川村史』上巻
- 昭和中学校区地域づくり委員会大矢田部会 2014 『大矢田よもやま見聞録』第2集
- 白川町誌編纂委員会 1968 『白川町誌』、白川町
- 白鳥町教育委員会 1976 『白鳥町史』通史編上巻

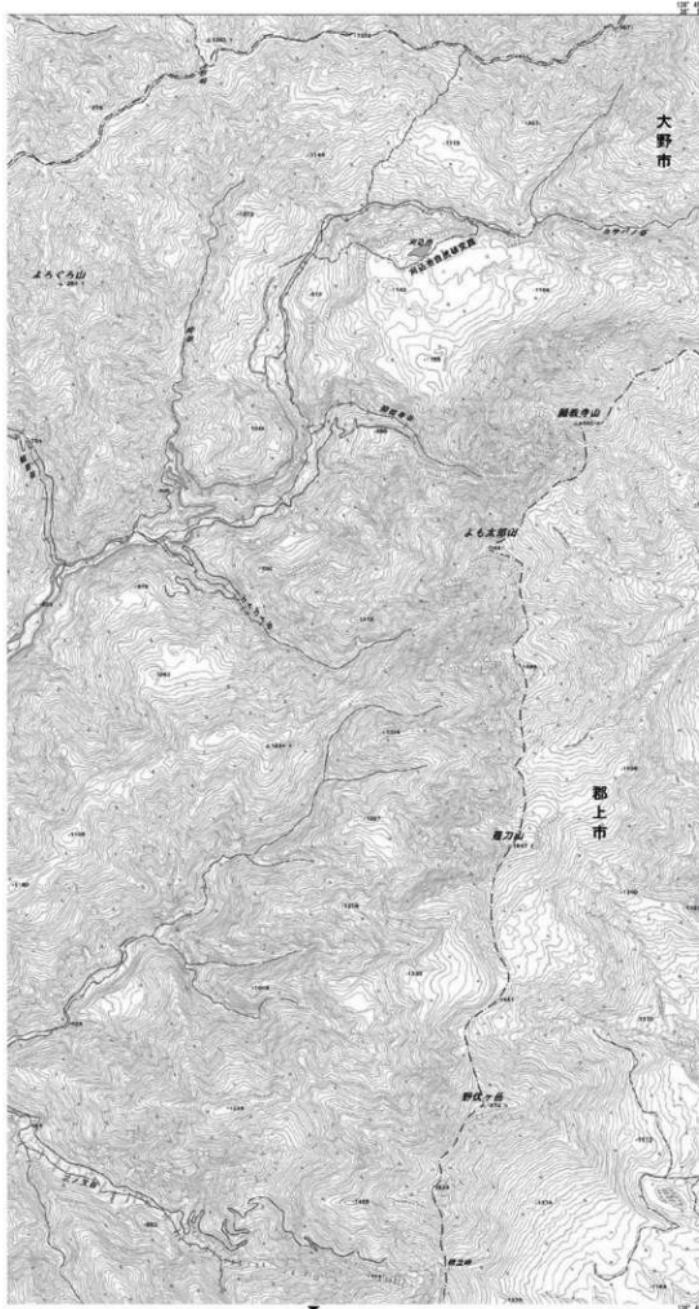
- 白鳥町教育委員会 1977『白鳥町史』通史編下巻
- 白鳥町教育委員会 1984『郷土誌 わが町白鳥』
- 新修武芸川町史編纂委員会編 2005『新修武芸川町史』
- 閔市教育委員会 1986『国指定史跡 弥勒寺跡』閔市文化財調査報告第 11 号
- 閔市教育委員会 1987『坊地廃寺跡・坊地遺跡 一範囲確認発掘調査報告書一』閔市文化財調査報告第 12 号
- 閔市教育委員会 1989『国指定史跡 弥勒寺跡一範囲確認発掘調査報告書 I・II-』閔市文化財調査報告第 13・14 号
- 閔市教育委員会 1990『国指定史跡 弥勒寺跡一範囲確認発掘調査報告書 III-』閔市文化財調査報告第 18 号
- 閔市教育委員会 1994『新修閔市史』考古・文化財編-
- 閔市教育委員会 1995『新修閔市史』史料編-古代・中世・近世-
- 閔市教育委員会 1996『新修閔市史』通史編-自然・原始・古代・中世-
- 閔市教育委員会 1996『新修閔市史』民俗編
- 閔市教育委員会 1999『新修閔市史』通史編-近世・近代・現代-
- 閔市教育委員会・共同組合連合会岐阜県中小企業福祉センター 1976『陽徳寺裏山古墳群』閔市文化財調査報告第 3 号
- 閔市教育委員会 2009『国指定遺跡 弥勒寺官衙遺跡群 弥勒寺跡 講堂跡発掘調査 平成 9・10 年度』閔市文化財調査報告第 26 号
- 閔市教育委員会 2011『閔市埋蔵文化財発掘調査報告書平成 19~20 年度』閔市文化財調査報告第 29 号
- 閔市教育委員会 2015『閔市埋蔵文化財発掘調査報告書-平成 21 年度-』閔市文化財調査報告第 33 号
- 曹洞宗岐阜県宗務所 2002『曹洞宗岐阜県寺院名鑑』
- 高鷲村役場 1960『高鷲村史』
- 高鷲村史編纂委員会 1986『高鷲村史』統編、岐阜県高鷲村
- 中濃八十八ヶ所中興会 2015『中濃八十八ヶ所靈場奉納経』
- 富加町教育委員会 1991『とみかの石造物』
- 富加町史編集委員会 1975『富加町史』上巻史料編、岐阜県加茂郡富加町
- 富加町史編集委員会 1980『富加町史』下巻通史編、岐阜県加茂郡富加町
- 富加町文化財審議会 2010『とみかの文化財』、富加町教育委員会
- 名古屋大学文学部考古学教室 1974『大和村の遺跡』(上段古墓群発掘調査報告書)
- 梅龍寺 1995『第廿九世隆廣紹天和尚晋山記念 梅龍寺史』
- 白華山清水寺総代会 1992『白華山清水寺』、白華山清水寺
- 蜂屋郷土史研究会 1978『蜂屋の歴史』
- 東白川村誌編纂委員会 1982『新修東白川村誌』通史編、岐阜県加茂郡東白川村
- 東白川村教育委員会 1983『東白川村の石造物』第一集
- 東白川村教育委員会 1990『東白川村の石造物』第二集
- 東白川村教育委員会 1990『東白川村の魔仏毀釈』ふるさとシリーズ④
- 洞戸村史編集委員会編集 1988『洞戸村史』上巻

- 洞戸村史編集委員会編集1997『洞戸村史』下巻
洞戸村教育委員会 1992『ほらど村の石造物』
御嵩町史編さん室 1985『御嵩町史』民俗編、御嵩町
御嵩町史編さん室 1990『御嵩町史』通史編下、御嵩町
御嵩町史編さん室 1992『御嵩町史』通史編上、御嵩町
美並村教育委員会 1981『美並村史』通史編上巻
美並村教育委員会 1984『美並村史』通史編下巻
美濃加茂市 1978『美濃加茂市史』民俗編
美濃加茂市 1980『美濃加茂市史』通史編
美濃加茂市教育委員会 1988『美濃加茂の石仏』
美濃加茂市・坂祝町・富加町 2017『夕雲の城』
美濃市 1979『美濃市史』通史編上巻
美濃市 1980『美濃市史』通史編下巻
美濃市教育委員会 1999『美濃市遺跡分布地図』美濃市文化財調査報告第12号
美濃市教育委員会 2012『美濃観音寺山古墳・長福寺遺跡・西観音寺跡・東観音寺跡』美濃市文化財調査報告第34号
美濃市教育委員会 2014『観音堂遺跡他』美濃市文化財調査報告第36号
美濃西国三十三番霊場事務所 1979『東海百觀音靈場めぐりー美濃三十三觀音』
美濃市役所 2019『広報みの』No.947
武儀町教育委員会 1992『武儀町史』
武芸川町郷土史研究会 1986『武芸川の石造物』
武芸川町町史同好会 1995『宇多天皇と武芸川町』
明宝村教育委員会編 1993『明宝村史』下巻
八百津町史編纂委員会 1976『八百津町史』通史編、八百津町教育委員会
八百津町教育委員会 1977『八百津町の文化財』
大和町 1988『大和町史』通史編下巻
大和村編 1984『大和村史』通史編上巻、大和村
吉岡勲監修 1987『岐阜県百寺』、株式会社郷土出版社

第 4 節 寺 院 分 布 図



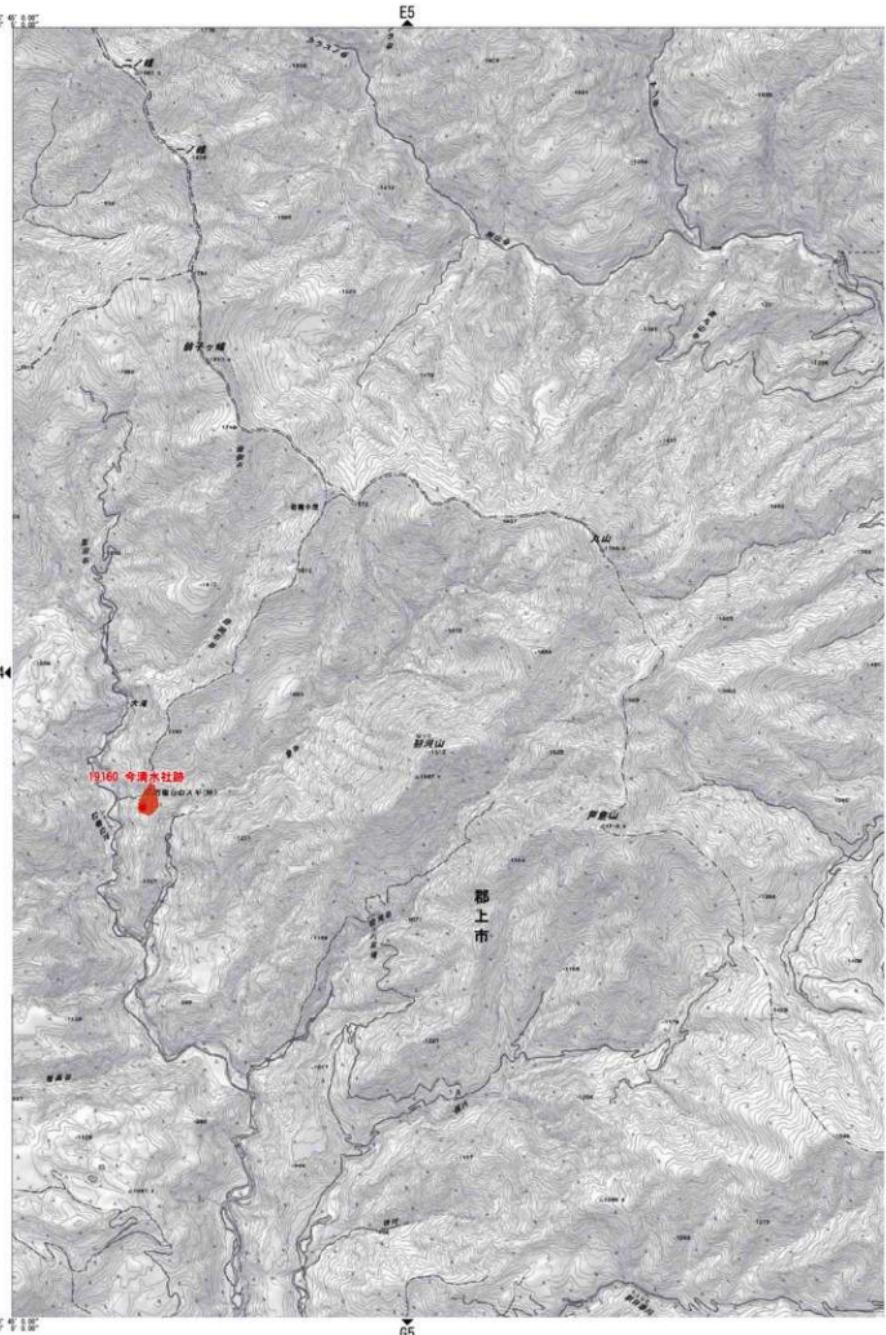
F4 願教寺山 135



G4

		E5 白山
F4 願教寺山	F5 二ノ峰	
G4 下山	G5 石徹白	

136



F44

65

F5 二ノ峰

郡上市

19160 今清水社跡

高山市

天狗山

大月ヶ岳

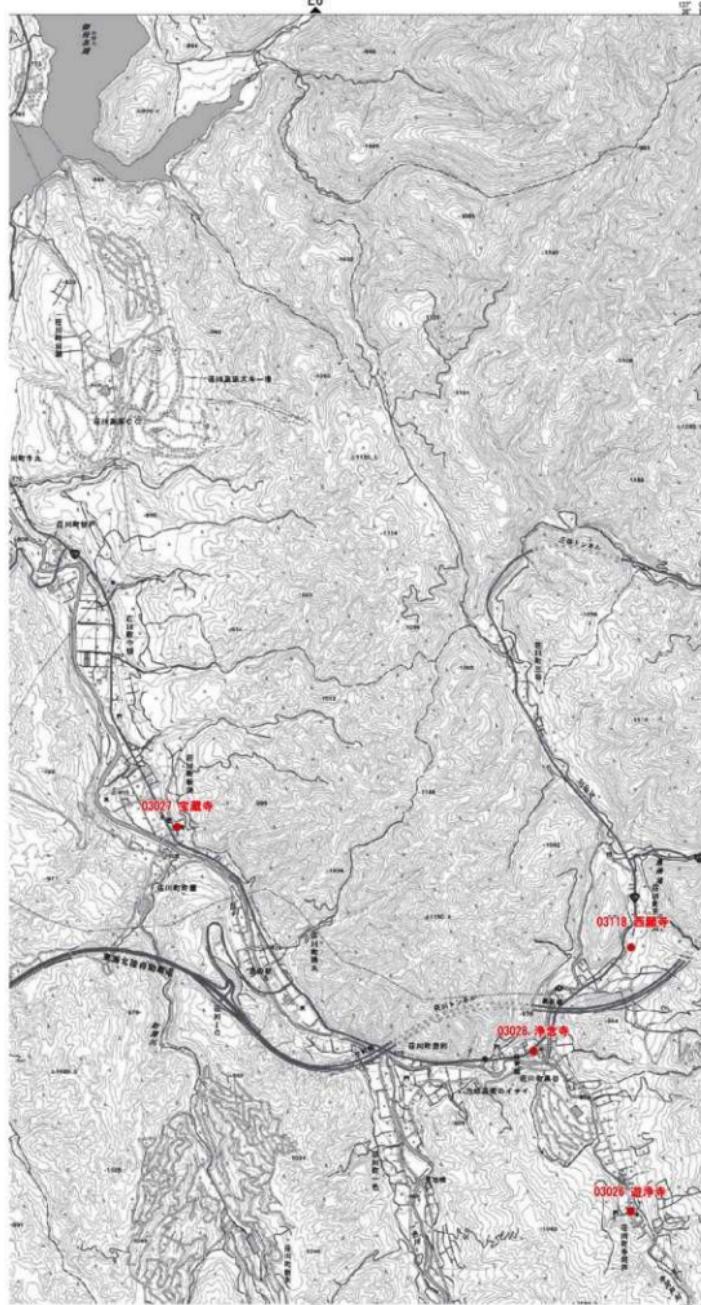
F6

E5 白山	E6 御母衣
F4 薬師寺山	F5 二ノ峰
G4 下山	G5 石徹白
	G6 大鷲

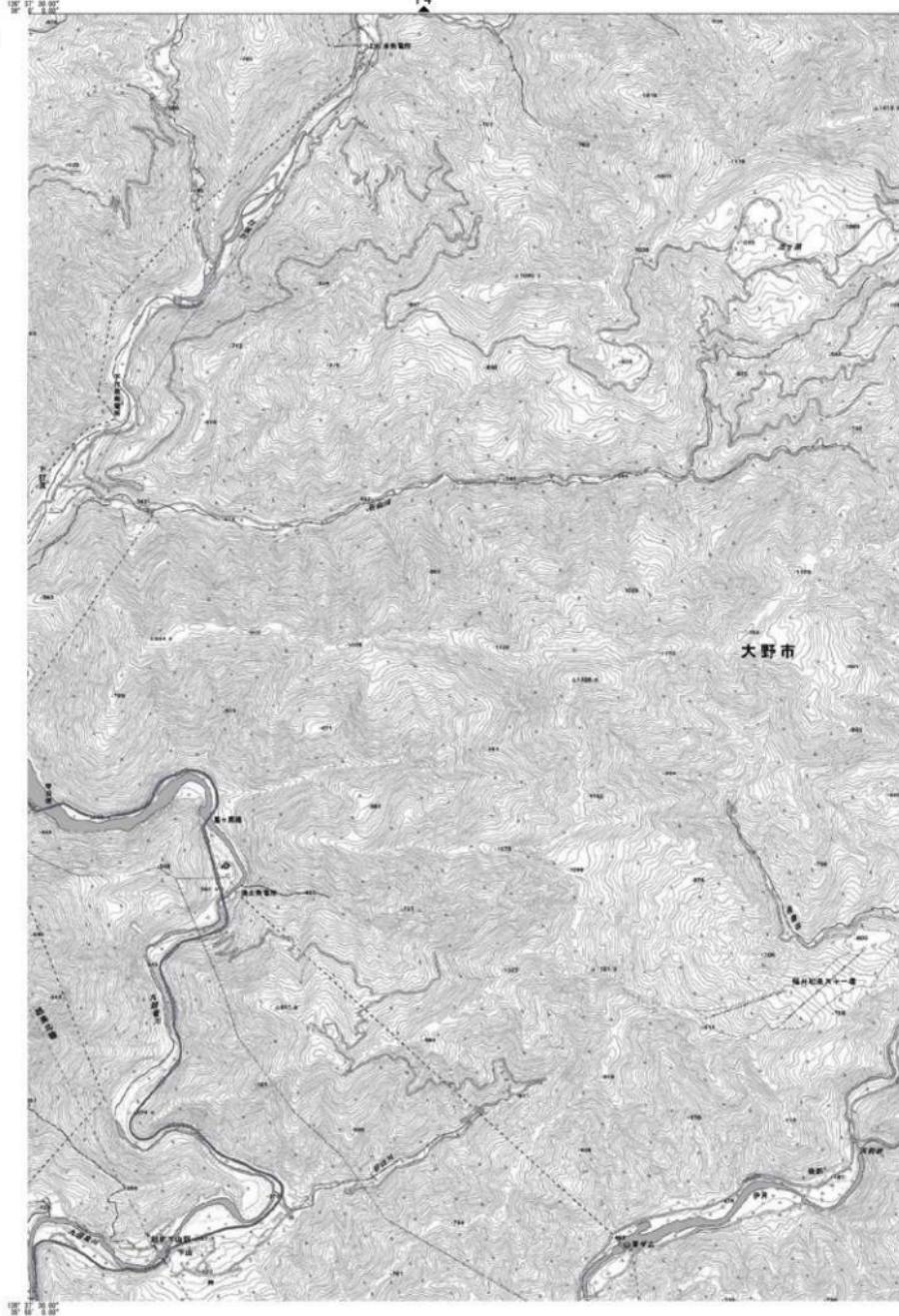


高山市

- 03026 遊淨寺
03027 宝嚴寺
03028 洋念寺
03118 西福寺



E5 白山	E6 御母衣	E7 夏殿
F5 二ノ峰	F6 新潟	F7 六厩
G5 石徹白	G6 大鶴	G7 飛驒大原



F4

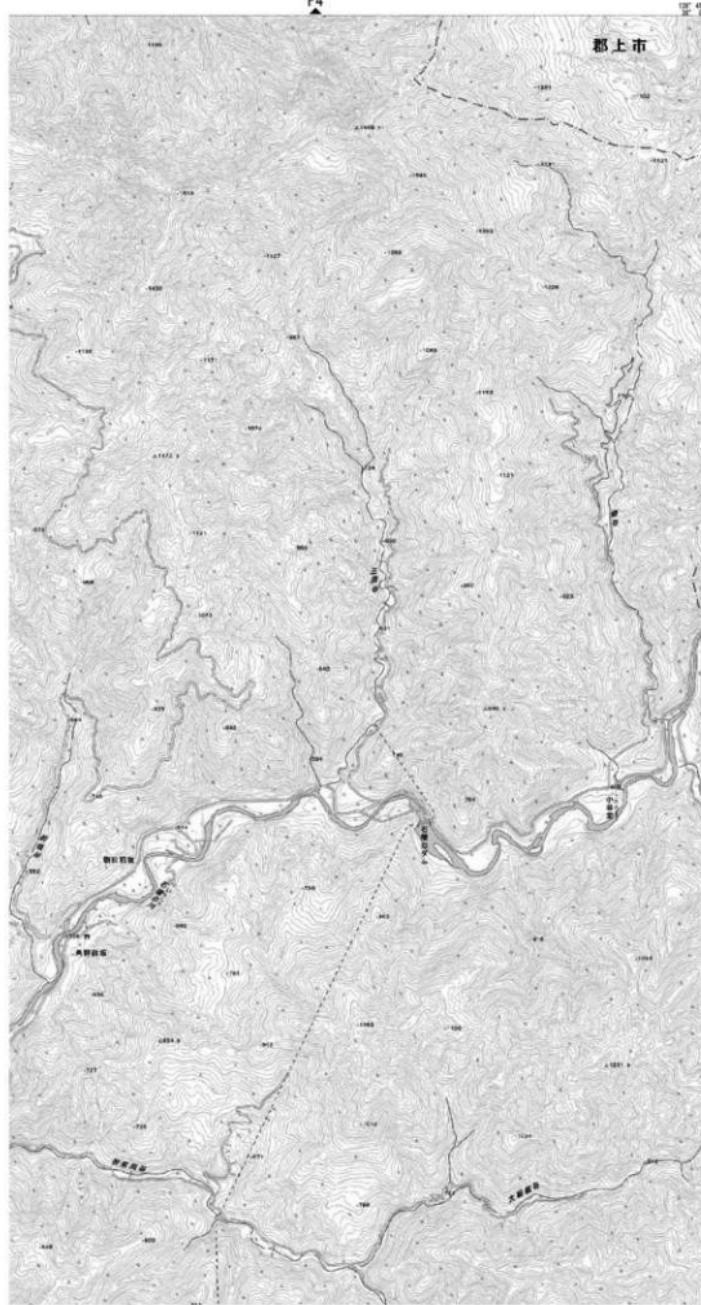
13° 45' E
35° 50' N

郡上市

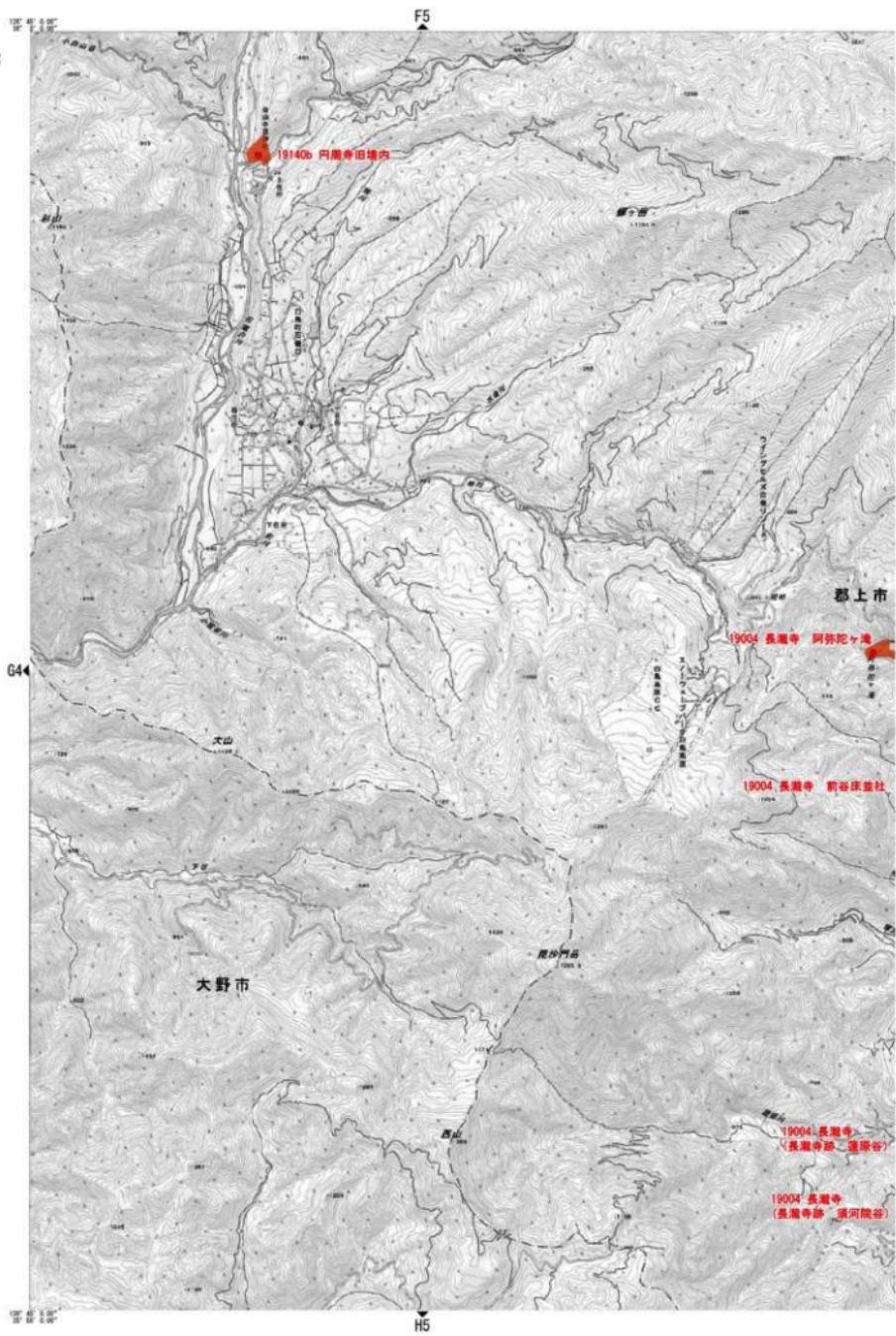
G4 下山

141

G5



	F4 聖教寺山	F5 二ノ峰
G4 下山	G5 石徹白	
	H5 白鳥	



郡上市

- 19004 長瀧寺 阿努陀ヶ塚
 19004 長瀧寺 前谷床並社
 19004 長瀧寺(長瀧寺跡)
 19013 表善寺
 19059 道入寺
 19061 忠願寺
 19063 真觀寺
 19064 開因寺
 19131 真の森白山社別当寺(奥の宮跡)
 19131 真の森白山社別当寺(奥の宮跡)
 19140b 円蔵寺旧境内

G6

19131 真の森白山社別当寺(奥の宮跡)

19059 道入寺

19013 長瀧寺

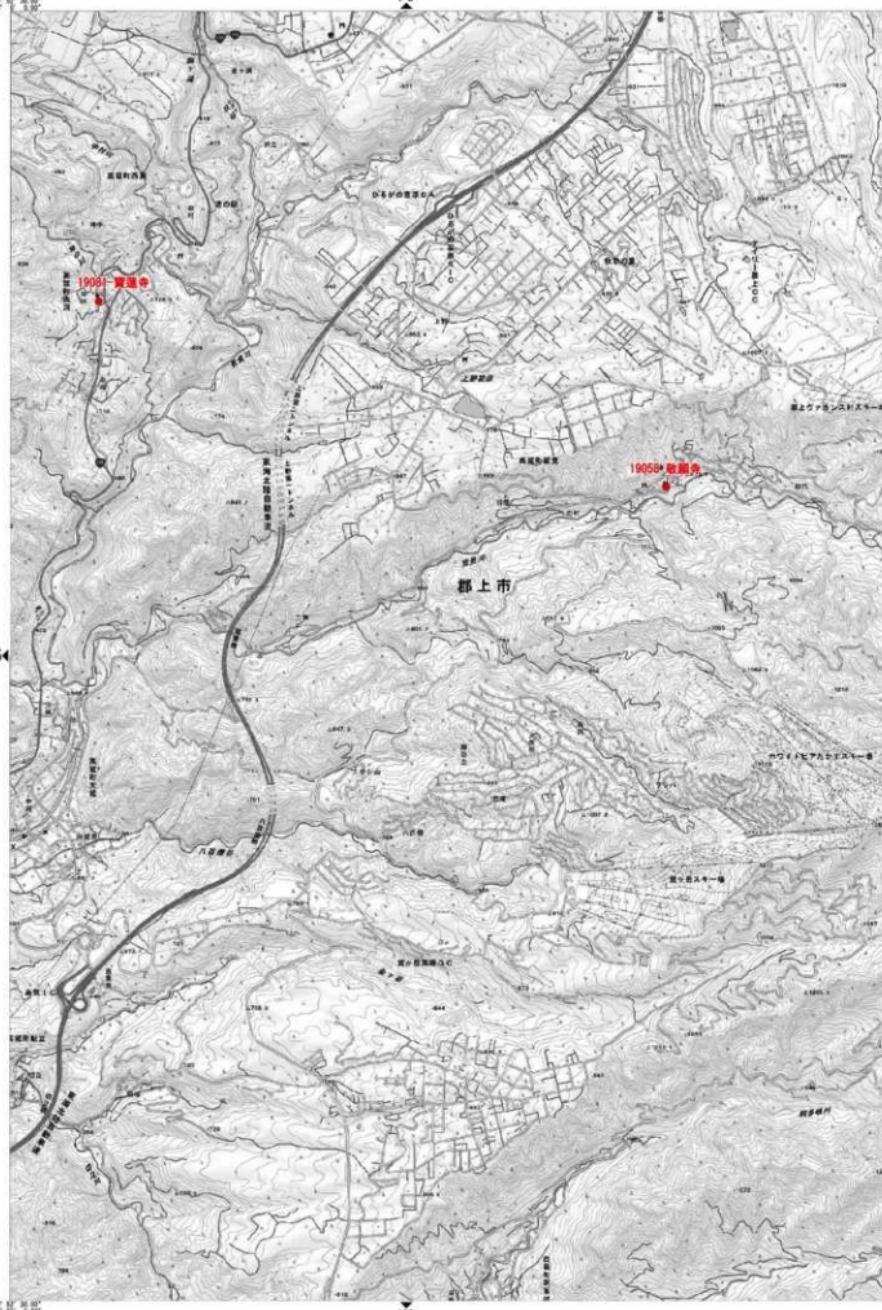
19064 開因寺

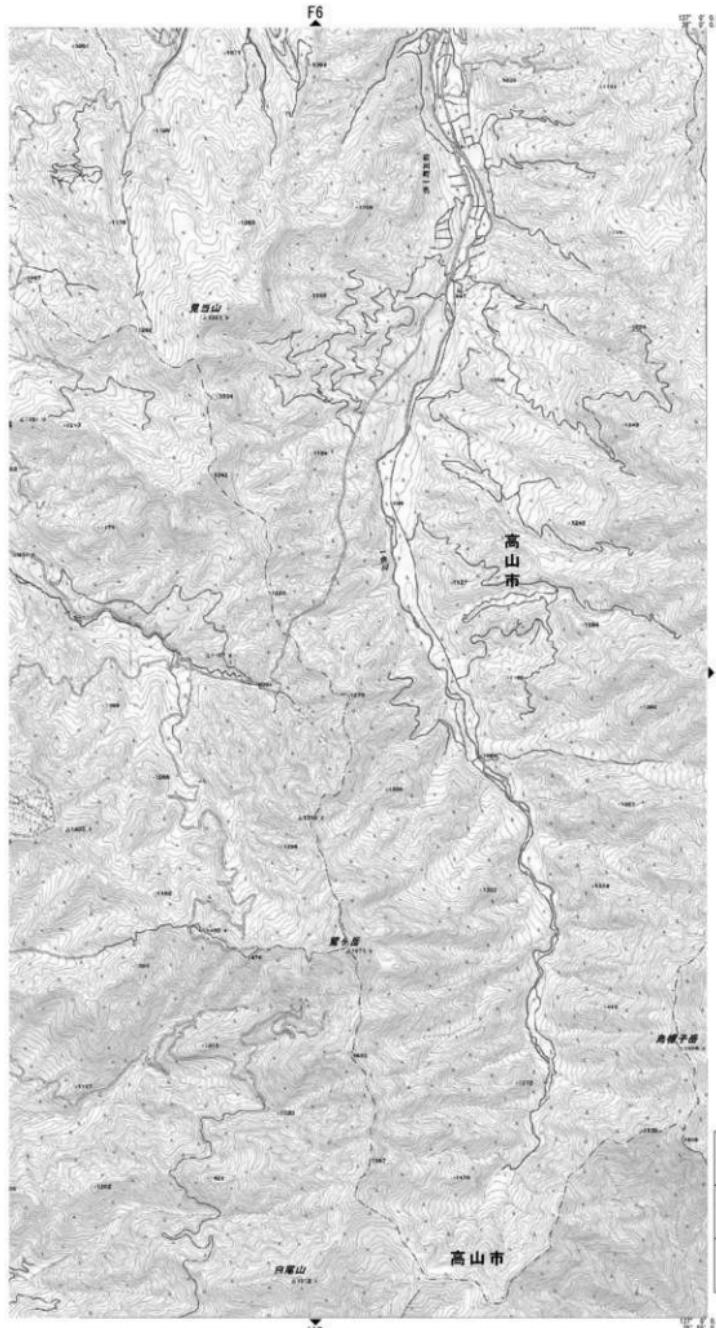
19061 忠願寺

19063 真觀寺

19004 長瀧寺(長瀧寺跡)

F4 藤教寺山	F5 二ノ峰	F6 新測
G4 下山	G5 石徹白	G6 大鷲
	H5 白鳥	H6 那留





G6 大鷺

145

郡上市

19058 敬顯寺

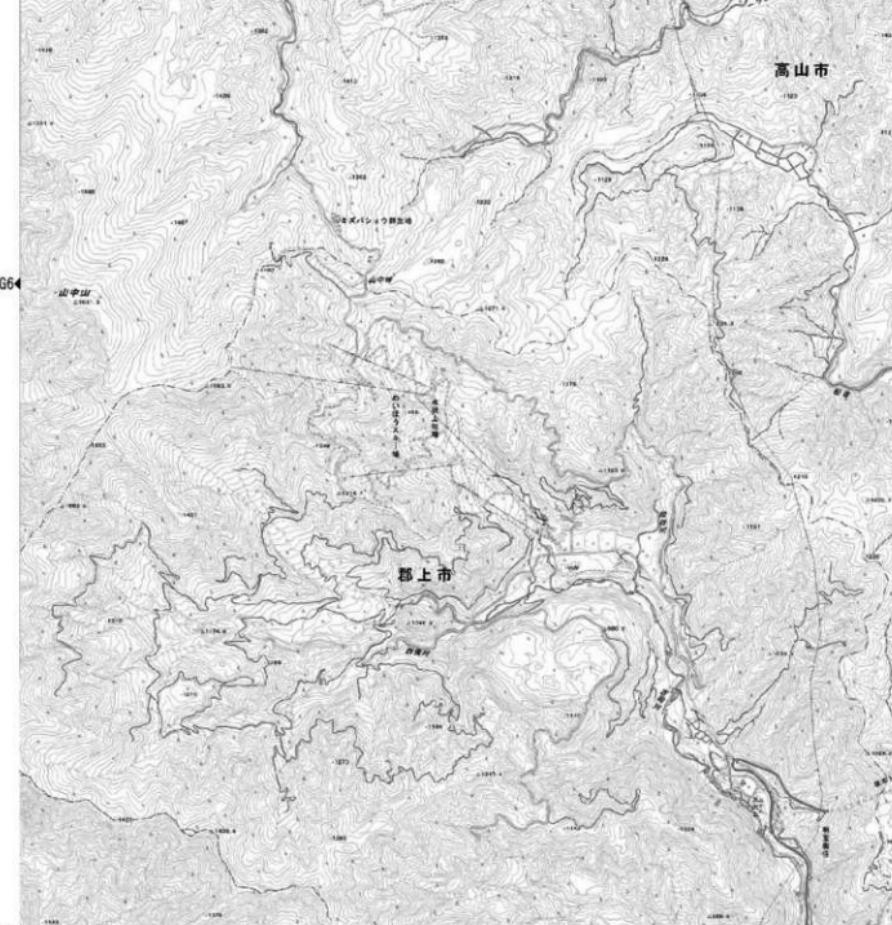
F5 二ノ峰	F6 新潟	F7 六厩
G5 石徹白	G6 大鹫	G7 飛驒大原
H5 白鳥	H6 那留	H7 二間手

HG

146



664



147

H7

高山市

03021 長林寺
03063 櫻谷寺

03063 櫻谷寺

03021 長林寺

下呂市

G8

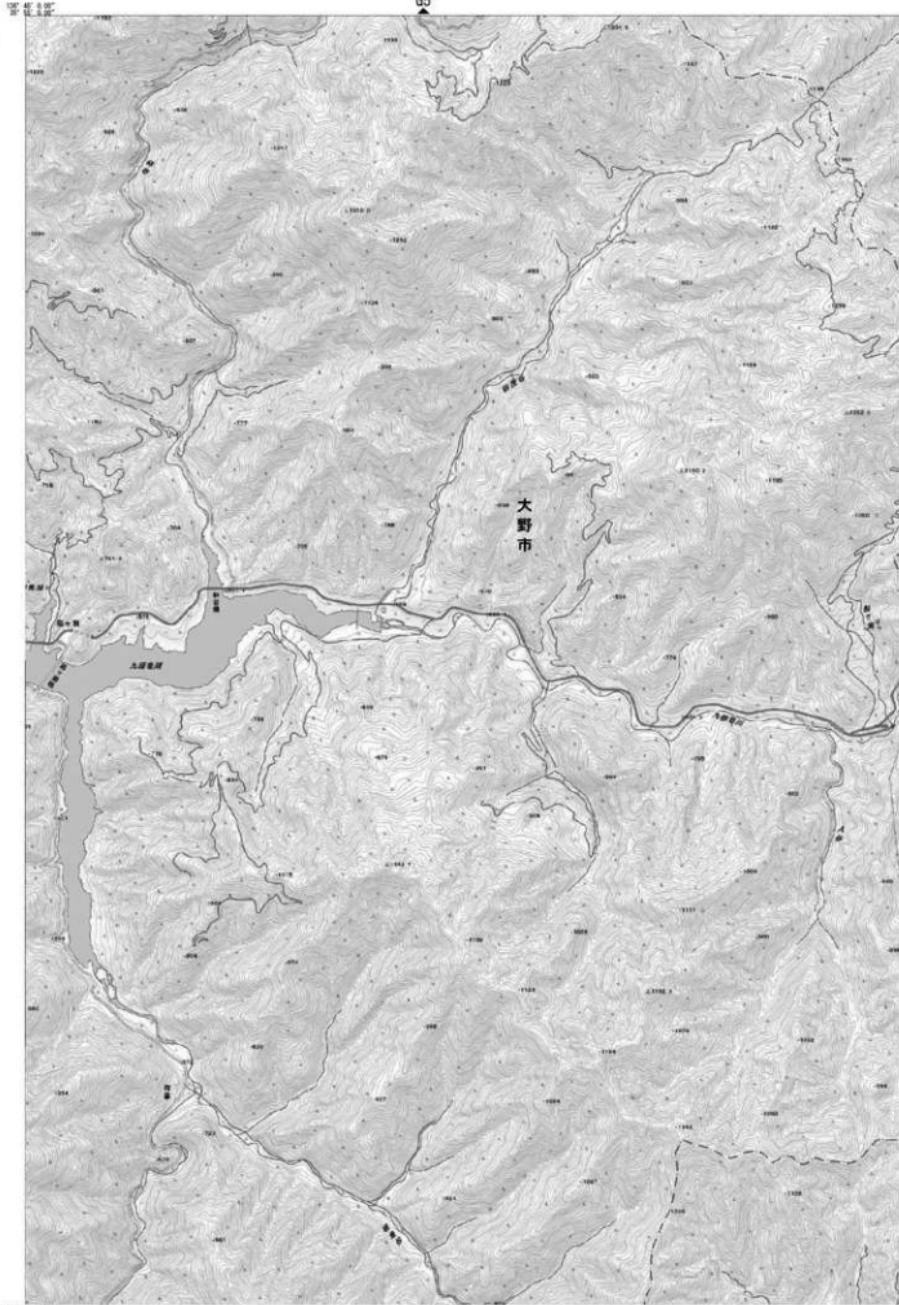
郡上市

H7

F6 新潟	F7 六賀	F8 位山
G6 大鷲	G7 飛驒大原	G8 山之口
H6 那留	H7 二間手	H8 萩原

13° 52' E 36° 30' N

13° 51' E 36° 30' N



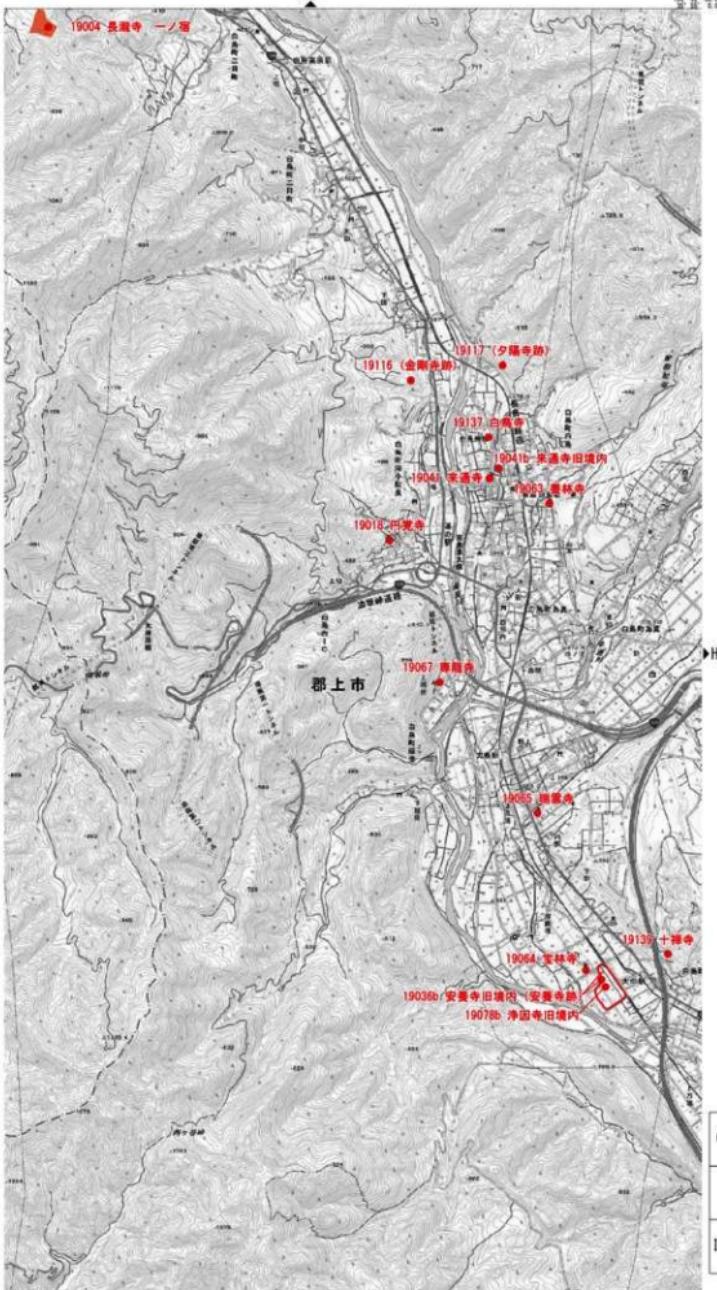
19004 長瀬寺 一ノ宮

北緯 35度 45分 35秒 東経 136度 15分 30秒

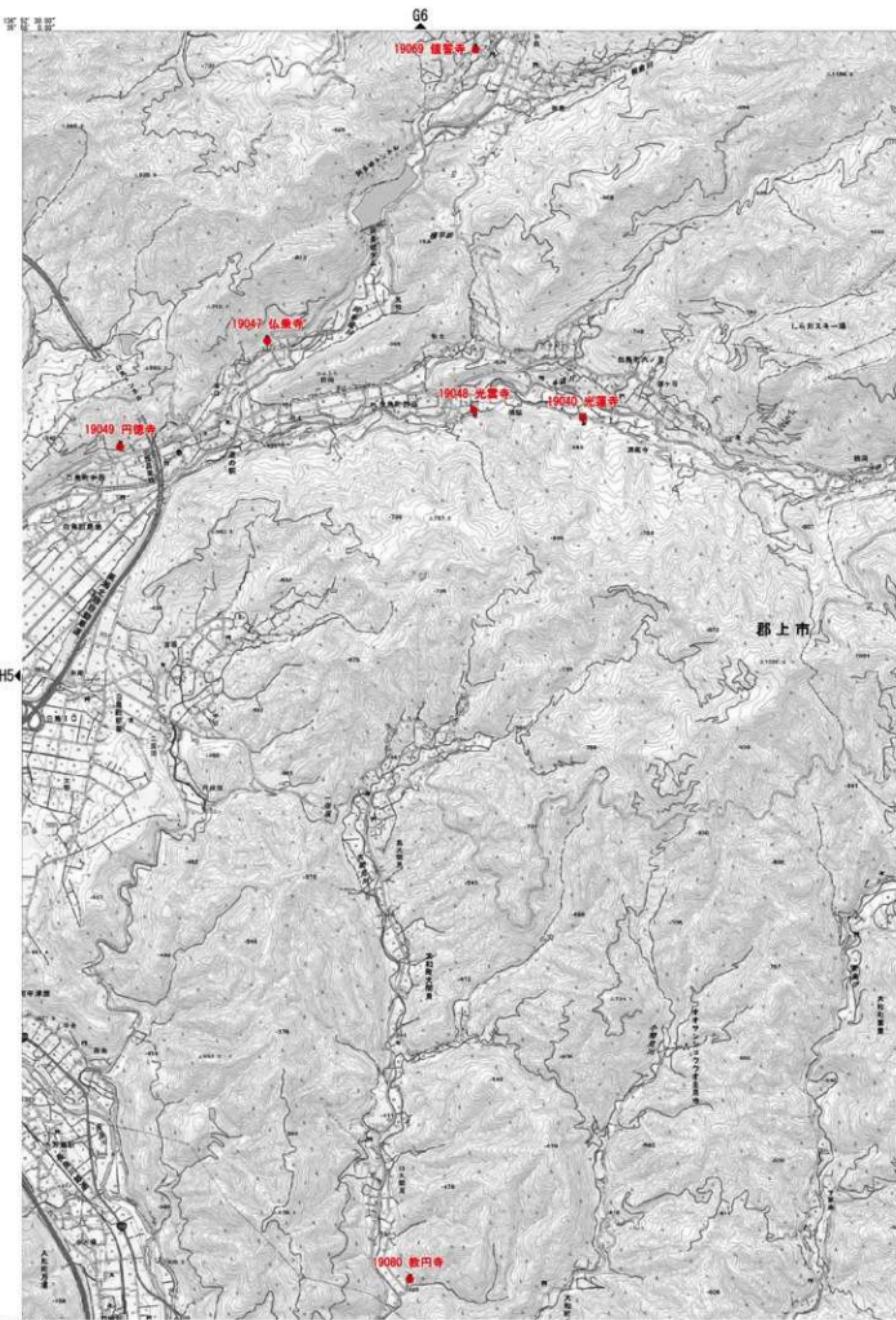
H5 白鳥

郡上市

- 19008 長瀬寺 一ノ宮
 19018 円覚寺
 1903b 安養寺旧境内（安養寺跡）
 19041 来通寺
 19041b 来通寺旧境内
 19053 蓮林寺
 19064 宝林寺
 19065 球雲寺
 19067 専龍寺
 1907b 淨因寺旧境内
 19118 (金剛寺跡)
 19117 (夕陽寺跡)
 19137 白鳥寺
 19041c 来通寺旧境内
 19033 蓮林寺
 19018 円覺寺
 19067 廣福寺
 19065 球雲寺
 19133 十津寺
 19064 宝林寺
 1903b 安養寺旧境内（安養寺跡）
 1907b 淨因寺旧境内



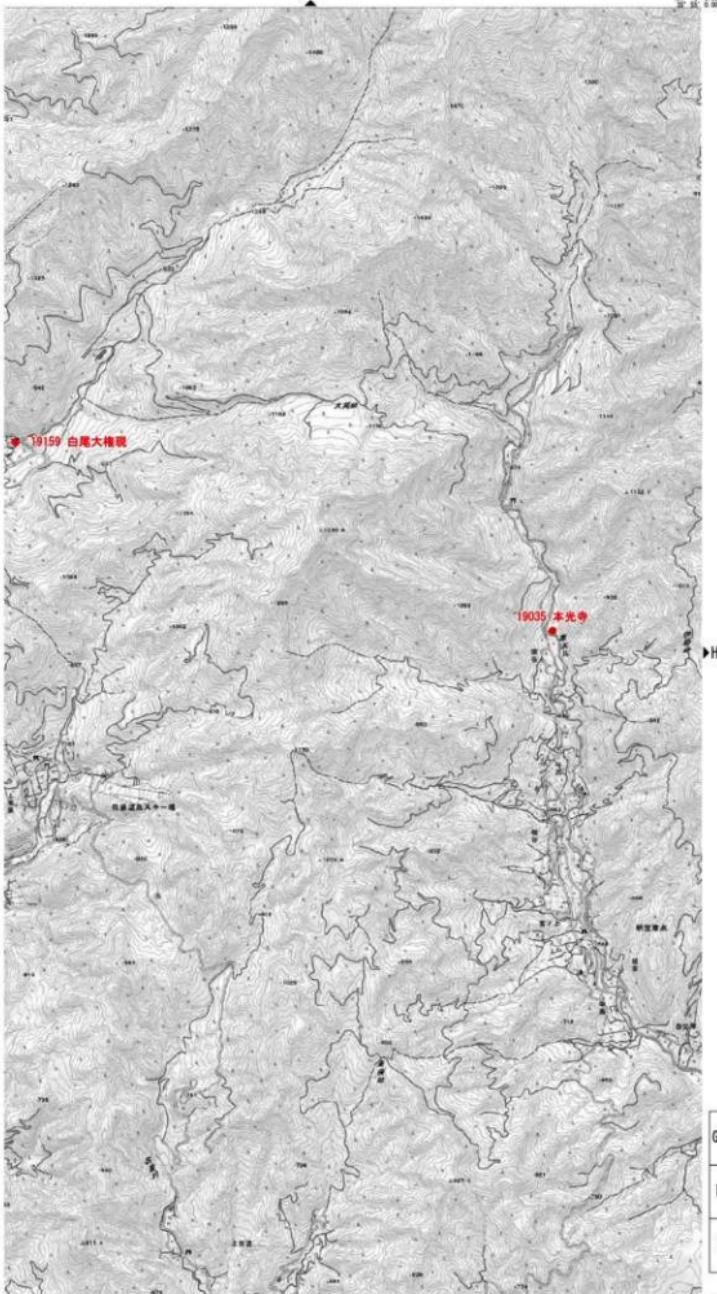
G4 下山	G5 石徹白	G6 大蔵
	H5 白鳥	H6 那留
I4 平家岳	I5 門原	I6 德永

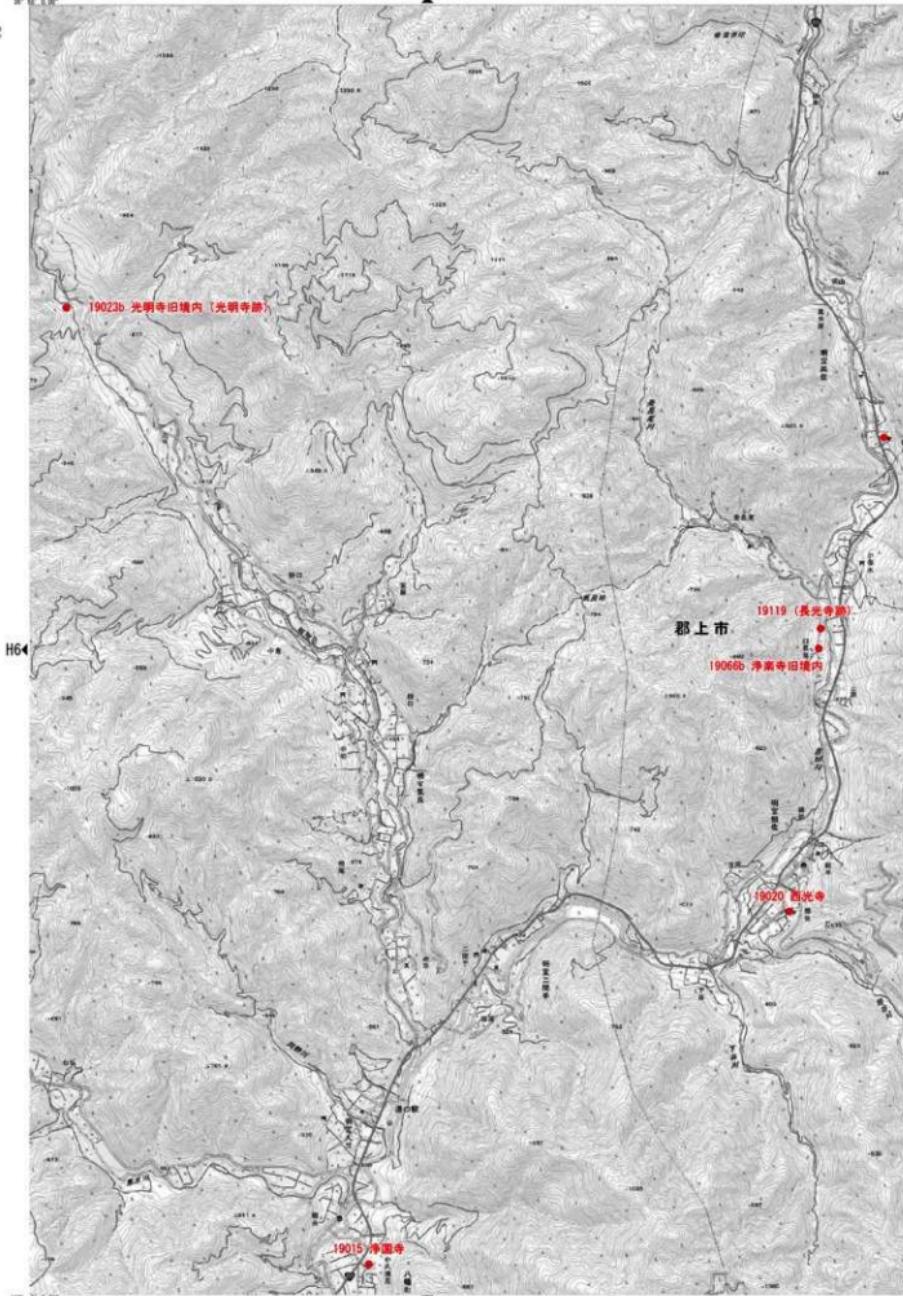


H6 那留

郡上市

- 19035 本光寺
 19040 光慶寺
 19047 仏乗寺
 19048 光露寺
 19049 円徳寺
 19050 優聖寺
 19080 教円寺
 19159 白尾大権現





郡上市

- 19010 佛號寺
 19012 常妙寺
 19015 淨國寺
 19020 西光寺
 19023 光明寺旧境内（光明寺跡）
 19066 淨業寺旧境内
 19119 (長光寺跡)

19012/常妙寺

19010 佛號寺

H8

G6 大麓	G7 飛驒大原	G8 山之口
H6 那留	H7 二間手	H8 萩原
I6 德永	I7 郡上市島	I8 下呂

2001ab 麻生寺旧境内(麻生寺跡)

2001b 桂林寺旧境内(桂林寺跡)

下呂市

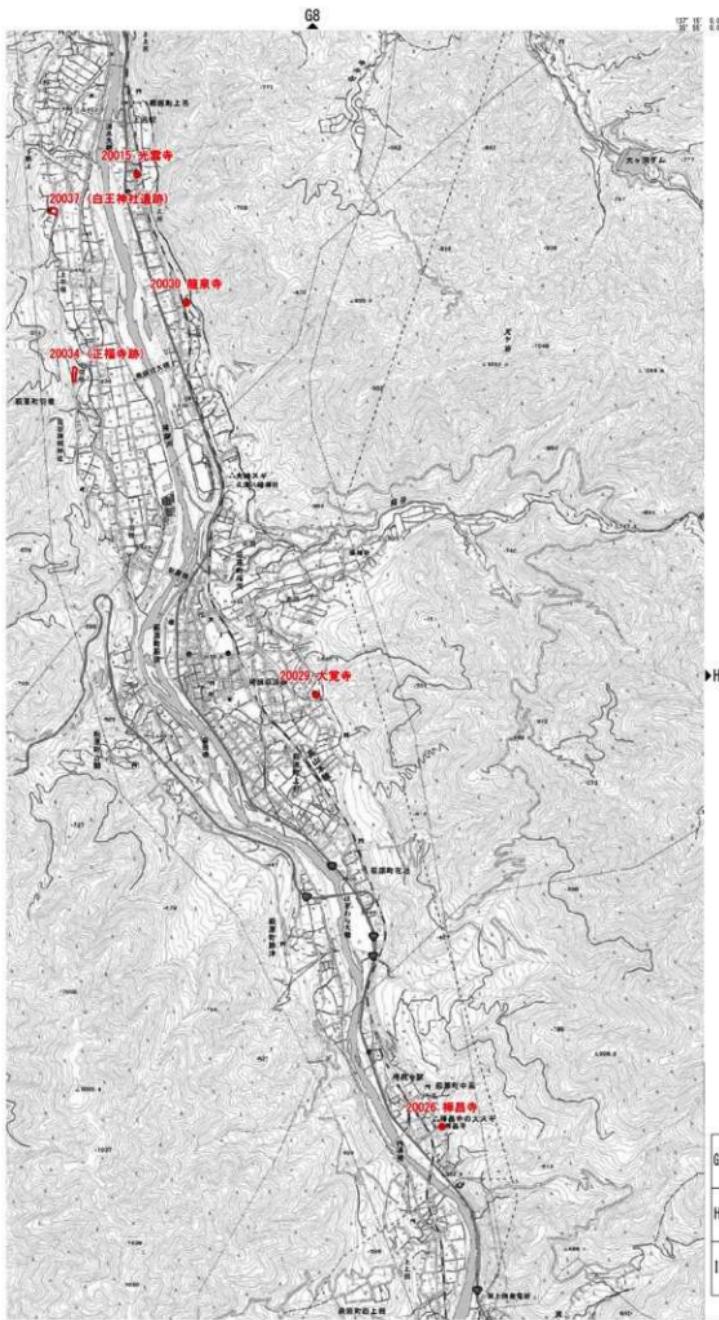
郡上市

下呂市

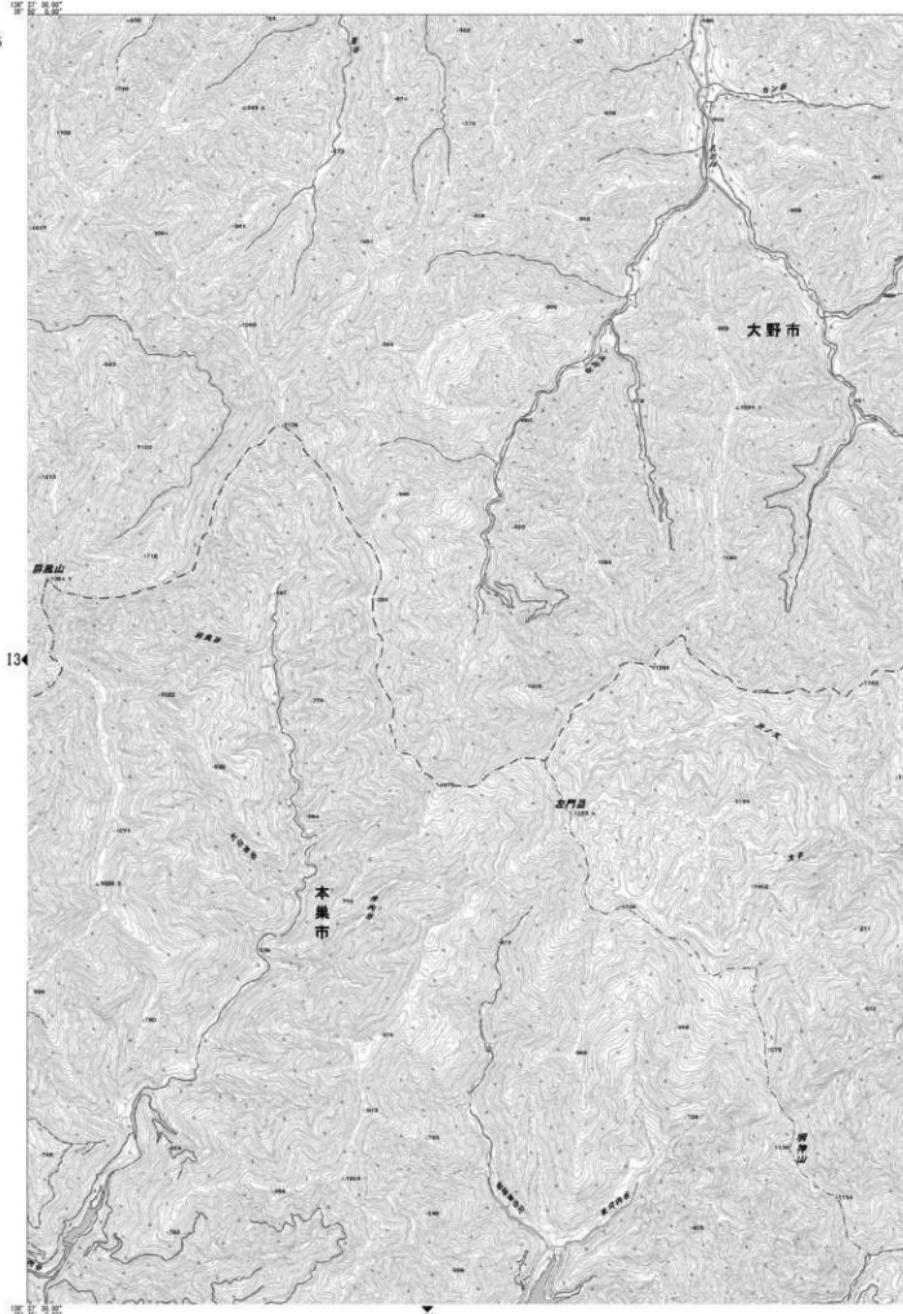
H8 萩原

下呂市

- 20010c 桂林寺旧境内(桂林寺跡)
 20014b 墓大寺旧境内(墓大寺跡)
 20015 光雲寺
 20026 神昌寺
 20029 大覚寺
 20030 龍泉寺
 20034 (正福寺跡)
 20037 (白王神社遺跡)

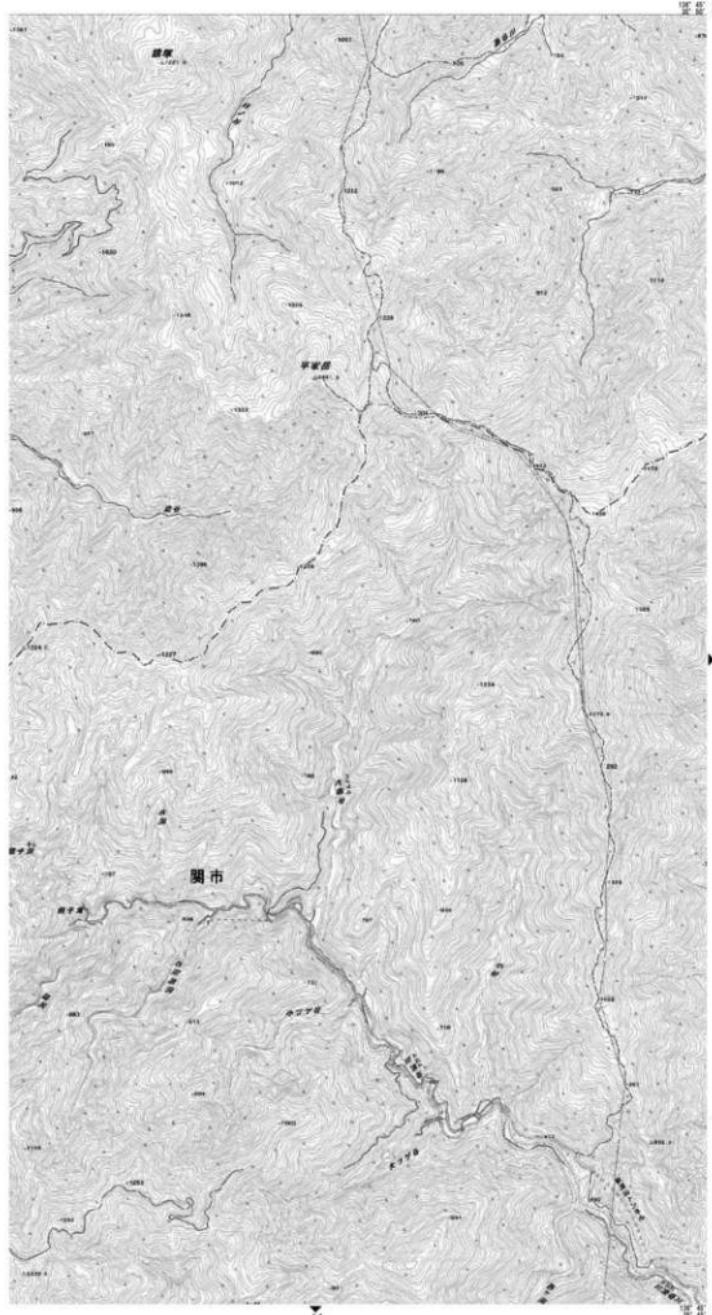


G7 飛驒大原	G8 山之口	G9 飛驒小坂
H7 二間手	H8 萩原	H9 湯屋
I7 都上市島	I8 下呂	I9 宮地



I4 平家岳

157



		H5 白鳥
I3 能郷白山	I4 平家岳	I5 門原
J3 能郷	J4 下大須	J5 上ヶ瀬

158

H5

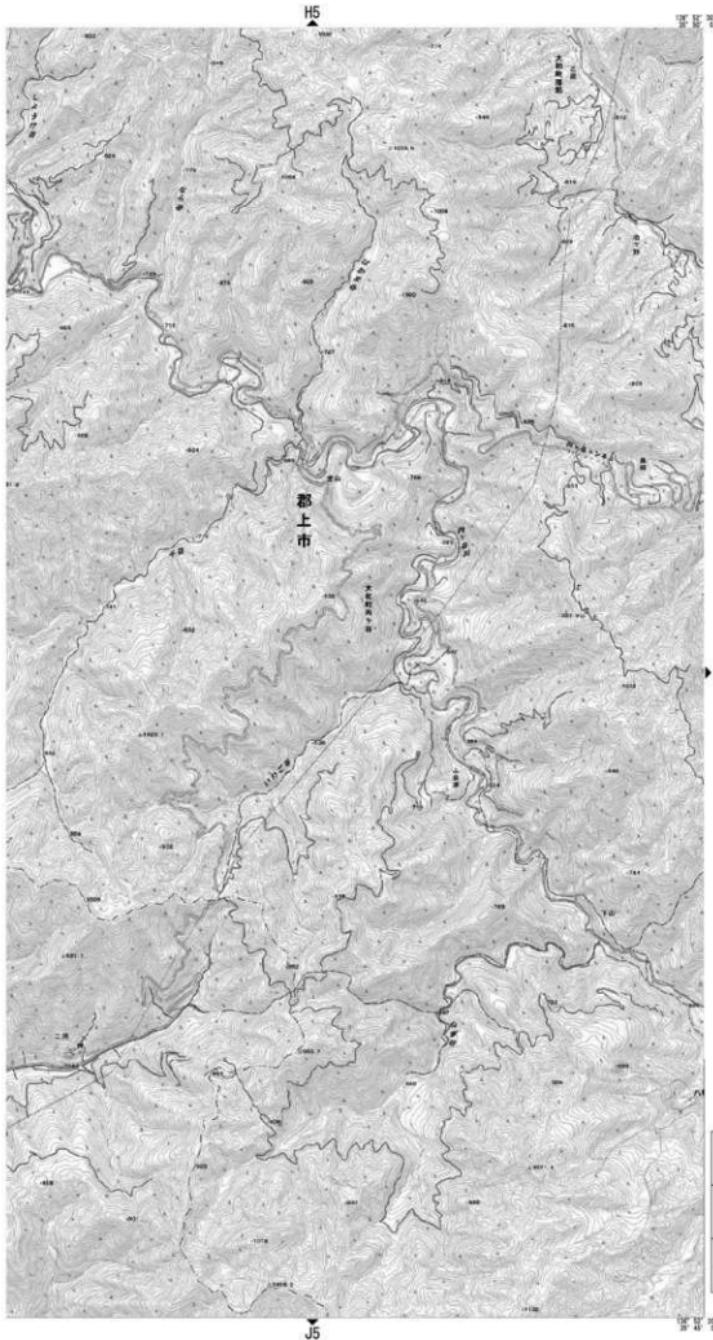
大野市

144

關市

05027 龍泉寺
寺

J5



15 門原

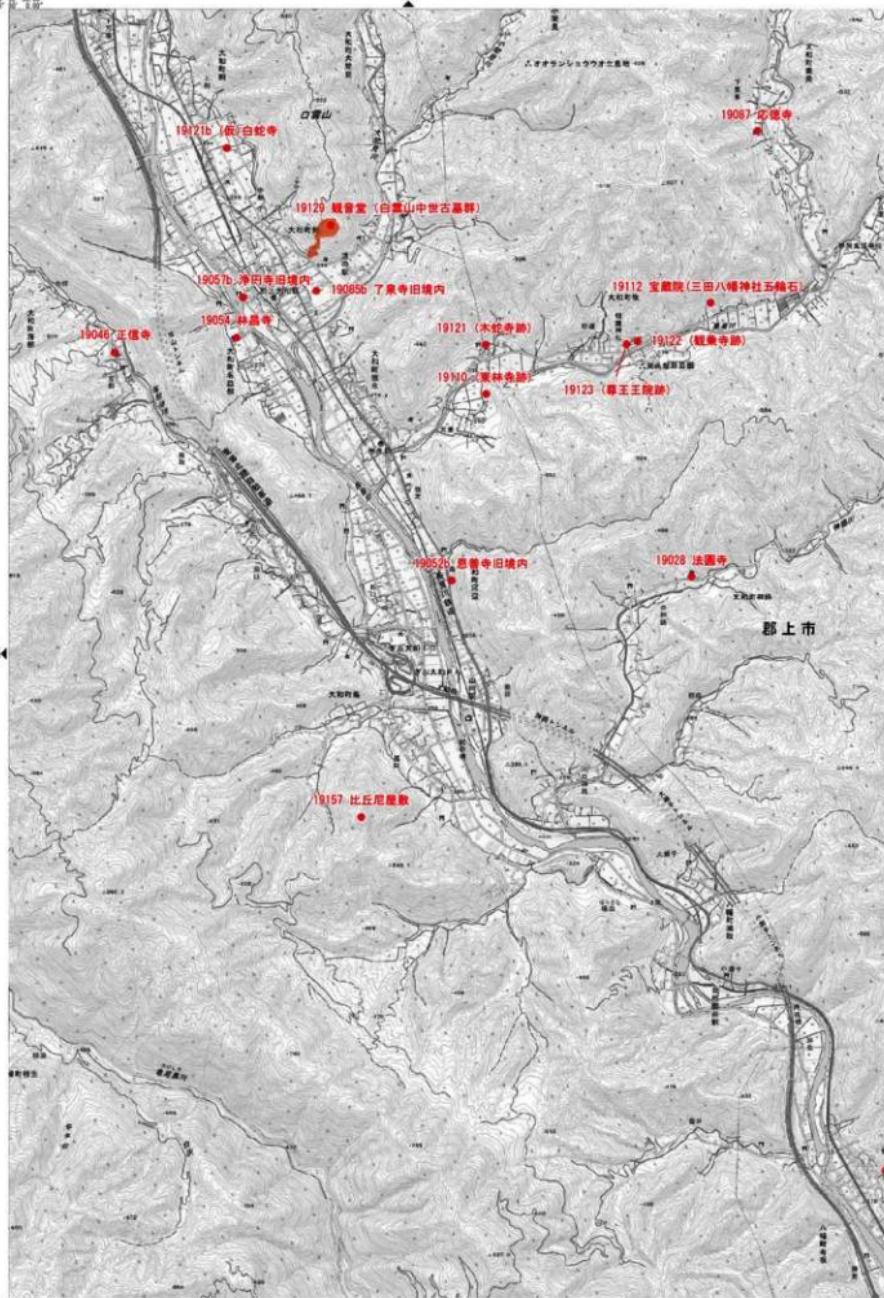
159

閔市

05027 雷雨

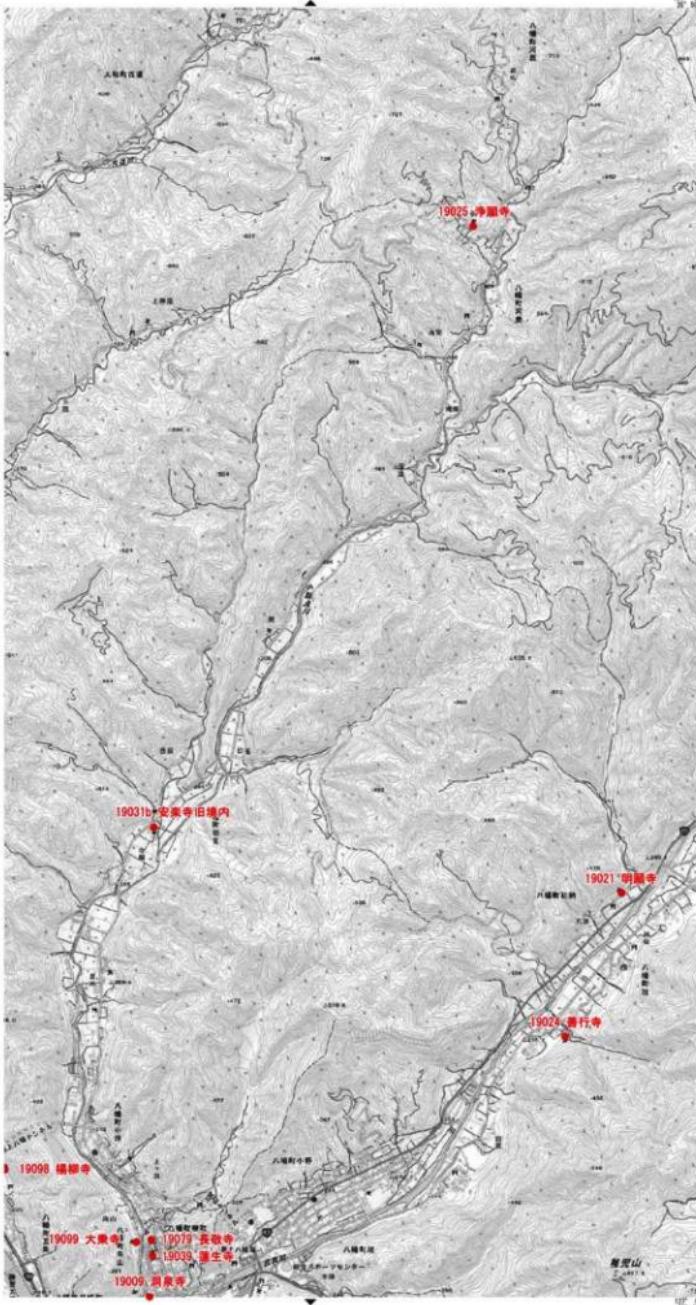
	H5 白鳥	H6 那留
I4 平家岳	I5 門原	I6 德永
J4 下大須	J5 上ヶ瀬	J6 帰上八幡

J5

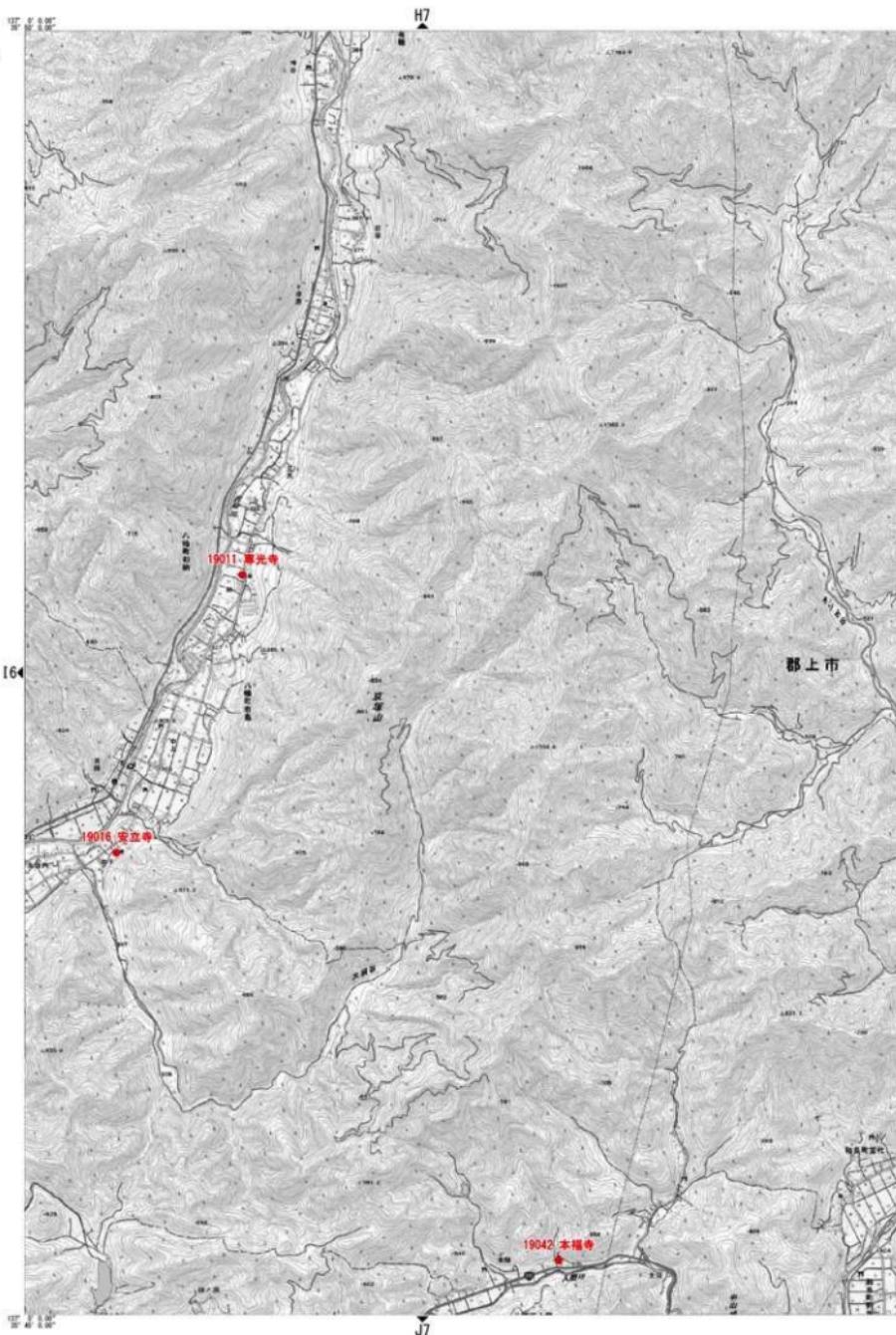


郡上市

- 19009 清泉寺
 19021 明顯寺
 19024 善行寺
 19025 淨顯寺
 19028 法圓寺
 19031b 安樂寺旧境内
 19039 蓮生寺
 19046 正信寺
 19052b 恩智寺旧境内
 19054 林昌寺
 19057b 淨門寺旧境内
 19079 真教寺
 19085b 了泉寺旧境内
 19087 志徳寺
 19098 楼櫛寺
 19099 大乗寺
 19110 (東林寺跡)
 19112 宝嚴院(三田八幡神社五輪石)
 19121 (木蛇寺跡)
 19121b (即)白蛇寺
 19122 (親教寺跡)
 19123 (尊王三院跡)
 19129 観音堂(合雲山中世古墓群)
 19157 比丘尼座敷

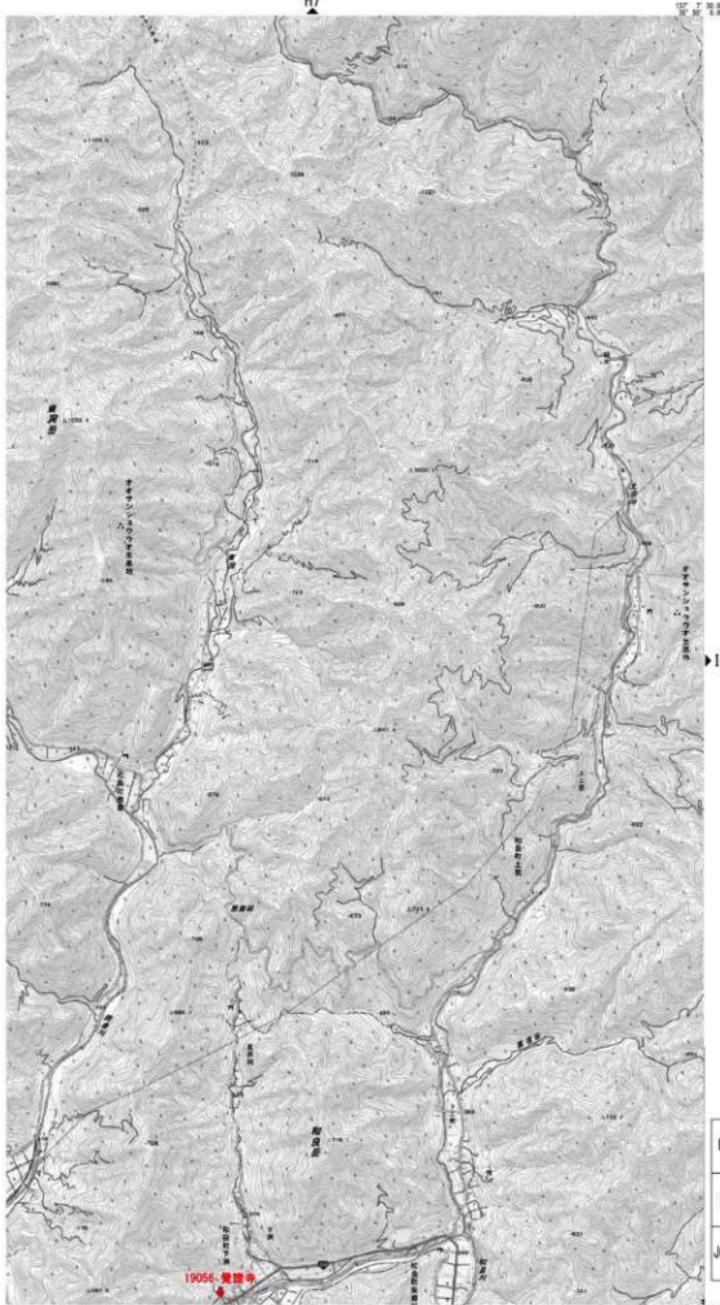


H5 白鳥	H6 那宿	H7 二間手
I5 門原	I6 德永	I7 郡上市島
J5 上ヶ瀬	J6 郡上八幡	J7 沢



郡上市

19011 専光寺
19016 安立寺
19042 本福寺
19056 楊柳寺

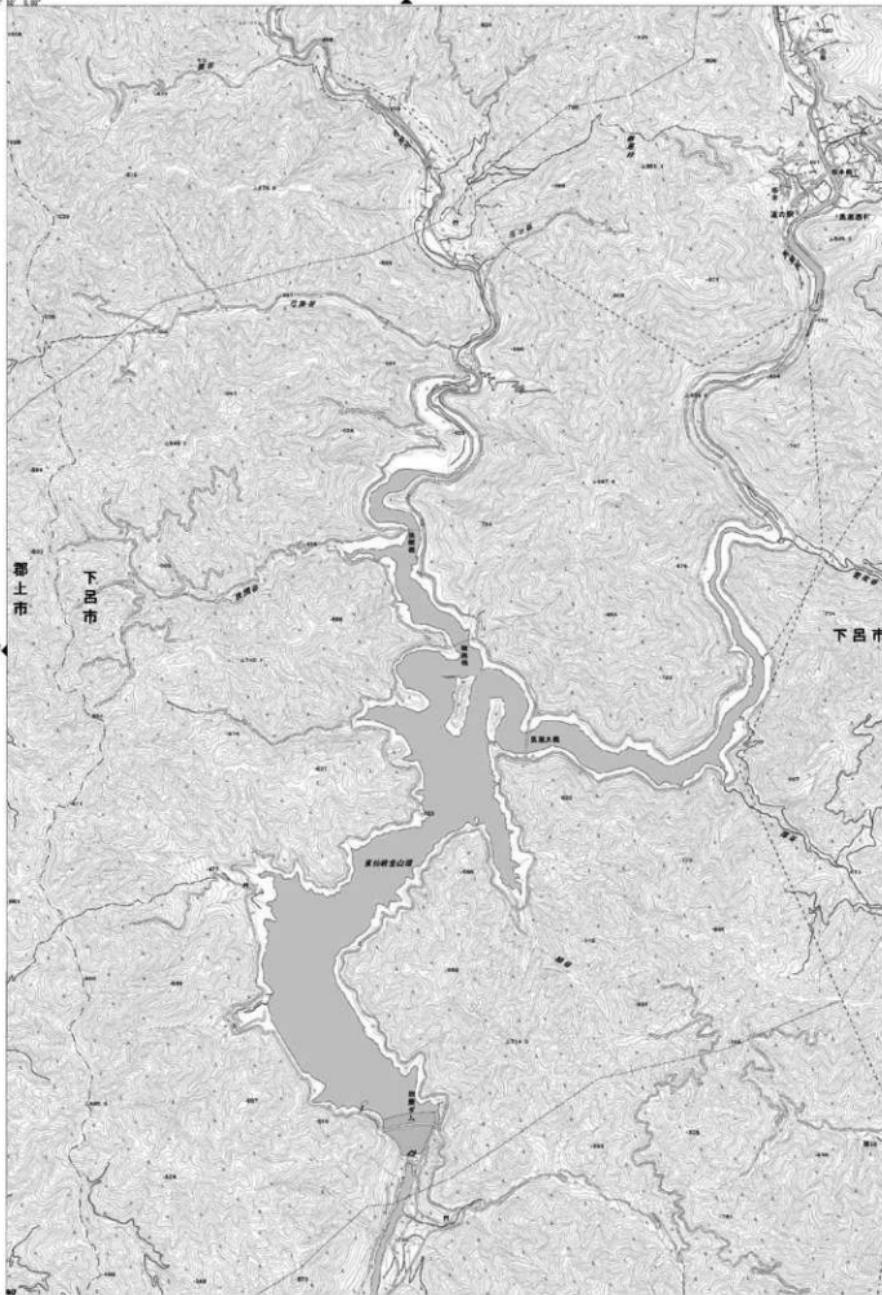


H6 那留	H7 二間手	H8 萩原
16 德永	17 郡上市島	18 下呂
J6 郡上八幡	J7 沢	J8 焼石

127° 38' 00"

164

H8



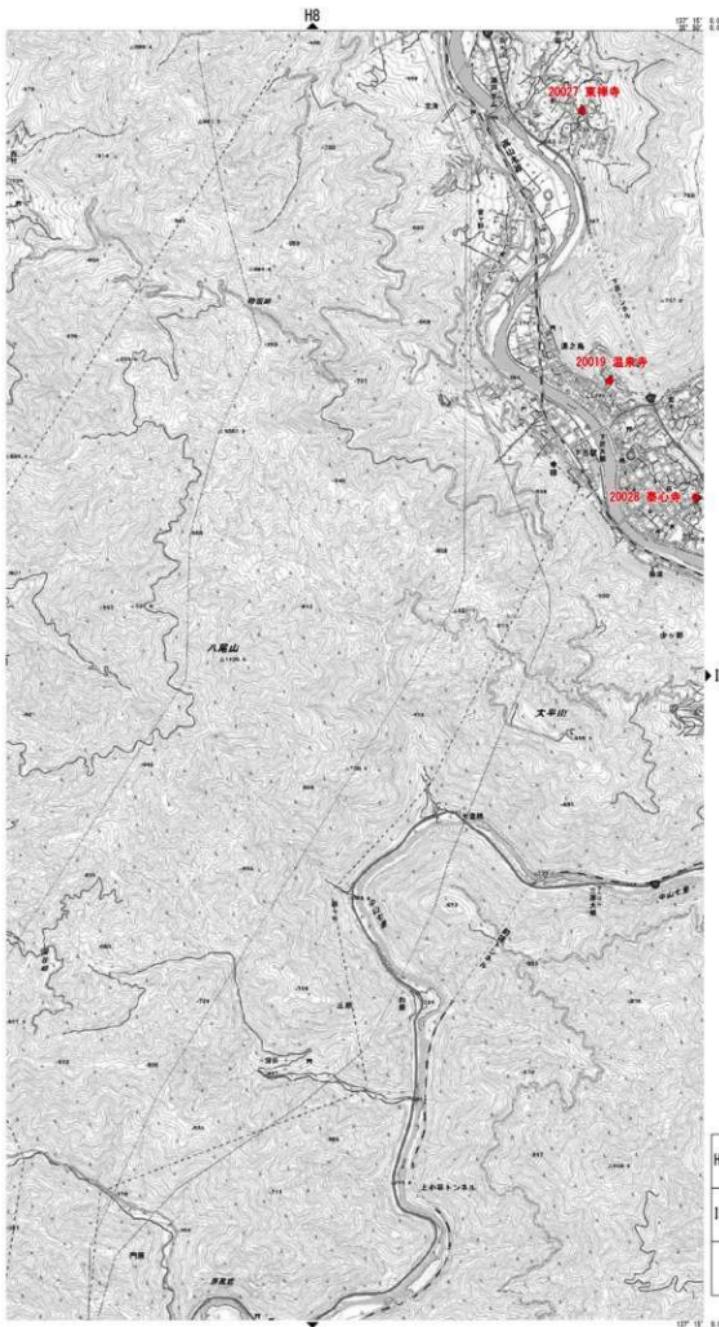
174

J8

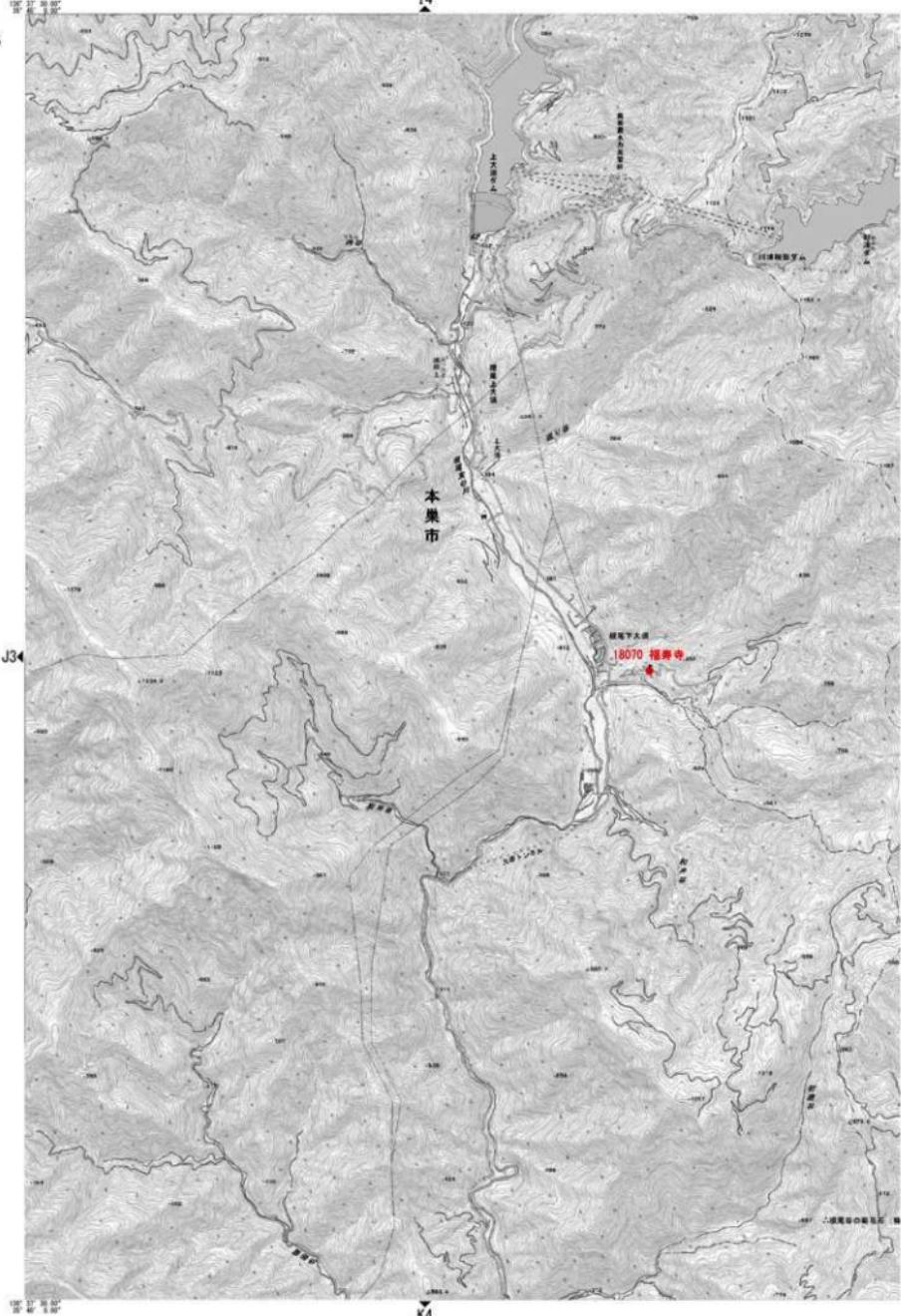
18 下呂

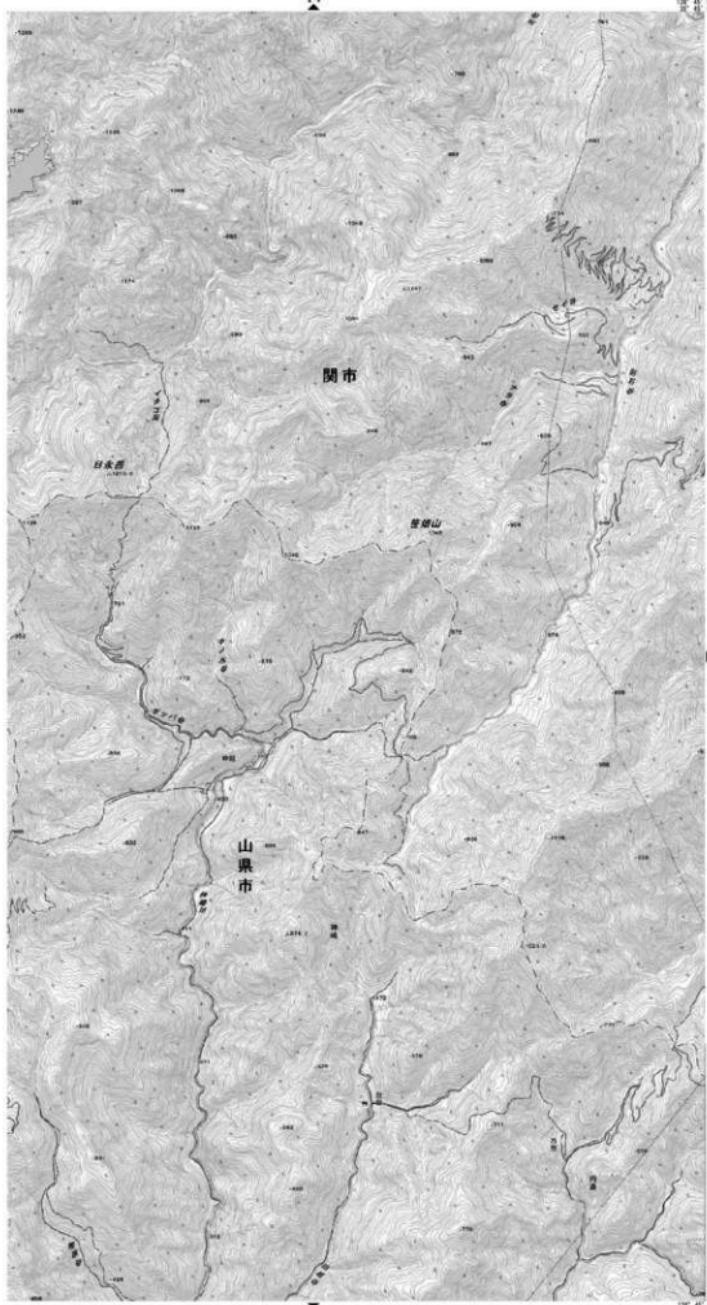
下呂市

20019 温泉寺
20027 東禅寺
20028 善心寺

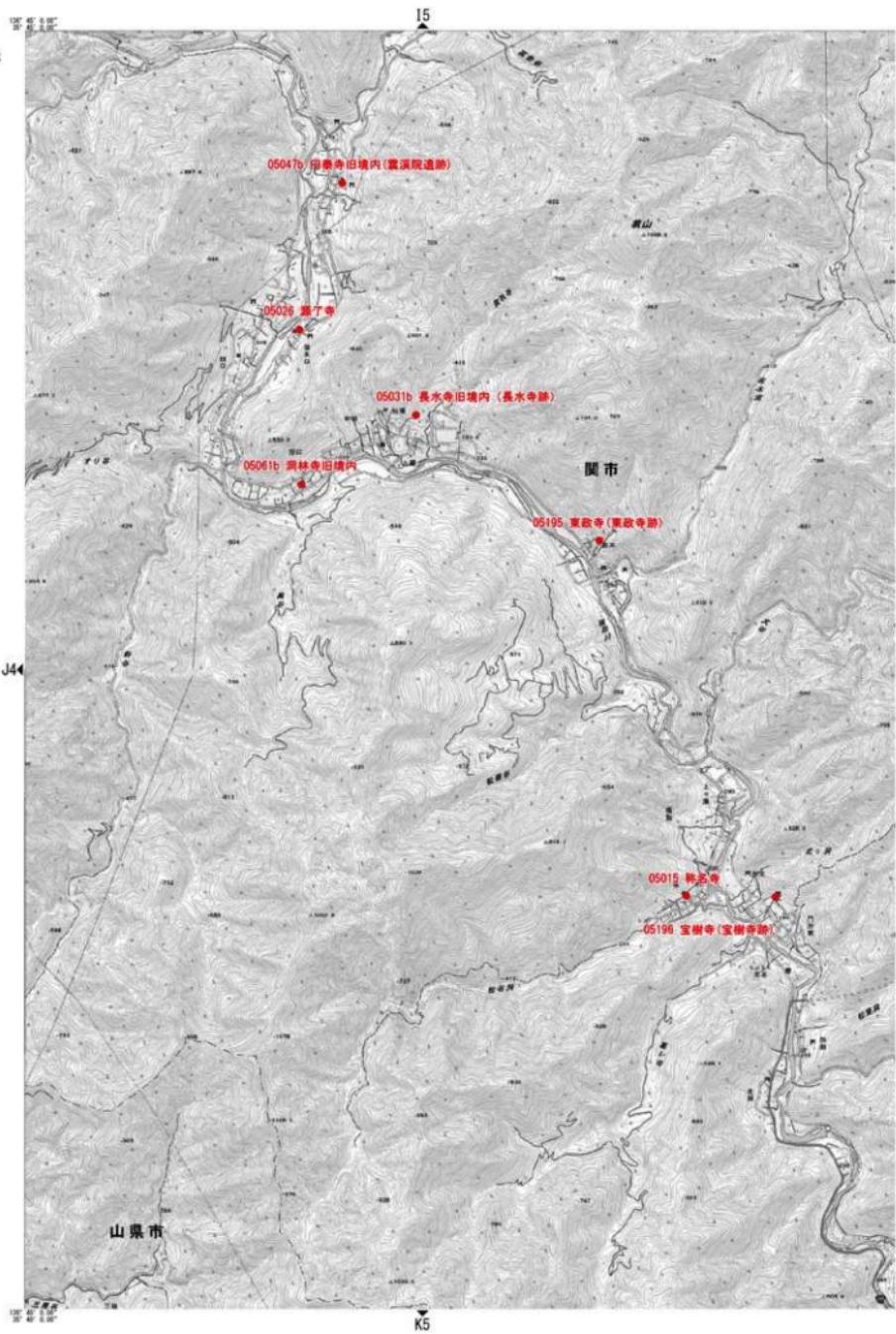


H7 二間手	H8 萩原	H9 湯屋
I7 市上市島	I8 下呂	I9 宮地
J7 沢	J8 烧石	J9 小和知





I3 能郷白山	I4 平家岳	I5 門原
J3 能郷	J4 下大須	J5 上ヶ瀬
K3 樽見	K4 谷合	K5 洞戸



J5 上ヶ瀬

関市

- 05015 那名寺
 05026 遠了寺
 05031b 長水寺旧境内（長水寺跡）
 05047b 円教寺旧境内（圓教院遺跡）
 05051b 洞林寺旧境内
 05195 東教寺（東教寺跡）
 05196 宝樹寺（宝樹寺跡）

郡上市

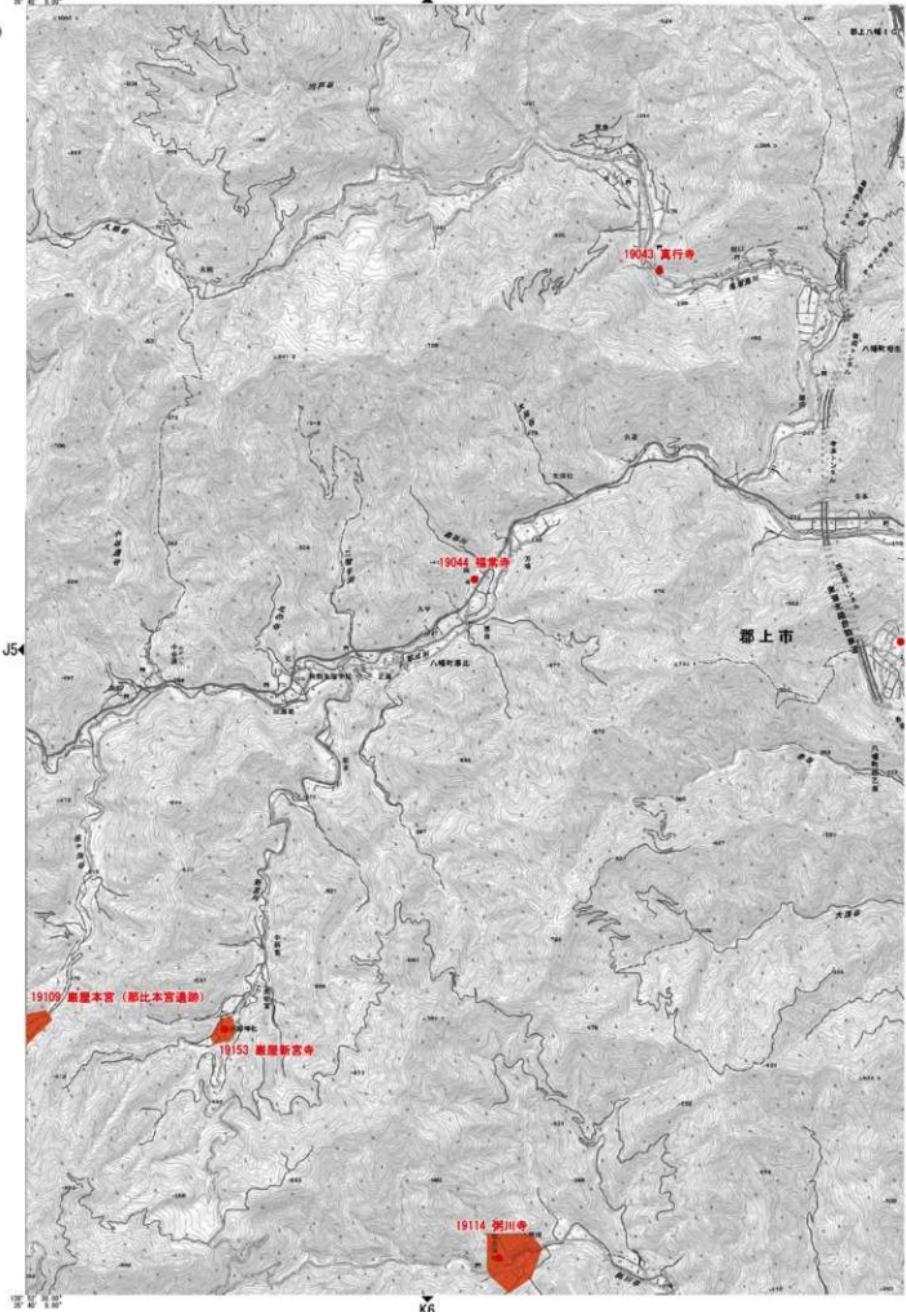
- 19109 延歷本宮（那比本宮遺跡）

J6

郡上市

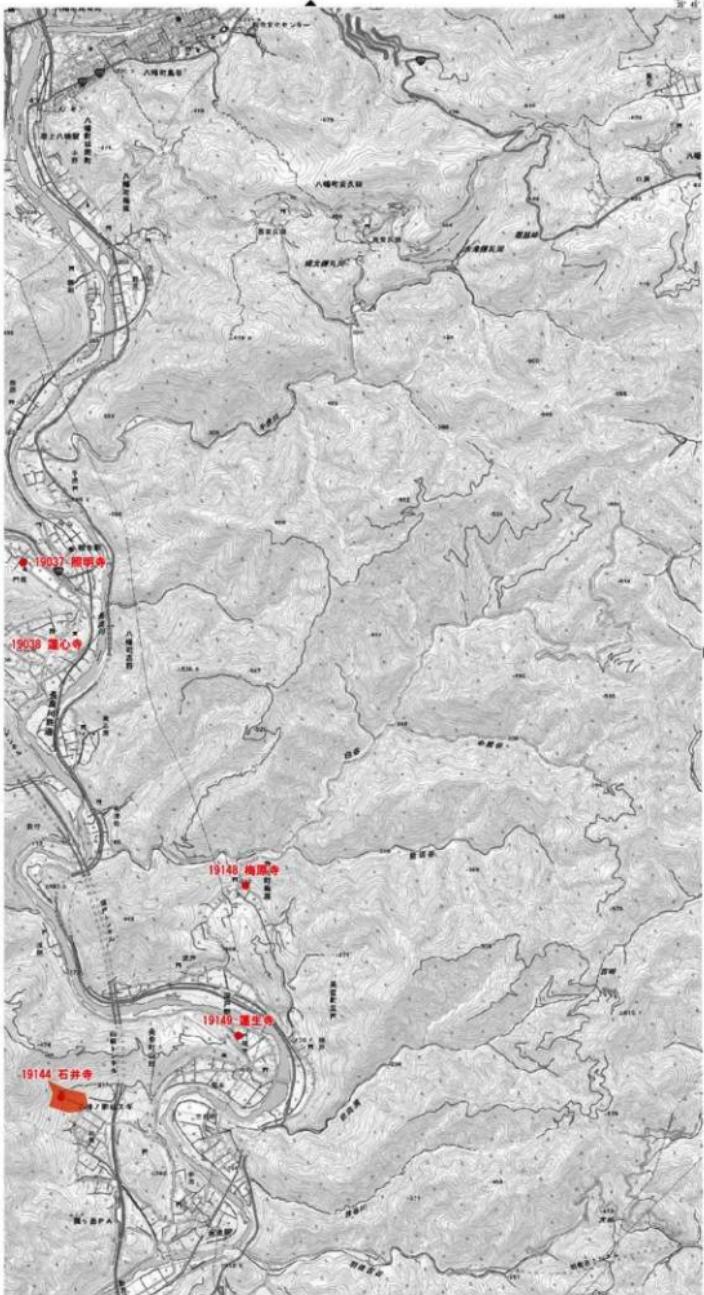
19109 延歷本宮（那比本宮遺跡）

I4 平家岳	I5 門原	I6 德永
J4 下大須	J5 上ヶ瀬	J6 郡上八幡
K4 谷合	K5 洞戸	K6 芦安



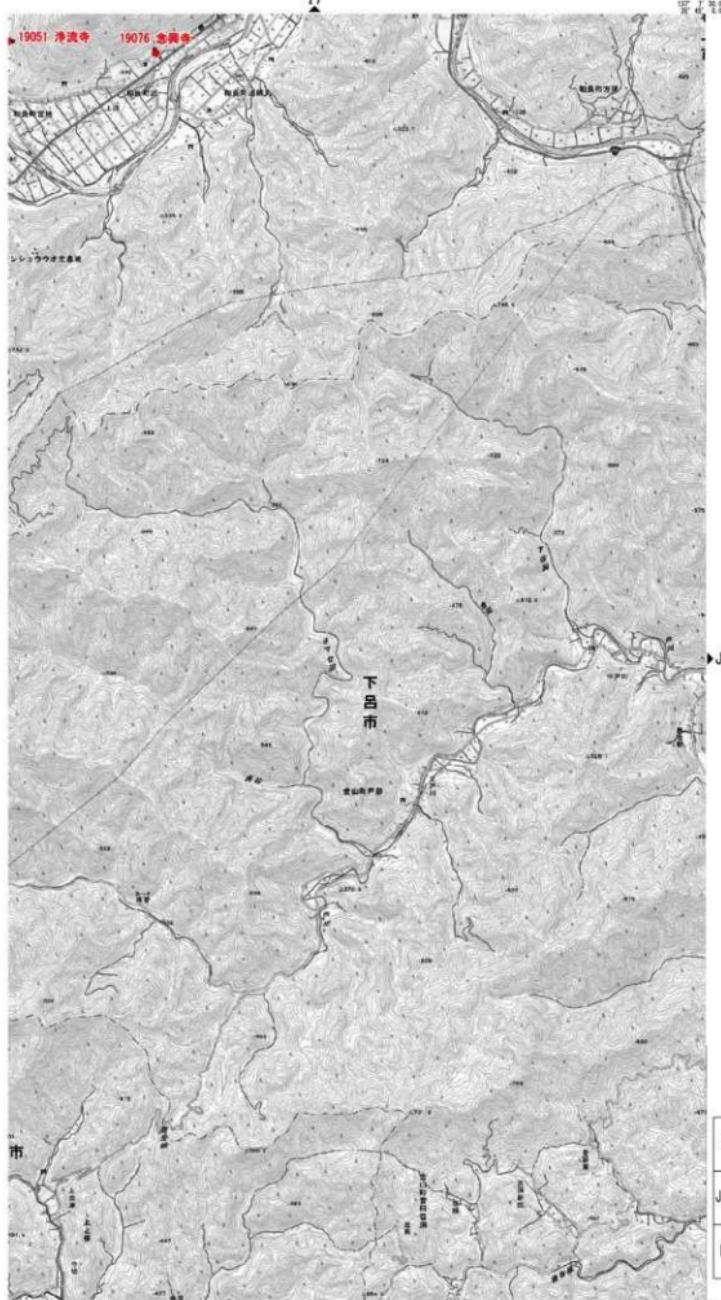
郡上市

- 19037 法明寺
 19038 蓮心寺
 19043 真行寺
 19044 稲葉寺
 19109 鹿屋本宮（那比本宮遺跡）
 19114 須川寺
 19144 石井寺
 19149 蓮生寺
 19153 鹿屋新宮寺



I5 門原	I6 徳永	I7 郡上市島
J5 上ヶ瀬	J6 郡上八幡	J7 沢
K5 洞戸	K6 莉安	K7 上之保

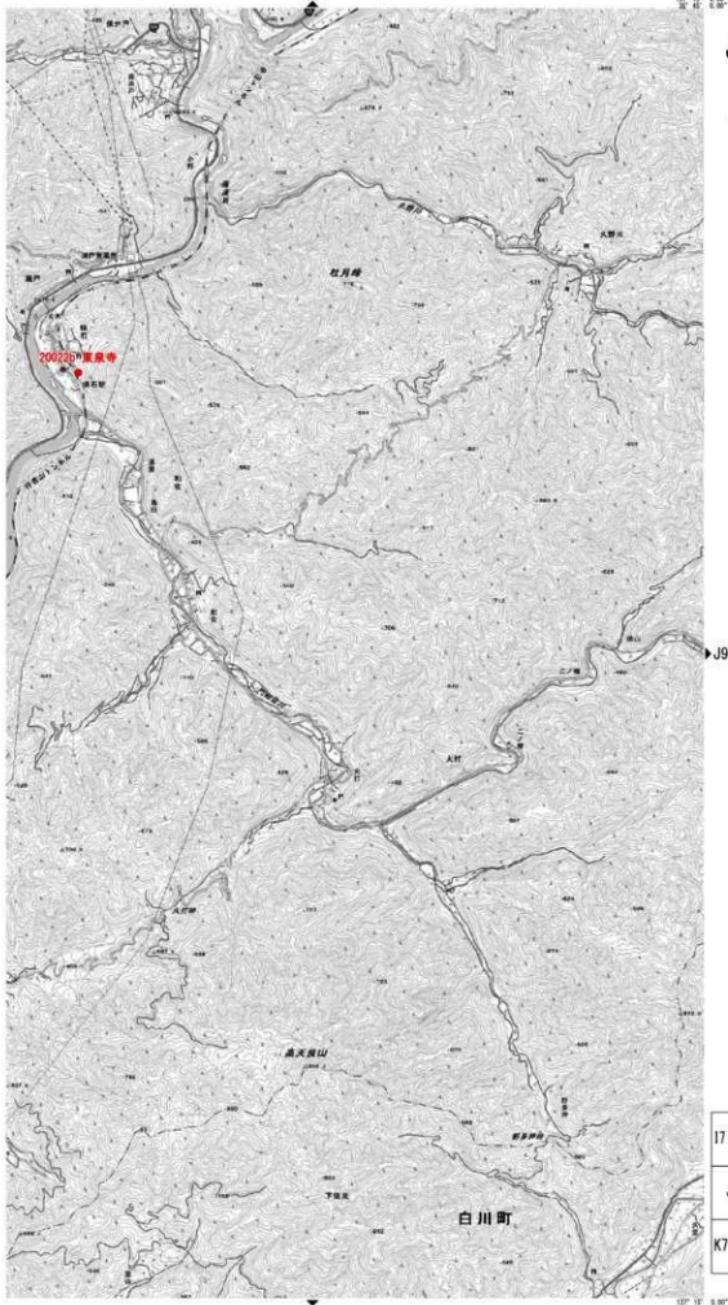






下呂市

20018 万福寺
20022b 東泉寺
20023 玉龍寺
20067 宗授院(下切遺跡)



I7 市上市島	I8 下呂	I9 宮地
J7 沢	J8 焼石	J9 小和知
K7 上之保	K8 金山	K9 神土



東白川村

40012 岩舟千棘堂

中津川市

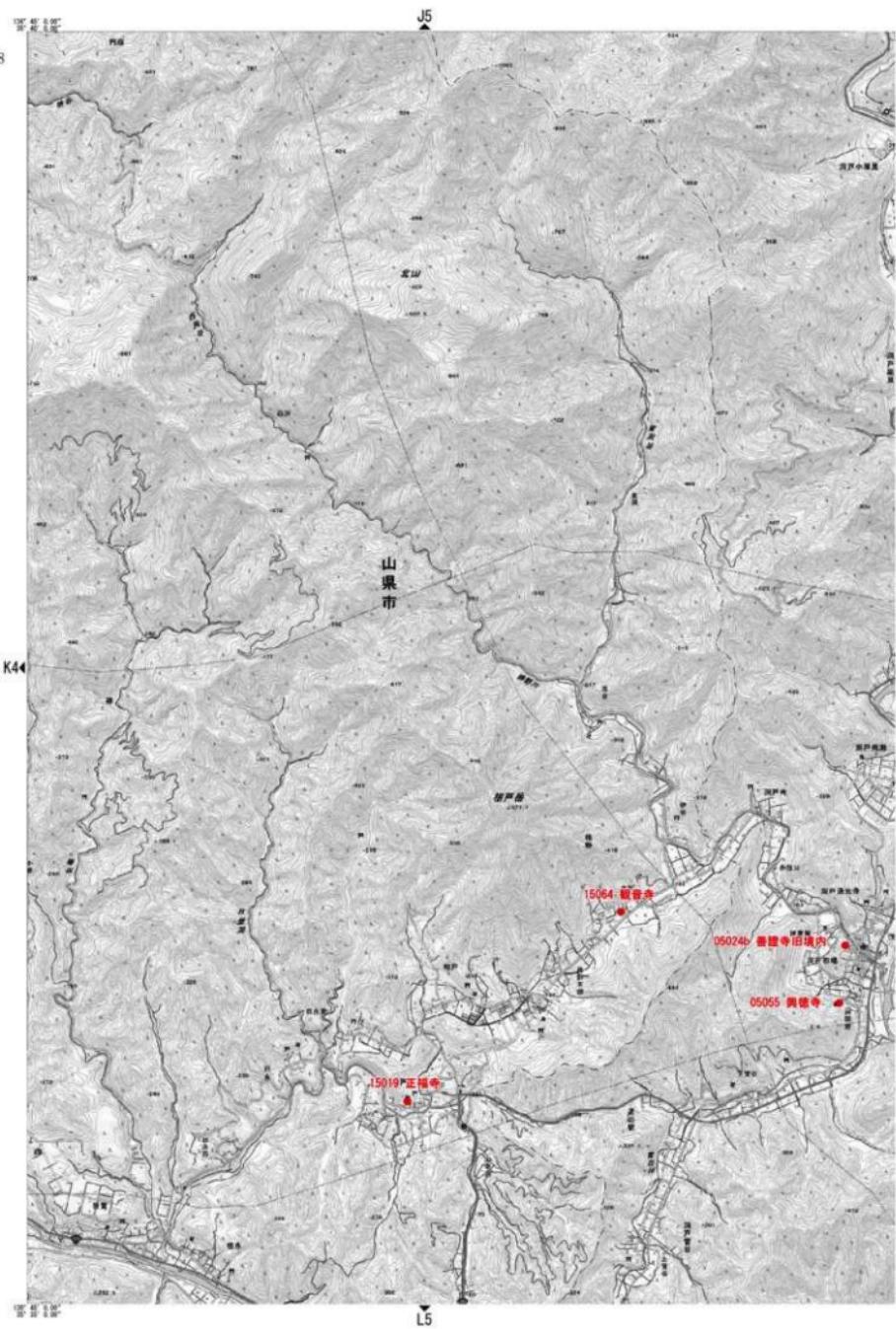
J10

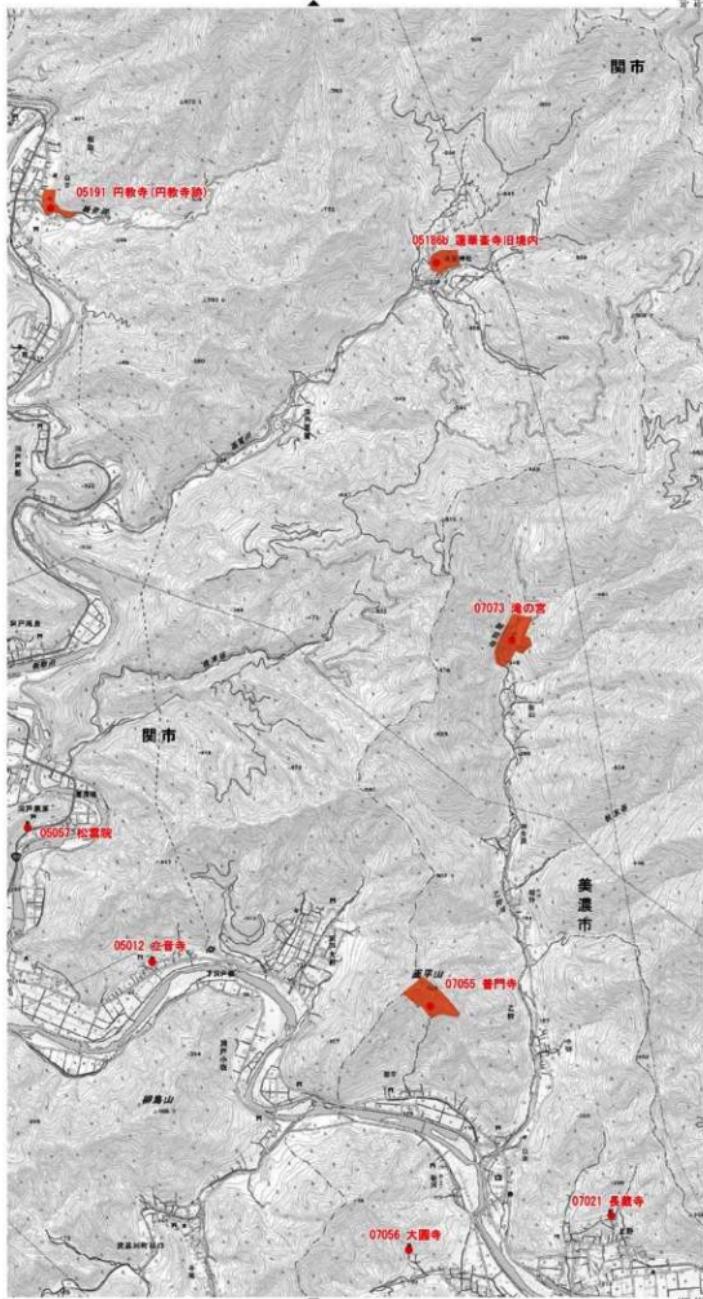
東白川村

40012 岩舟千棘堂

K9

I8 下呂	I9 宮地	I10 滝越
J8 烧石	J9 小和知	J10 加子母
K8 金山	K9 神土	K10 付知





関市

- 05012 立音寺
05024 善昌寺旧境内
05057 般門寺
05057 松雲院
05188 蓮華寺旧境内
05191 円教寺(円教寺跡)

美濃市

- 07021 長慶寺
07055 善門寺
07056 大圓寺
07073 流の宮

山県市

- 15019 正福寺
15064 鏡音寺

K6

J4 下大須	J5 上ヶ瀬	J6 茅上八幡
K4 谷合	K5 洞戸	K6 莉安
L4 美濃神海	L5 岩佐	L6 美濃

180

J6

郡上
市今瀬ヶ岳
2,100m郡上
市

K5

美濃
市

19092 河東寺

07074 龍王桜現

07014 長院

07032 須原院

07012 久昌院

L6

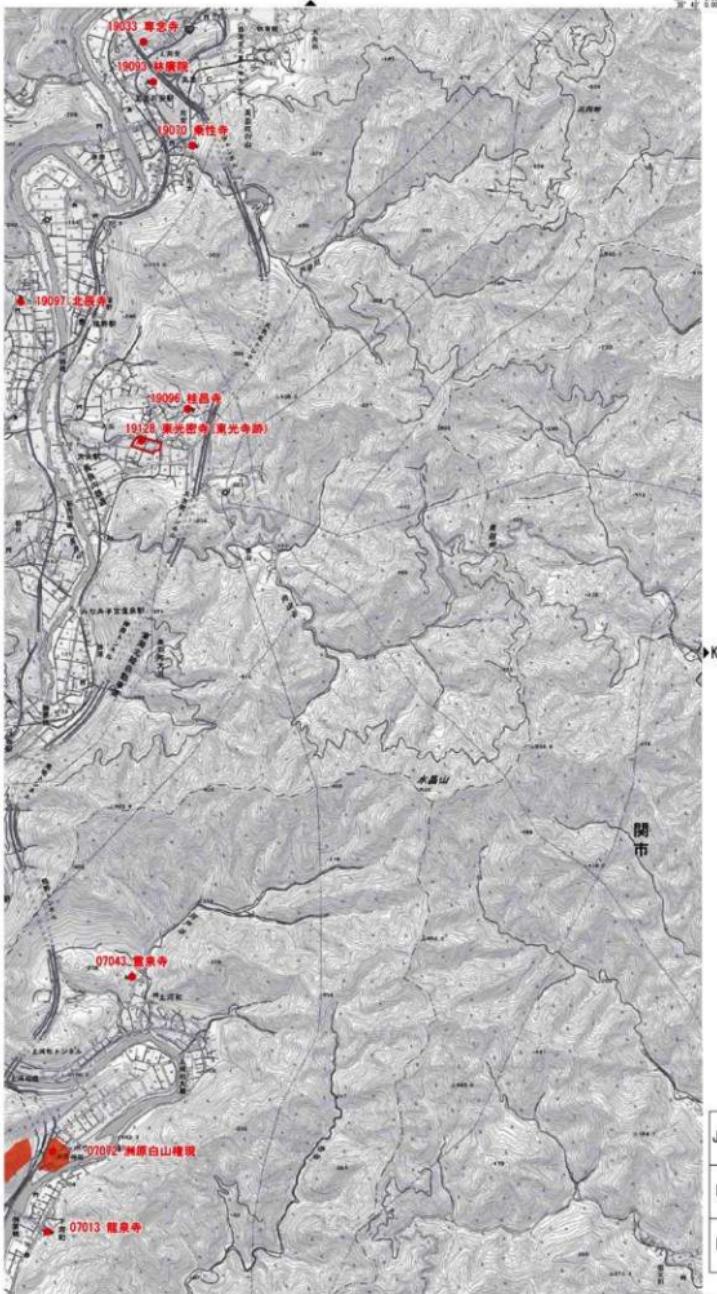
K6 莊安

美濃市

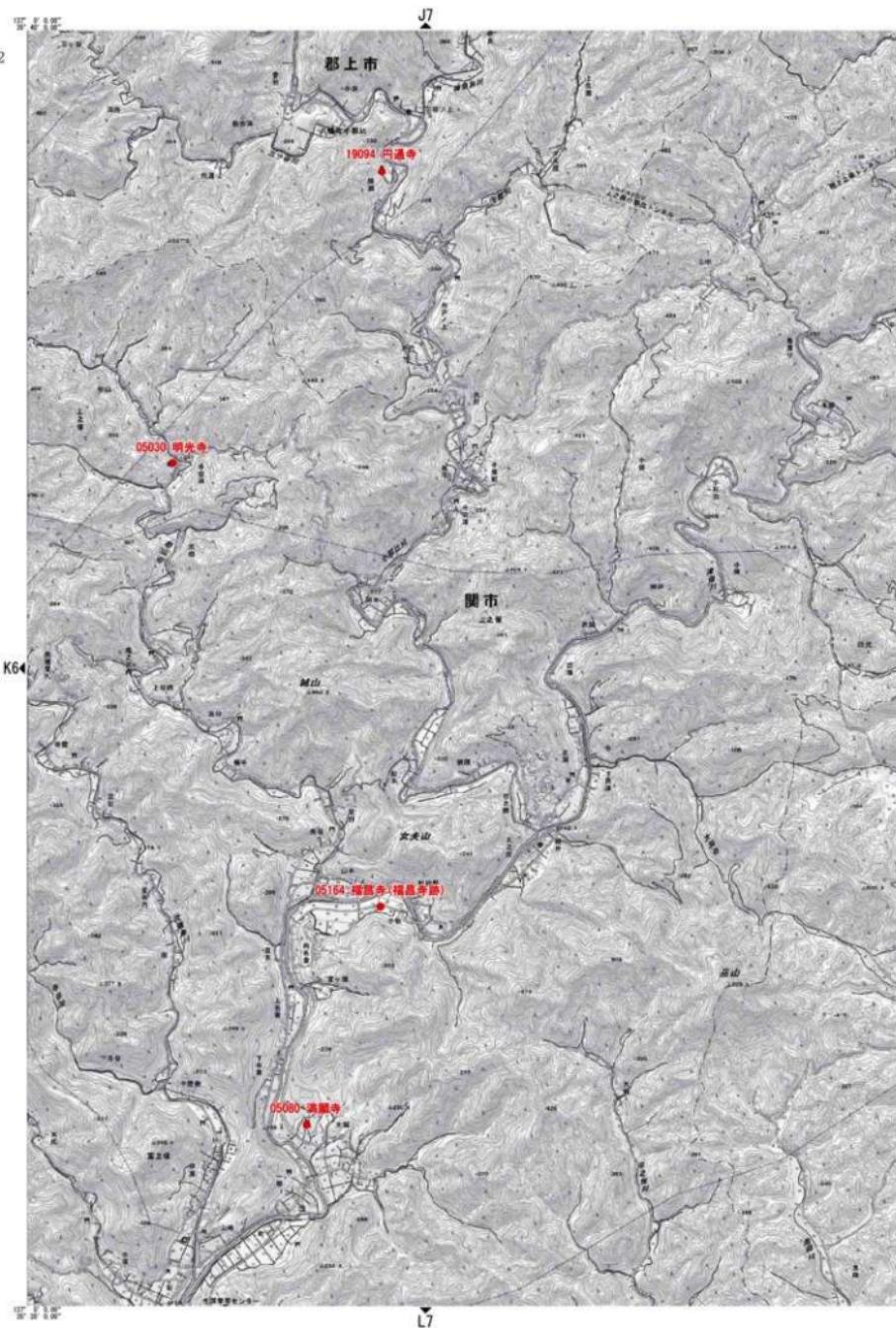
- 07012 久昌院
07013 駿良寺
07014 嶺長院
07032 緑屋院
07043 露泉寺
07072 洲原白山權現
07074 嶺王權現

郡上市

- 19033 寒意寺
19070 楽性寺
19092 淵泉寺
19093 林廣院
19096 杜昌寺
19097 北辰寺
19128 東光密寺(東光寺跡)



J5 上ヶ瀬	J6 萩上八幡	J7 沢
K5 洞戸	K6 莊安	K7 上之保
L5 岩佐	L6 美濃	L7 上麻生



関市

05030 明光寺
05080 満願寺
05164 福昌寺(福昌寺跡)

郡上市

19094 円通寺

七宗町

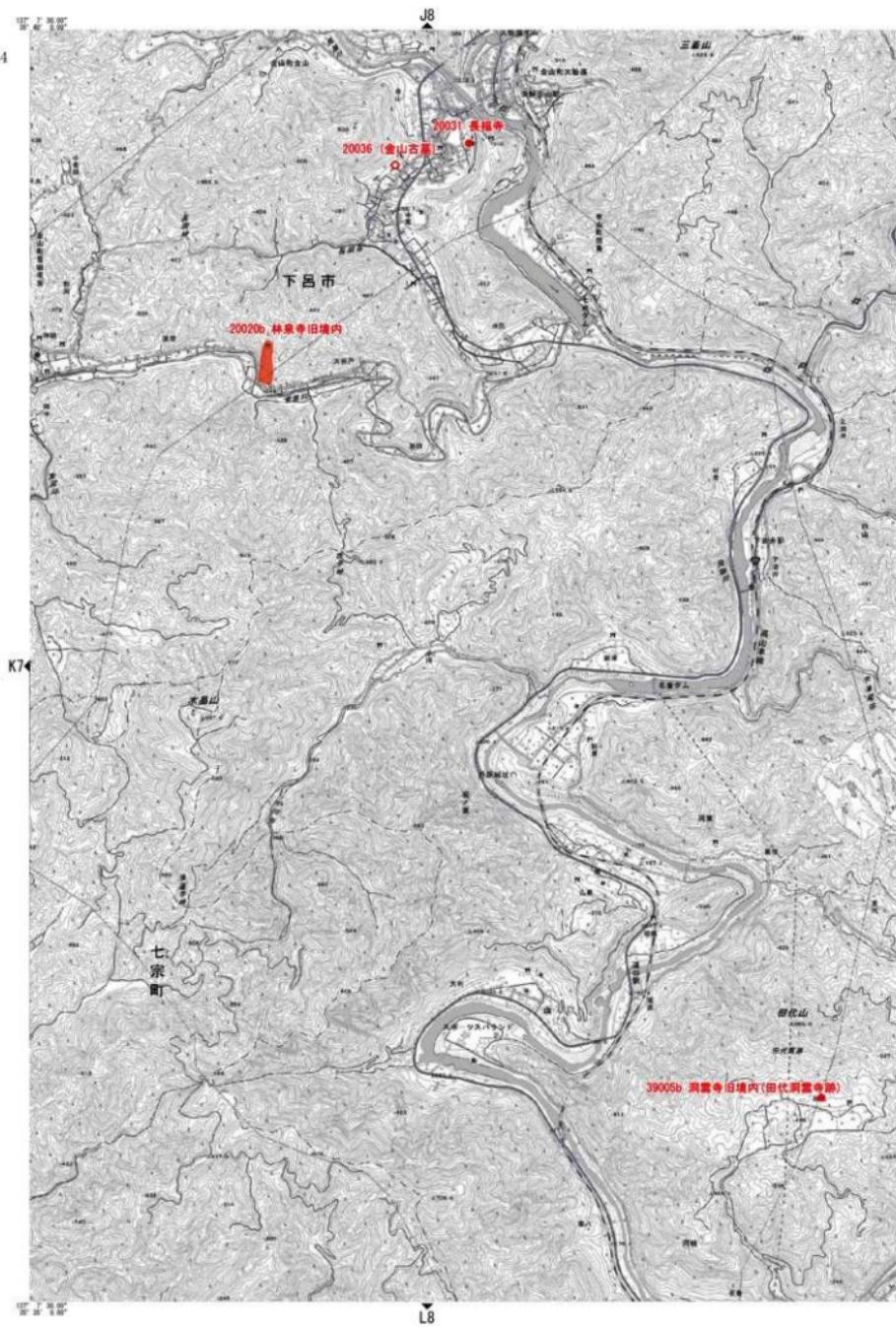
37010 慶恩院
37014 神源神社奥の院

七宗町

37010 慶恩院

37014 神源神社奥の院

J6 墓上八幡	J7 沢	J8 焼石
K6 莉安	K7 上之保	K8 金山
L6 美濃	L7 上麻生	L8 河岐



K8 金山

下呂市

2002b 林泉寺旧境内

20031 長福寺

20036 (金山古墓)

白川町

39005b 洞雲寺旧境内(田代洞雲寺跡)

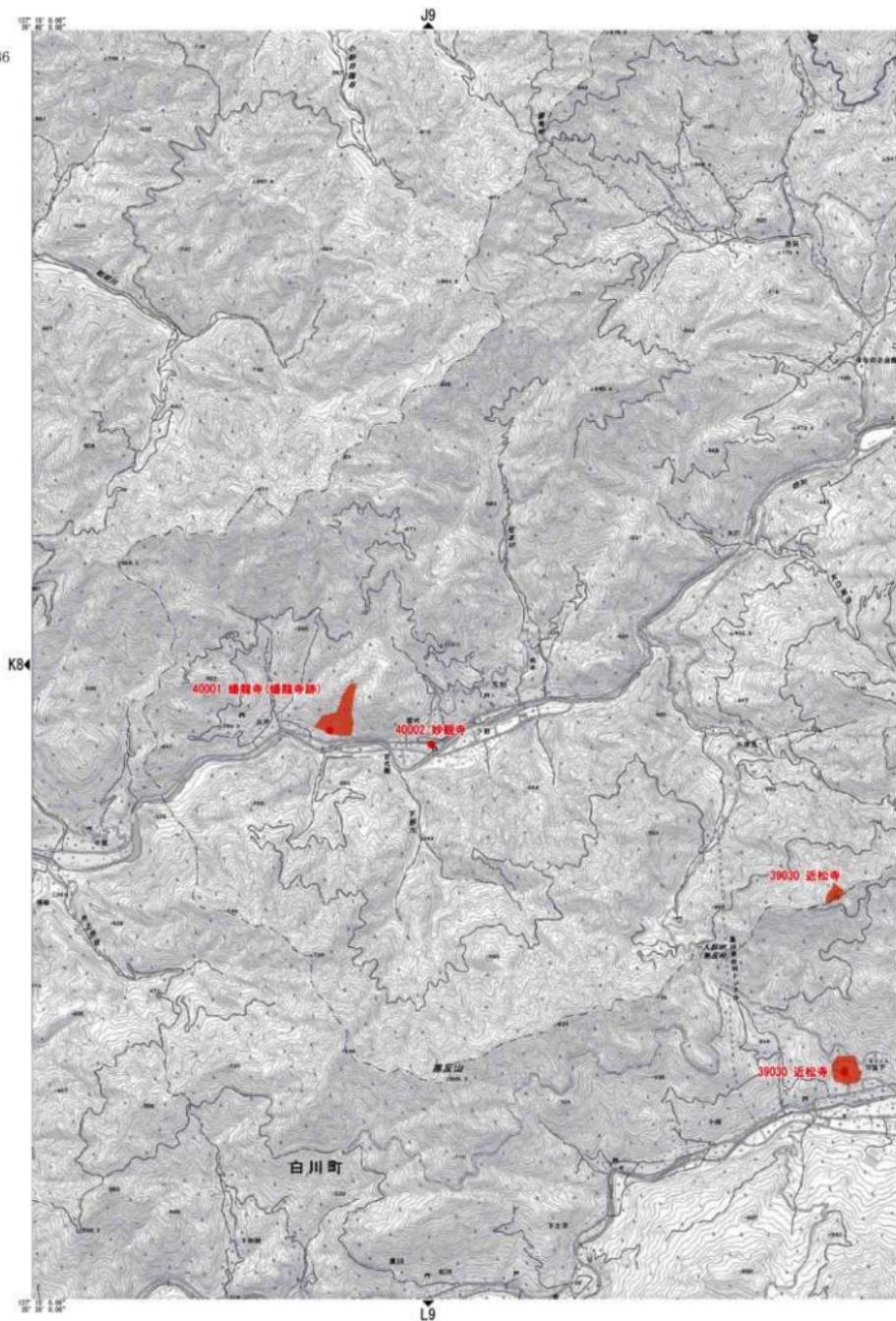
39013 室松寺

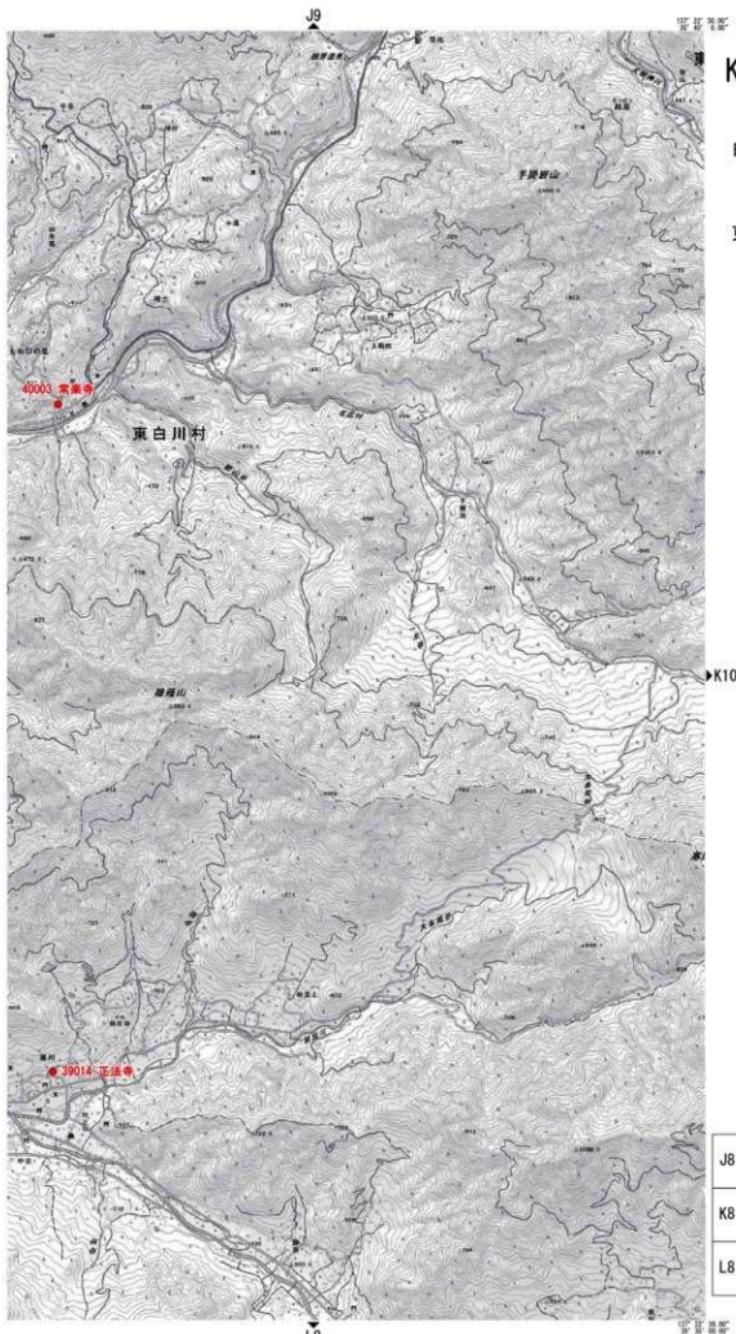
39020 大山白山権現

白川町

39020 大山白山権現

J7 沢	J8 烧石	J9 小和知
K7 上之保	K8 金山	K9 神土
L7 上麻生	L8 河岐	L9 切井





K9 神土

187

白川町

39014 正法寺
39030 近松寺

東白川村

40001 織田寺(織田寺跡)
40002 妙教寺
40003 常樂寺

K10

J8 烧石	J9 小和知	J10 加子母
K8 金山	K9 神土	K10 付知
L8 河岐	L9 切井	L10 美濃福岡

L9

東白川村

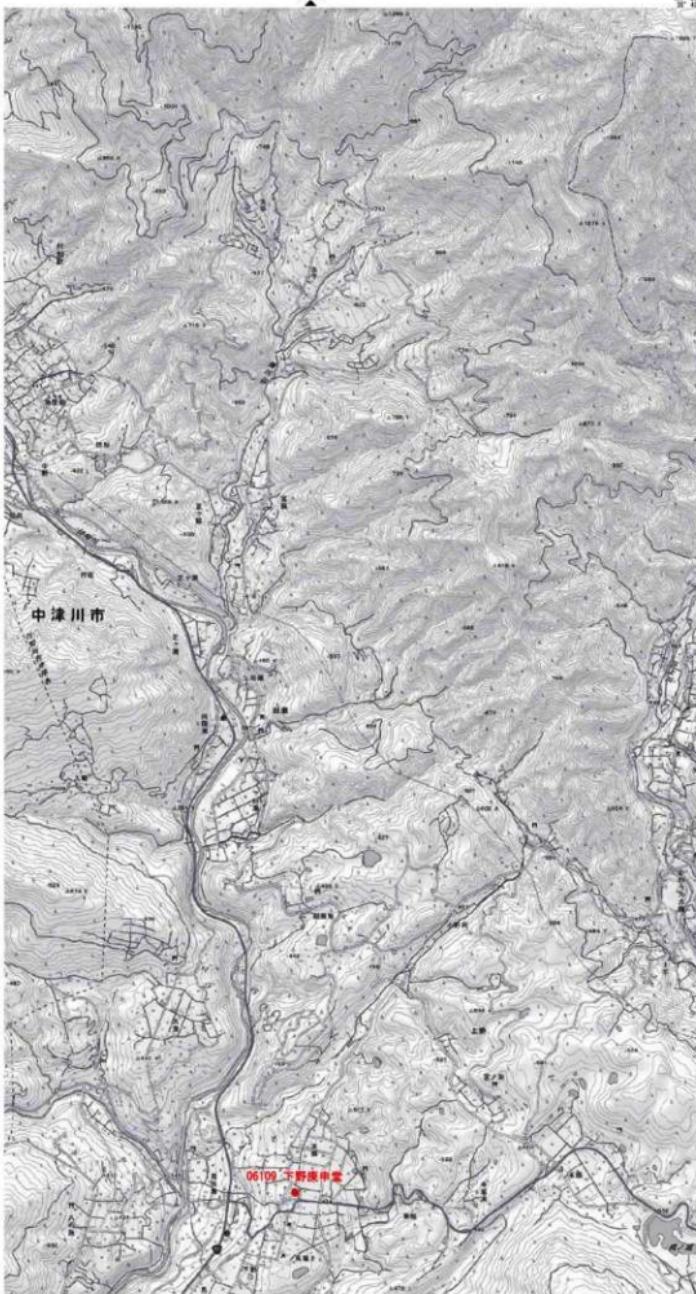
06014b: 京敷寺旧境内(寺伝遺跡)

06004b: 實心寺(寺山遺跡)

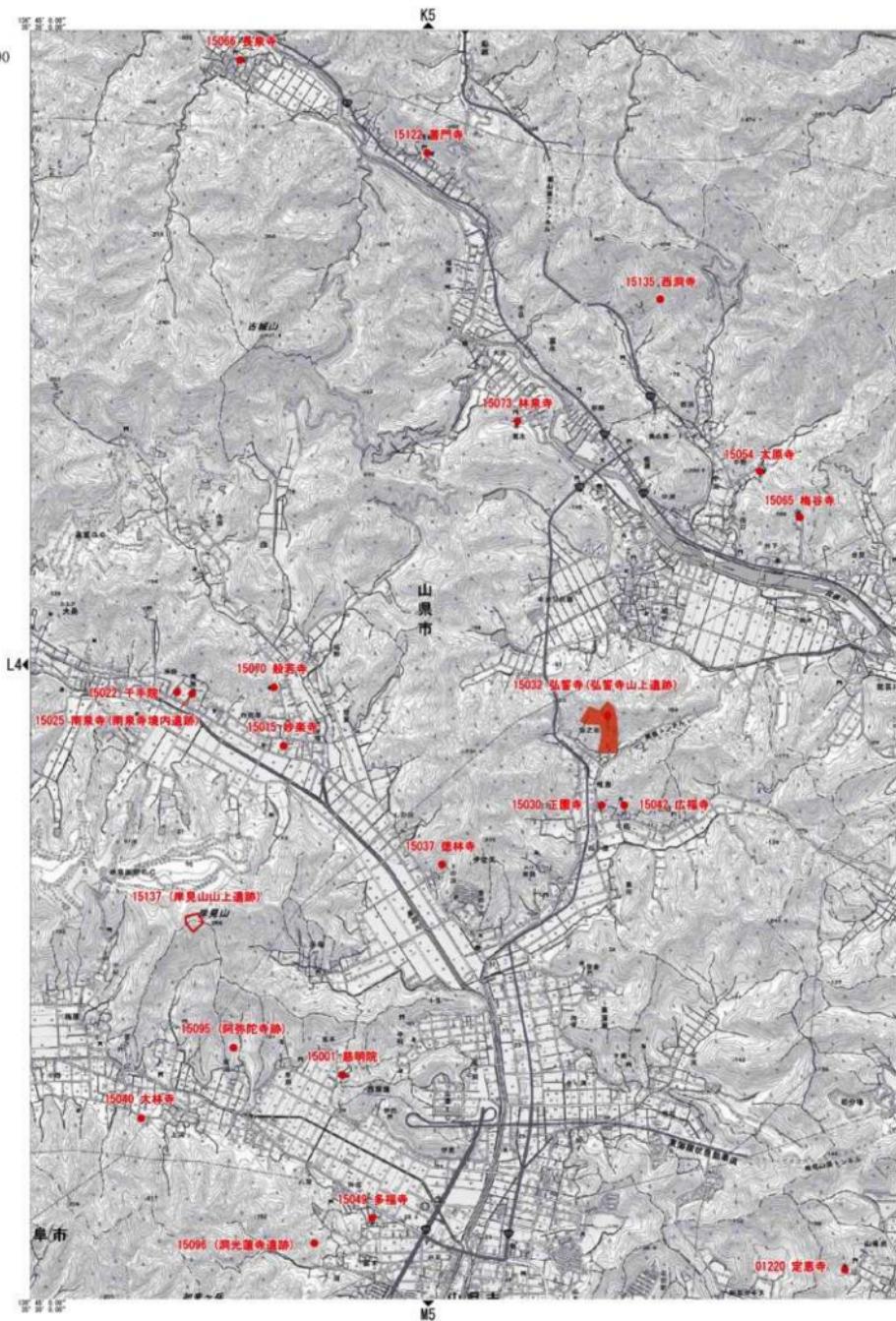
K10 付知

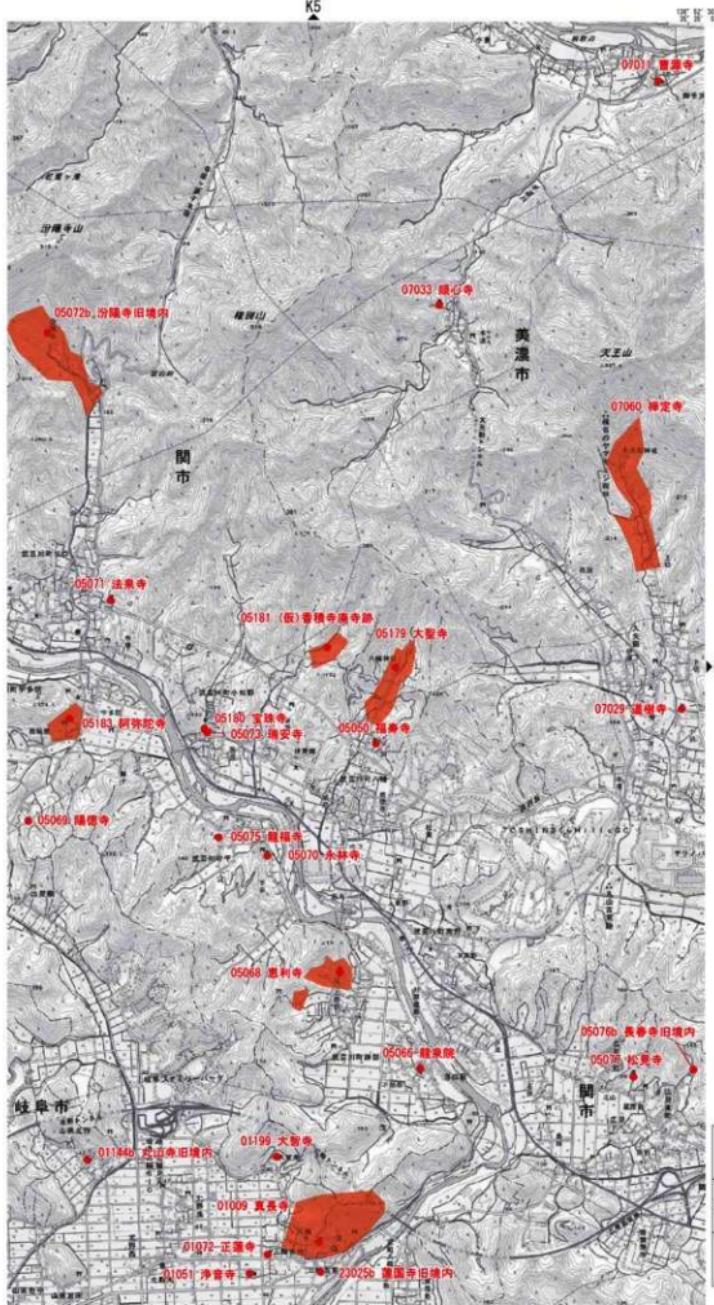
中津川市

060046 賀心寺(寺山遺跡)
 060140 宗教寺旧境内(寺塲遺跡)
 06109 下野庚申堂

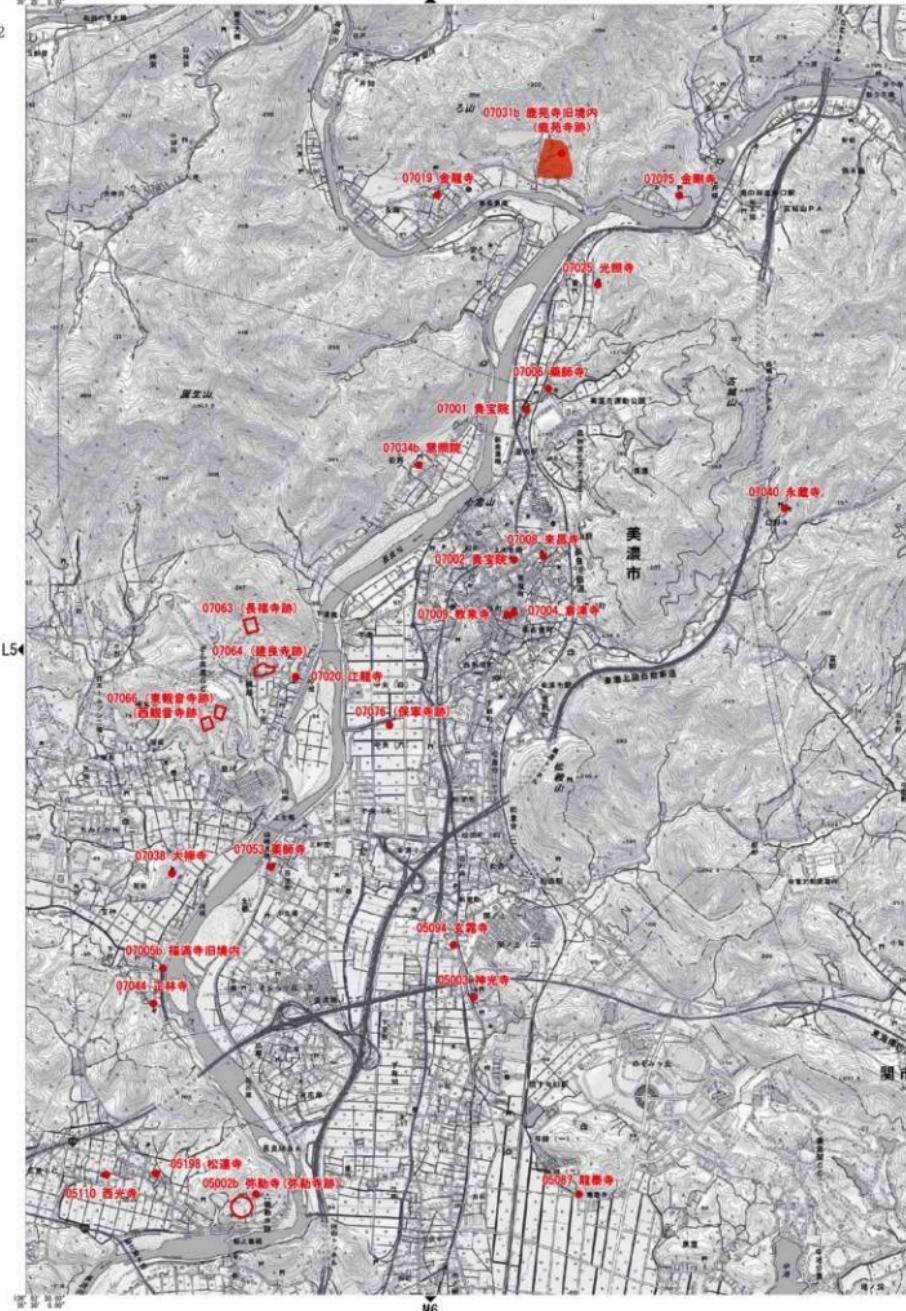


J9 小和知	J10 加子母	J11 奥三界岳
K9 神土	K10 付知	K11 三苦野
L9 切井	L10 美濃福岡	L11 妻籠





K4 谷合	K5 洞戸	K6 芥安
L4 美濃神海	L5 岩佐	L6 美濃
M4 北方	M5 岐阜北部	M6 美濃関



関市

- 05002b 弥勒寺(弥勒寺跡)
 05003 神光寺
 05004 日龍峰寺
 05005 林正寺
 05008 香林寺
 05037b 吉祥寺旧境内
 05040 大神寺
 05044 雲松寺
 05053 阿彌陀寺
 05063 觀音寺
 05085 常樂寺
 05087 駿泰寺
 05094 玄露寺
 05098 德嚴寺
 05110 西光寺
 05112 宝泉寺
 05158 (坊地度寺跡)
 05198 松道寺

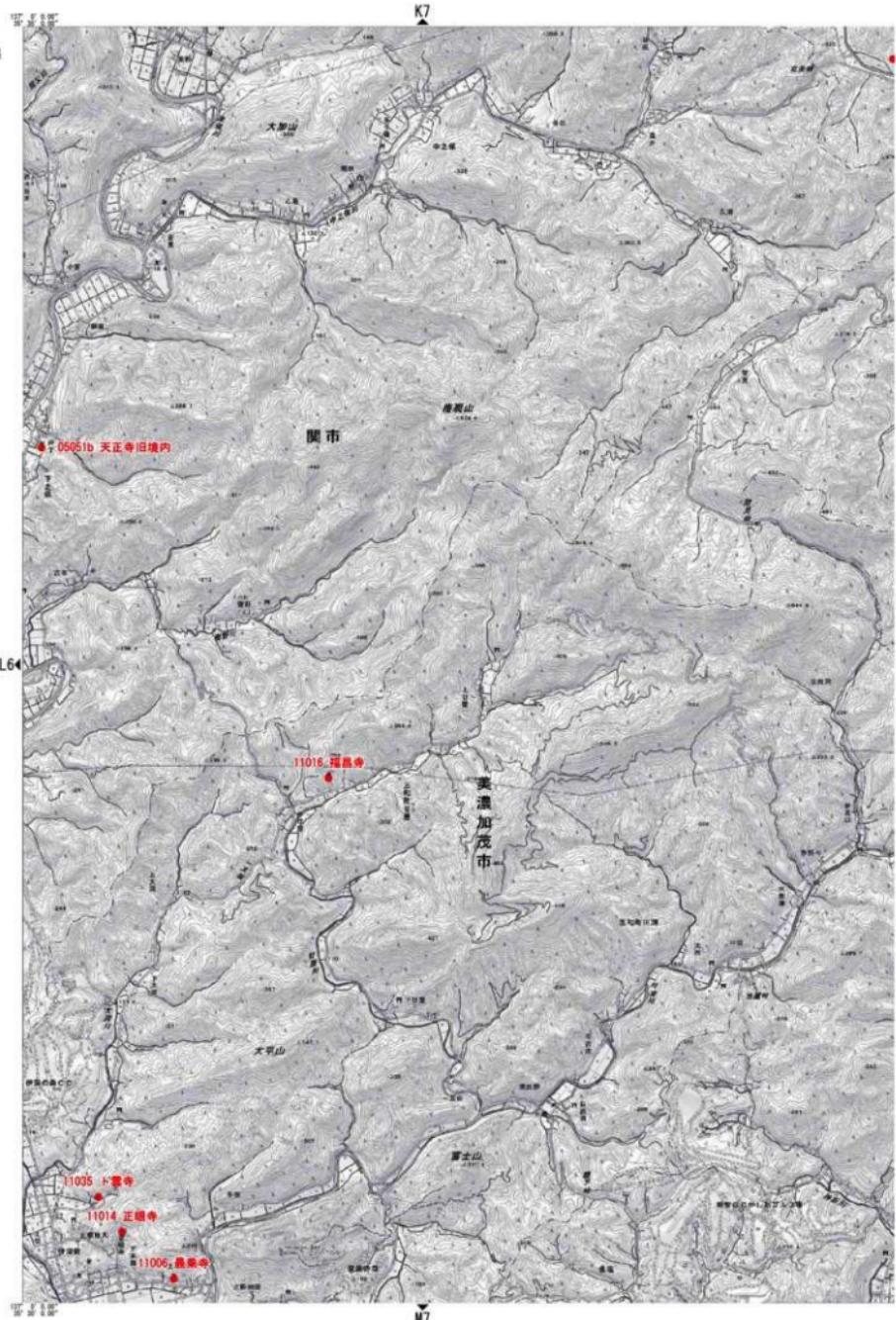
美濃市

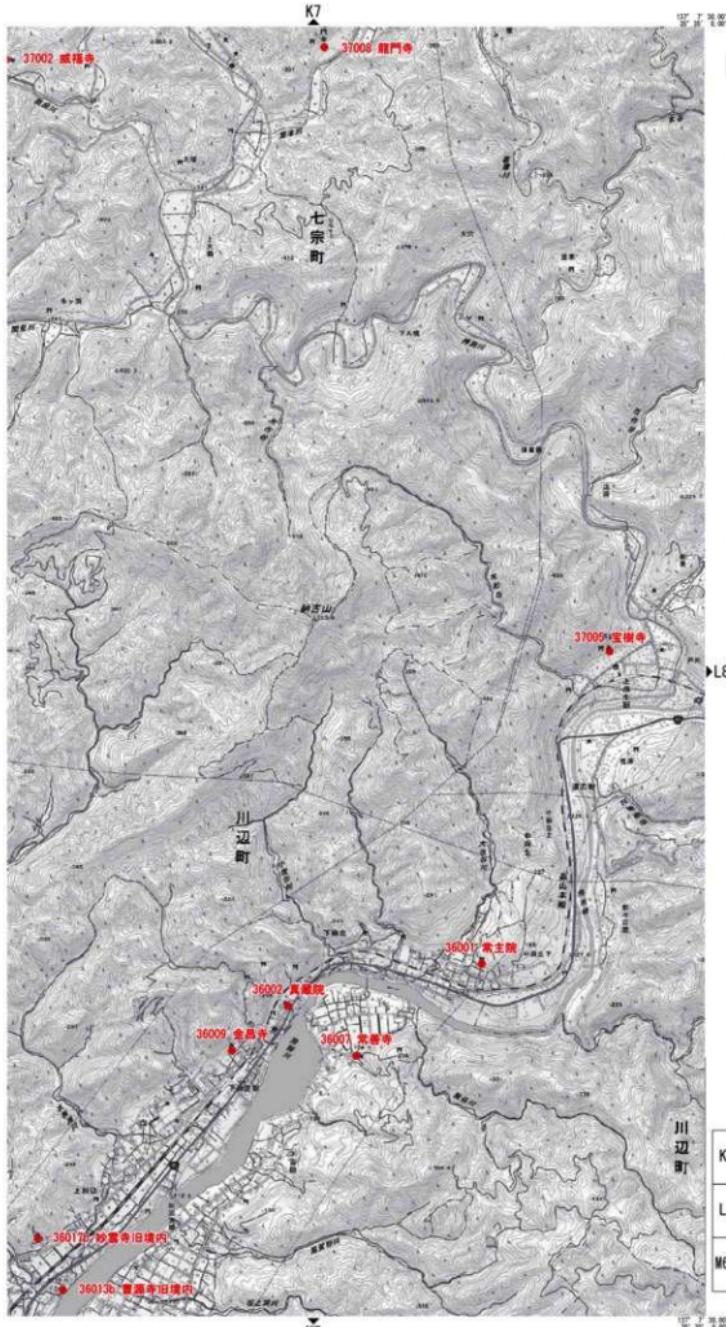
- 07001 黃寶院
 07002 黃寶院
 07004 売澤寺
 07005b 福滿寺旧境内
 07006 麋勝寺
 07008 来昌寺
 07009 敦泉寺
 07119 金龍寺
 07020 江龍寺
 07025 光照寺
 07031b 鹿頭院旧境内
 07034b 麋頭院旧境内
 07038 大神寺
 07040 永嚴寺
 07044 正林寺
 07052 麋勝寺
 07063 (長福寺跡)
 07064 (建良寺跡)
 07065 (東觀音寺跡)(西觀音寺跡)
 07075 金剛寺
 07076 (保寧寺跡)

富加町

- 35008 智勝院
 35012 東香寺

K5 洞戸	K6 茄安	K7 上之保
L5 岩佐	L6 美濃	L7 上麻生
M5 岐阜北部	M6 美濃関	M7 美濃加茂





L7 上麻生

195

関市

05051b 天正寺旧境内

美濃加茂市

11008 龍乘寺

11014 正眼寺

11016 福昌寺

11035 卜雲寺

川辺町

36001 常主院

36002 真趣院

36007 常善寺

36009 金昌寺

36013b 曹溪寺旧境内

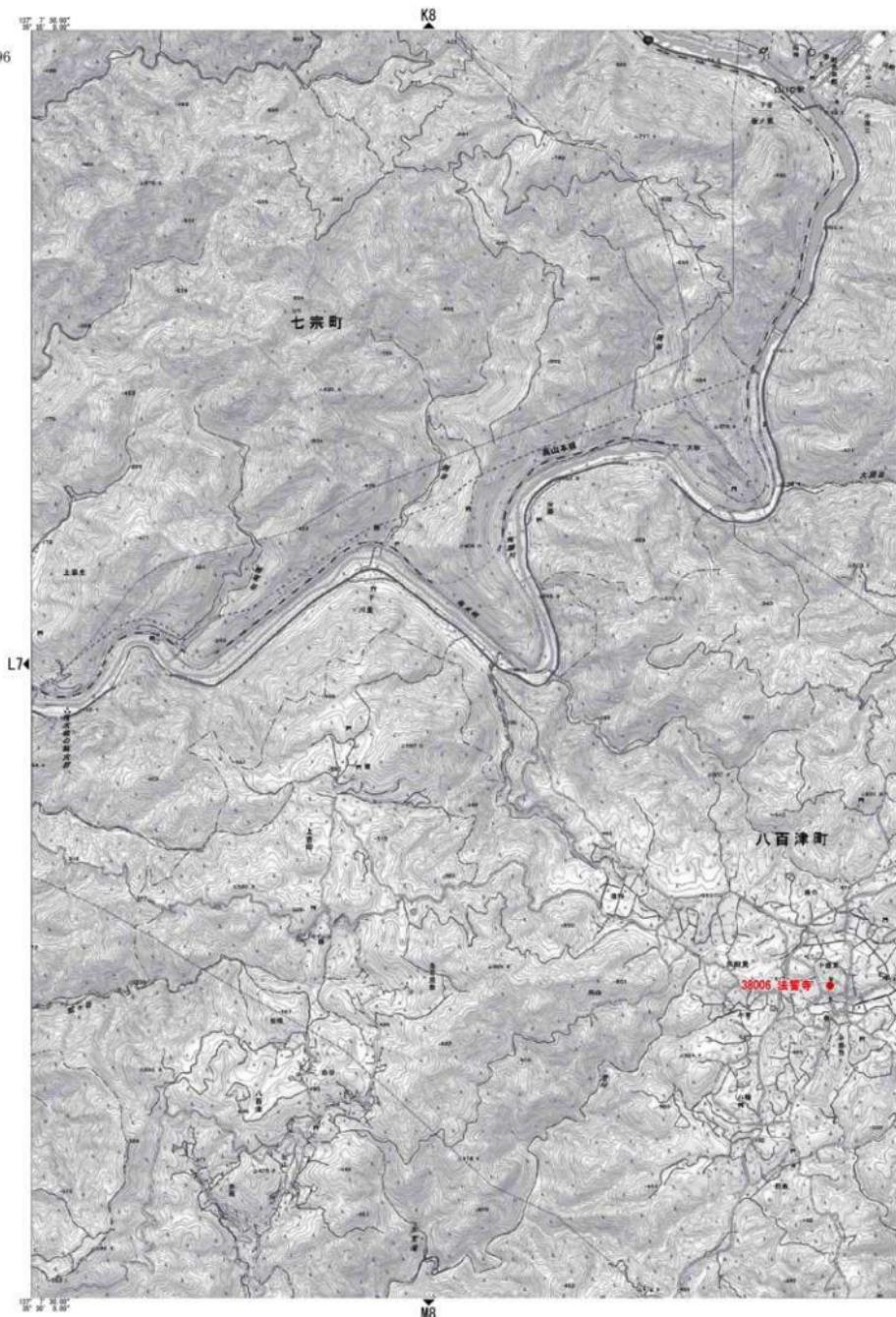
七宗町

37002 威福寺

37005 宝樹寺

37008 龍門寺

K6 莉安	K7 上之保	K8 金山
L6 美濃	L7 上麻生	L8 河岐
M6 美濃關	M7 美濃加茂	M8 御嵩



K8

15° 11' E 89° 52' N

L8 河岐

197

八百津町

38006 法華寺

白川町

L9



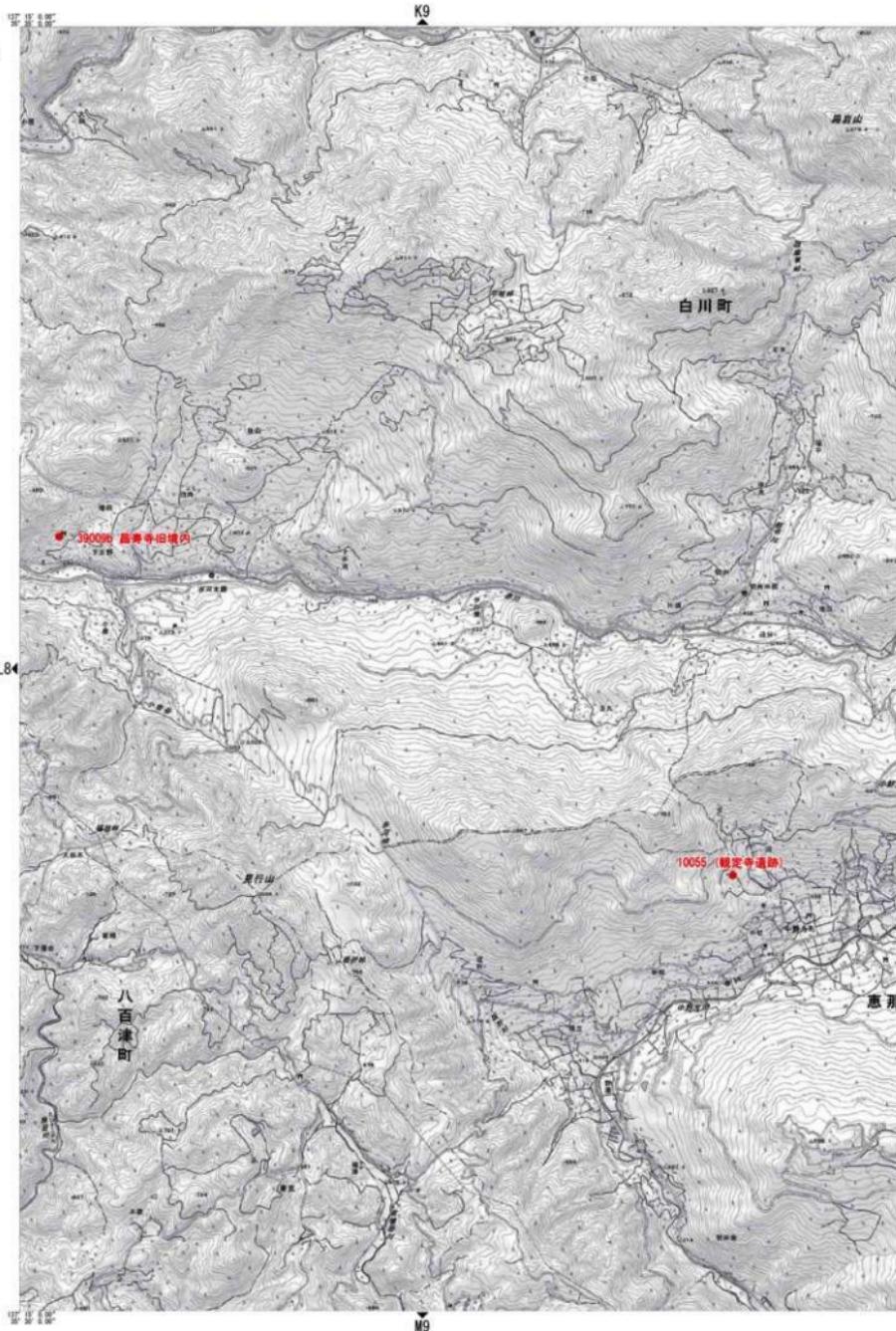
K7 上之保	K8 金山	K9 神土
--------	-------	-------

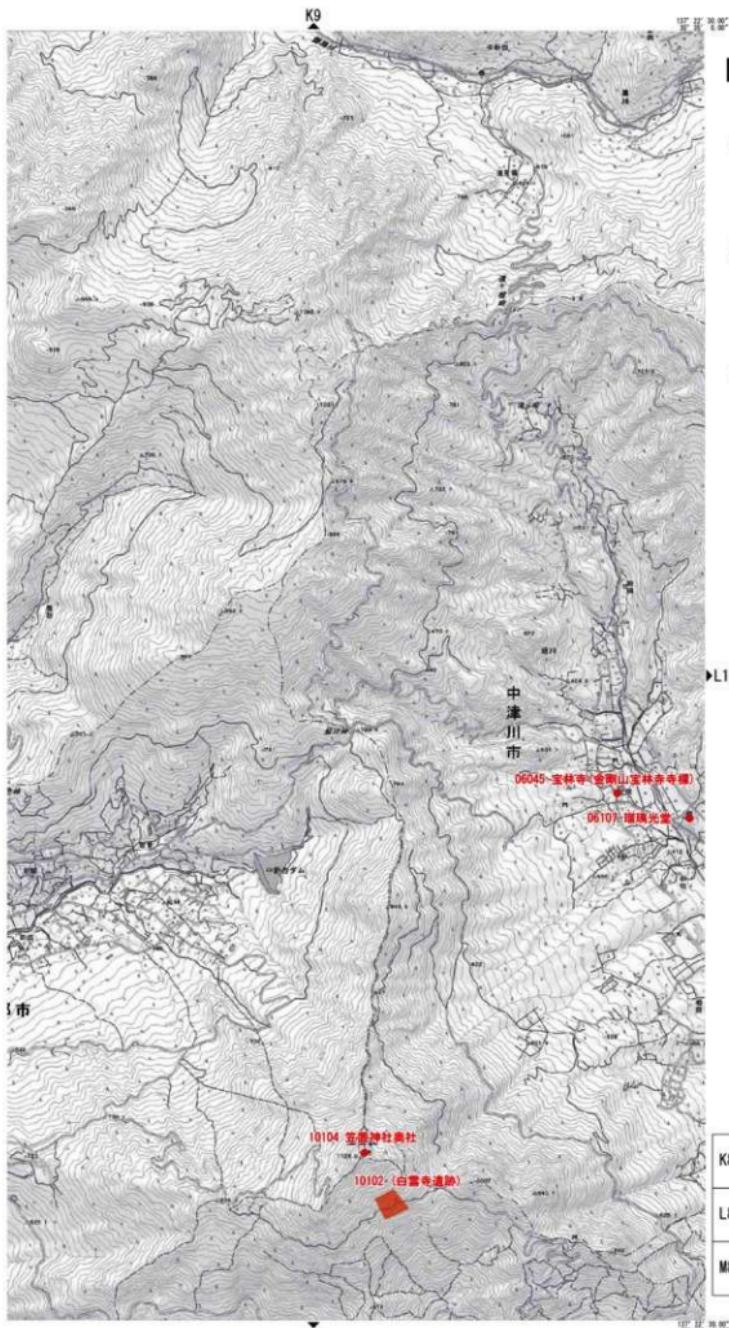
L7 上麻生	L8 河岐	L9 切井
--------	-------	-------

M7 美濃加茂	M8 御嵩	M9 武並
---------	-------	-------

M8

15° 11' E 89° 52' N





L9 切井

199

中津川市

06045 宝林寺(金剛山宝林寺遺跡)
06107 墓塚光堂

恵那市

10055 (観定寺遺跡)
10102 (白雲寺遺跡)
10104 荘厳神社奥社

白川町

39009b 品舟寺旧境内

▶L10

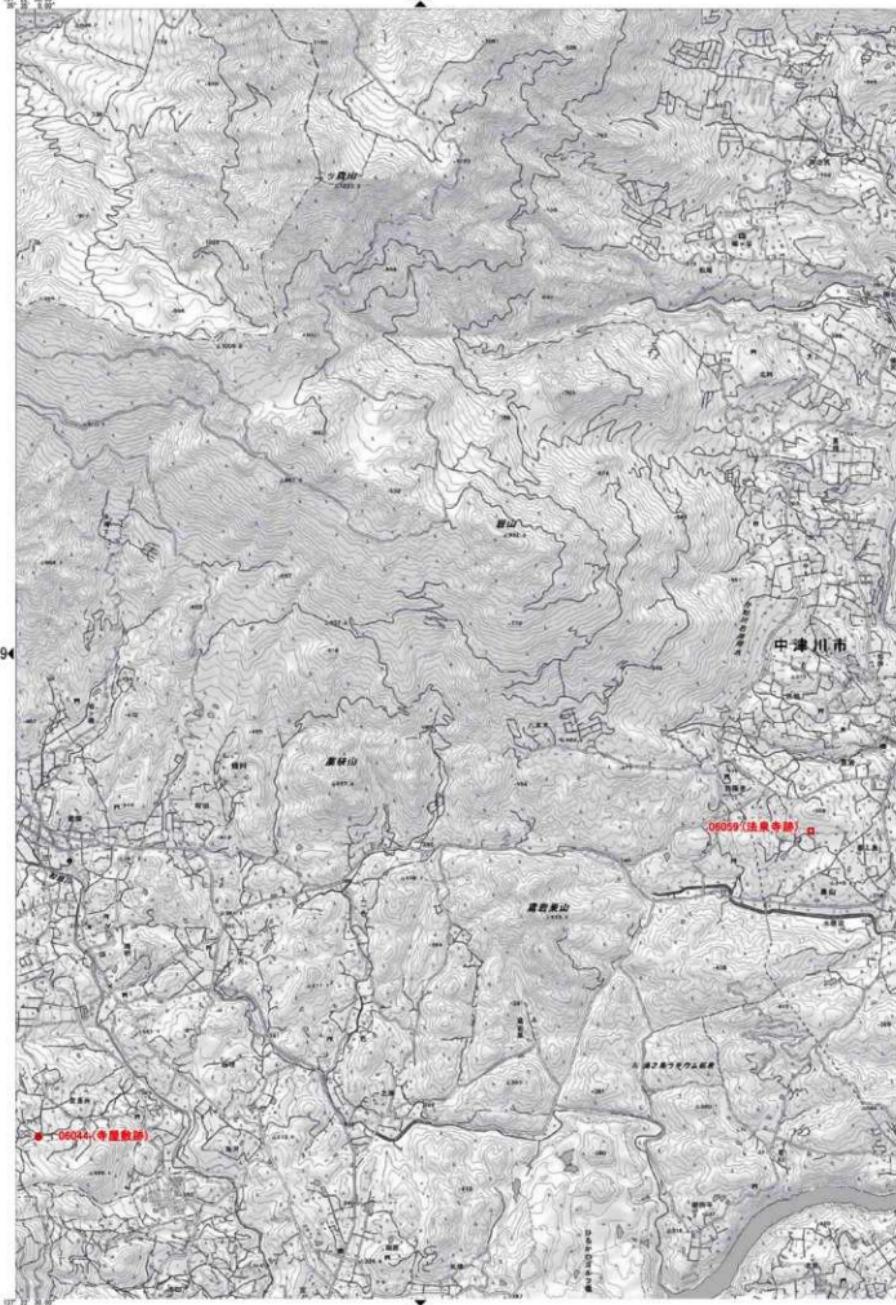
K8 金山	K9 神土	K10 付知
L8 河岐	L9 切井	L10 美濃福岡
M8 御嵩	M9 武並	M10 恵那

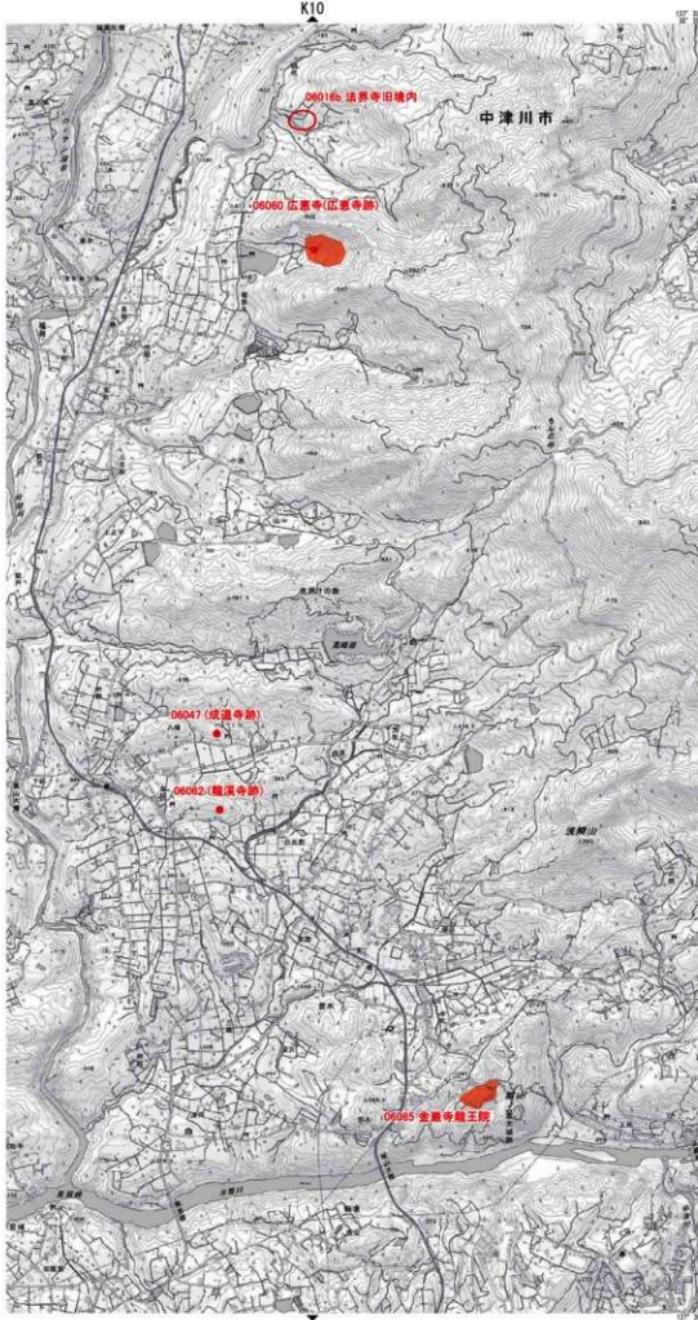
200

K10

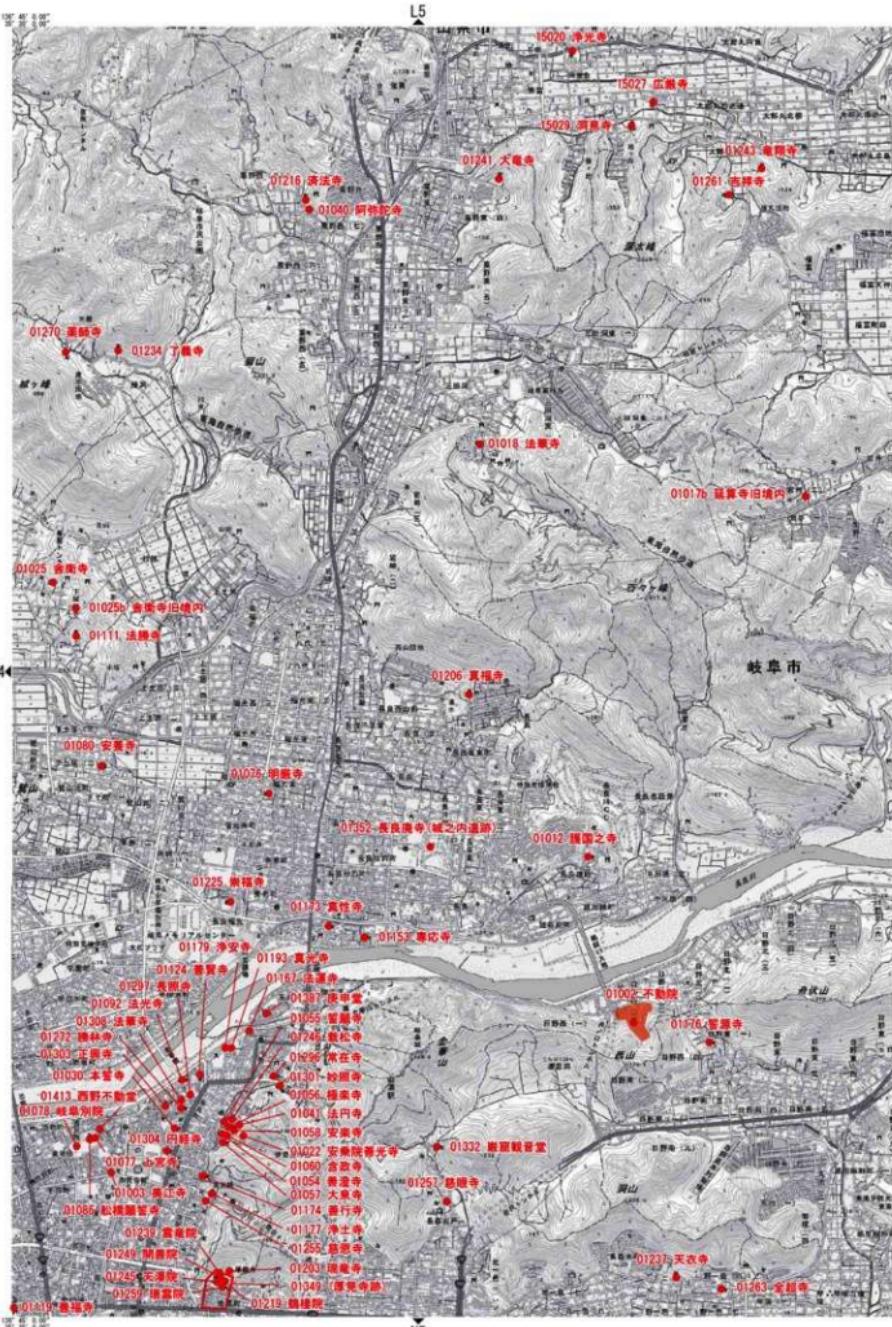
L94

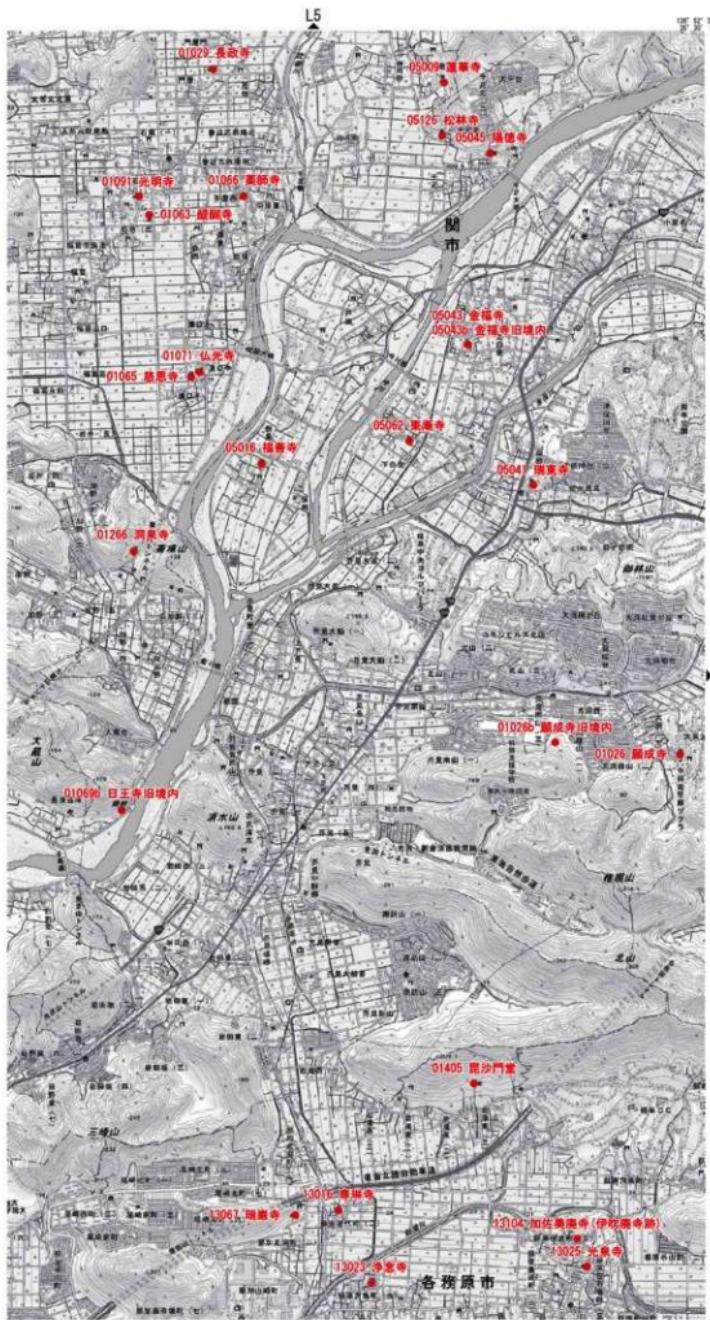
M10





K9 神土	K10 付知	K11 三宿野
L9 切井	L10 美濃福岡	L11 妻籠
M9 武並	M10 恵那	M11 中津川





岐阜市

- 0100 大動院
- 0100 滝江寺
- 0101 遠深之寺
- 0101 法華寺
- 0101 蓮華寺
- 0102 開覺院
- 0102 本樂院
- 0102 金輪院
- 0103 本聖寺
- 0104 阿彌陀寺
- 0104 法円寺
- 0105 善慶寺
- 0105 宗願院
- 0106 金輪寺
- 0106 金良寺
- 0107 仁光寺
- 0107 金剛院
- 0108 安樂寺
- 0108 金剛院
- 0109 金福寺
- 0109 金福寺
- 0110 金輪寺
- 0111 金輪寺
- 0112 金輪寺
- 0113 金輪寺
- 0114 金輪寺
- 0115 金輪寺
- 0116 金輪寺
- 0117 金輪寺
- 0118 金輪寺
- 0119 金輪寺
- 0120 金輪寺
- 0121 金輪寺
- 0122 金輪寺
- 0123 金輪寺
- 0124 金輪寺
- 0125 金輪寺
- 0126 金輪寺
- 0127 金輪寺
- 0128 金輪寺
- 0129 金輪寺
- 0130 金輪寺
- 0131 金輪寺
- 0132 金輪寺
- 0133 金輪寺
- 0134 金輪寺
- 0135 金輪寺
- 0136 金輪寺
- 0137 金輪寺
- 0138 金輪寺
- 0139 金輪寺
- 0140 金輪寺
- 0141 西野不動堂

関市

- 05009 蓮華寺
- 05016 瑞應寺
- 05041 金福寺
- 05043 金福寺
- 05044 金福寺
- 05045 金福寺
- 05046 金福寺
- 05047 金福寺
- 05048 金福寺
- 05049 金福寺
- 05050 金福寺
- 05051 金福寺
- 05052 金福寺
- 05053 金福寺
- 05054 金福寺
- 05055 金福寺
- 05056 金福寺
- 05057 金福寺
- 05058 金福寺
- 05059 金福寺
- 05060 金福寺
- 05061 金福寺
- 05062 金福寺
- 05128 金輪寺

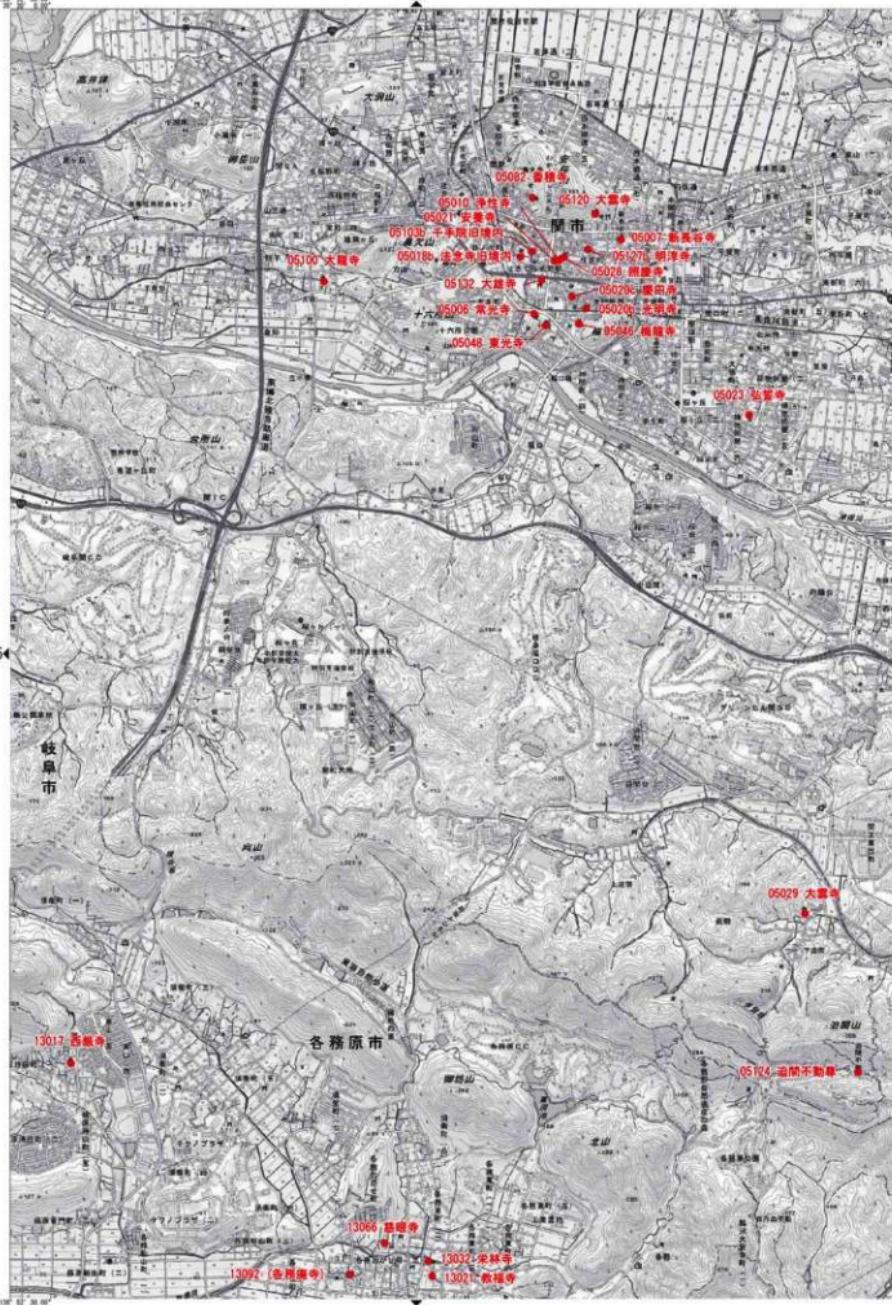
各務原市

- 13016 金輪寺
- 13022 金輪寺
- 13025 金輪寺
- 13067 金輪寺
- 13104 佐佐美寺
- (佐佐美寺)
- 01206 金輪寺
- 01234 金輪寺
- 01237 金輪寺
- 01239 金輪寺

山県市

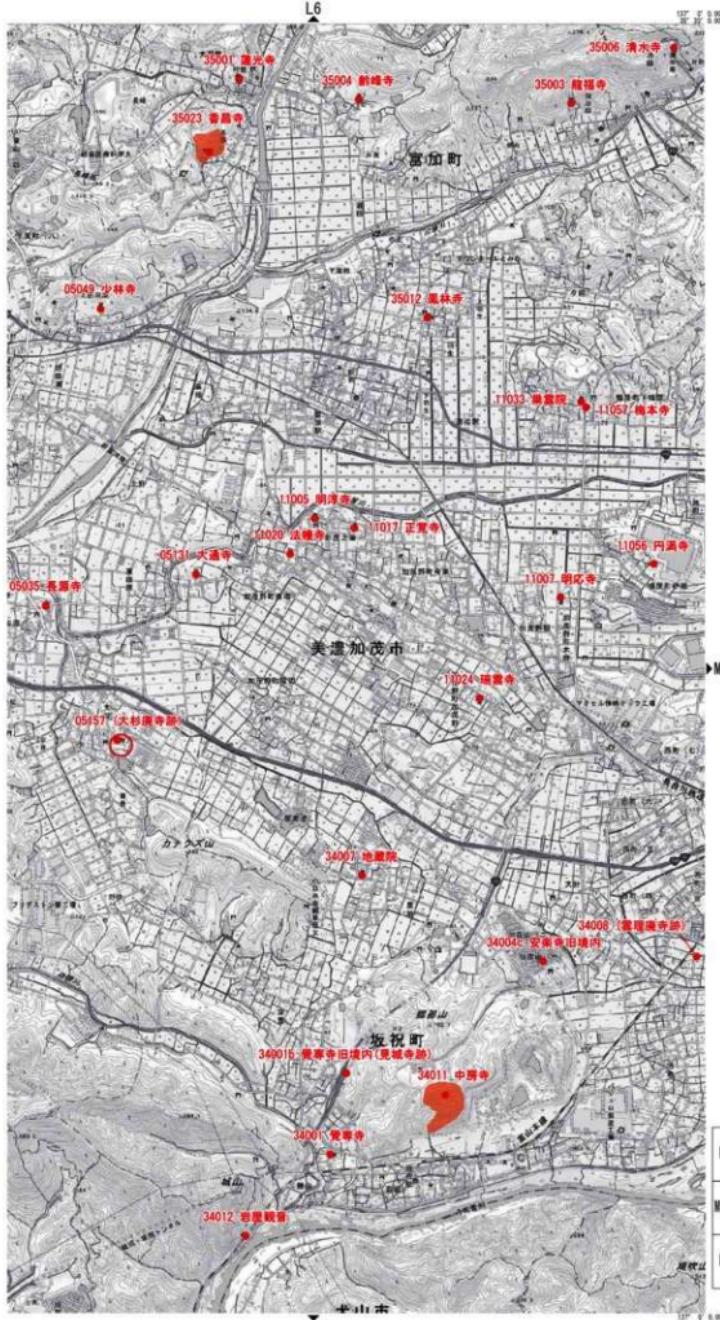
- 13020 井上寺
- 13021 佐藤寺
- 13029 井上寺

L4 美濃神海	L5 岩佐	L6 美濃
M4 北方	M5 岐阜北部	M6 美濃関
N4 岐阜西部	N5 岐阜	N6 犬山



M6 美濃関

205



関市

- 05001 菩光寺
- 05002 新昌寺
- 05010 生性寺
- 05018 法光寺旧境内
- 05020 光印寺
- 05025 麗香寺
- 05027 安樂寺
- 05028 金華寺
- 05029 金華寺
- 05030 金華寺
- 05035 高麗寺
- 05044 大圓寺
- 05049 東光寺
- 05050 少林寺
- 05052 香樹寺
- 05102 大乘寺
- 05103 千手院旧境内
- 05120 大圓寺
- 05124 通樂不動尊
- 05175 觀音寺
- 05131 大通寺
- 05132 金華寺
- 05151 (大抄奥寺跡)

美濃加茂市

- 11005 高津寺
- 11007 大応寺
- 11012 仁愛寺
- 11020 長福寺
- 11024 長慶寺
- 11033 安樂院
- 11056 白滿寺
- 11062 梅本寺

M7 各務原市

- 13017 雲龍寺
- 13021 敦福寺
- 13024 安林寺
- 13064 長福寺
- 13092 (各務西寺)

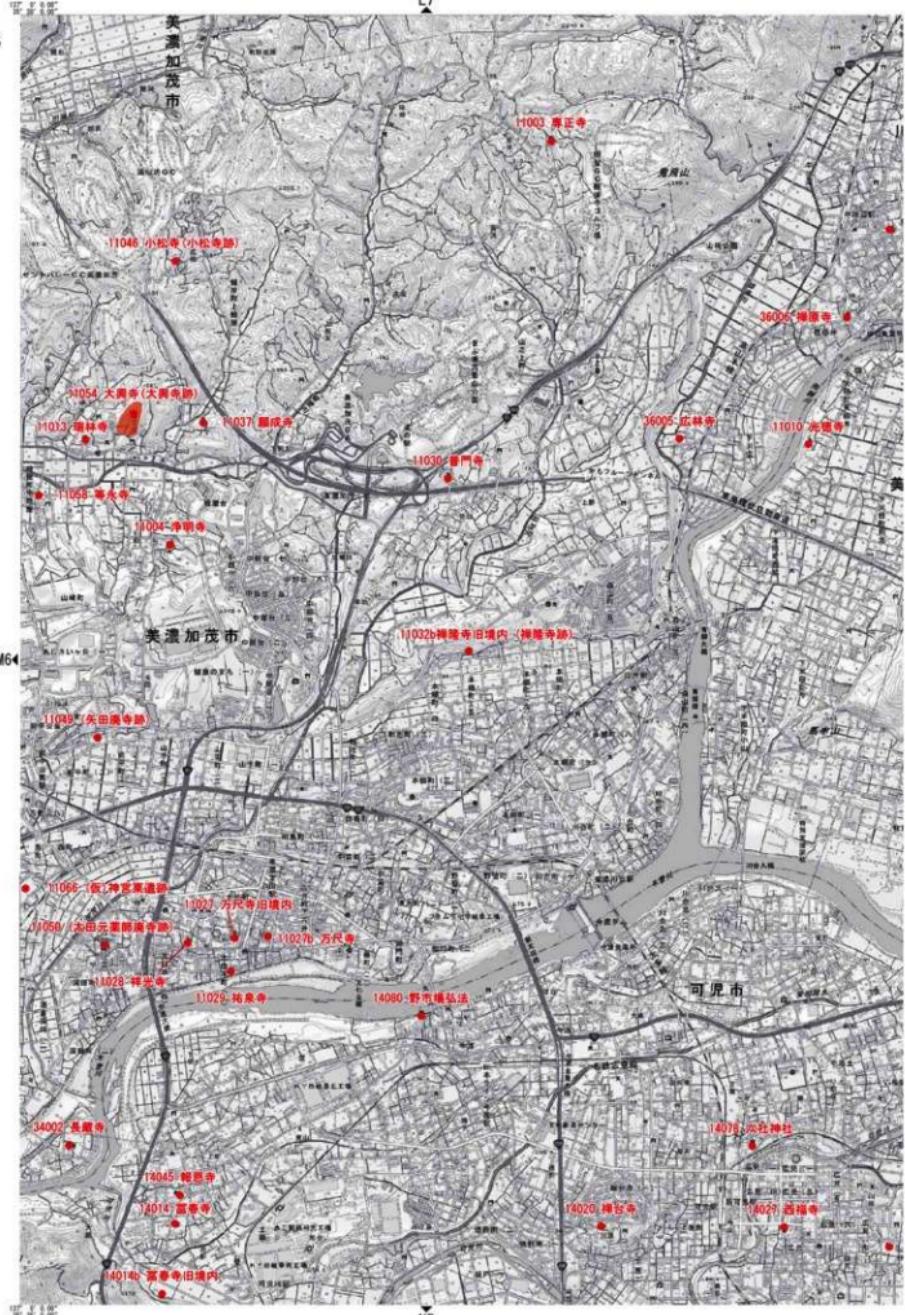
坂祝町

- 34001 興善寺
- 34005 審當寺旧境内(見城寺跡)
- 34006 安樂寺旧境内
- 34007 長慶院
- 34009 (藍雲寺跡)
- 34011 菩提寺
- 34012 安樂院

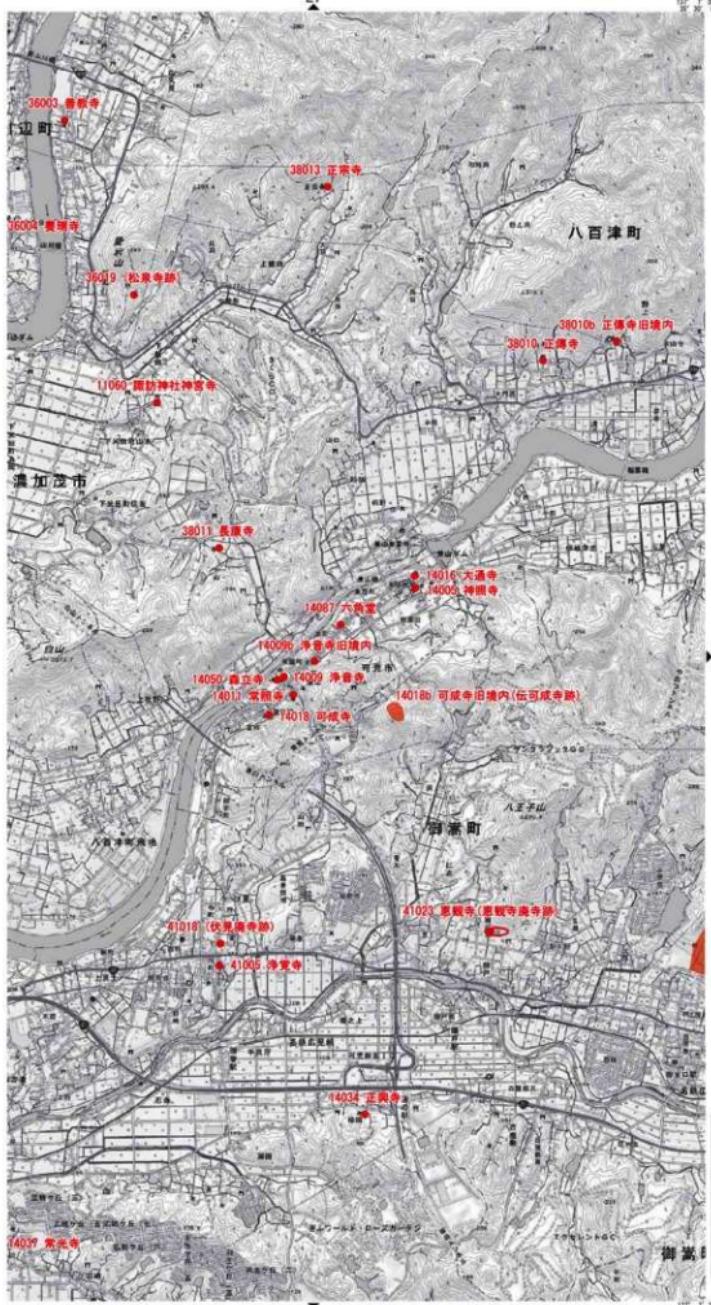
富加町

- 35001 菩光寺
- 35002 龍福寺
- 35004 鮎峰寺
- 35009 清水寺
- 35012 風林寺
- 35023 香樹寺

L5	L6	L7
岐阜北部	M6 美濃関	N7 美濃加茂
N5 岐阜	N6 犬山	N7 小泉



M7 美濃加茂



美濃加茂市

- 11001 善正寺
- 11004 海藏寺
- 11013 正徳寺
- 11027 万寿寺
- 11027 万寿寺旧境内
- 11028 長光寺
- 11029 長惠寺
- 11030 門谷寺
- 11032 釋迦寺
- 11032 釋迦寺旧境内 (釋迦寺跡)
- 11037 鹿成寺
- 11046 小松寺 (小松寺跡)
- 11047 天徳寺 (天徳寺跡)
- 11050 太田川院 (太田川院跡)
- 11054 大興寺 (大興寺跡)
- 11058 雪永寺
- 11060 諸註寺 (諸註寺跡)
- 11066 (五) 桐原夏道跡

可児市

- 14003 金剛寺
- 14005 海藏寺
- 14009 海音寺
- 14011 黑雲寺
- 14014 長福寺
- 14015 長興寺
- 14018 可仁寺
- 14018 可仁寺跡
- 14020 長福寺
- 14027 長福寺
- 14033 正興寺
- 14037 長光寺
- 14041 長惠寺
- 14050 直立寺
- 14073 六社神社
- 14080 丹波市奉法院
- 14087 六角堂

坂祝町

- 34002 長昌寺

川辺町

- 38001 善教寺
- 38002 長福寺
- 38003 正徳寺
- 38004 長惠寺
- 38015 (佐良寺跡)

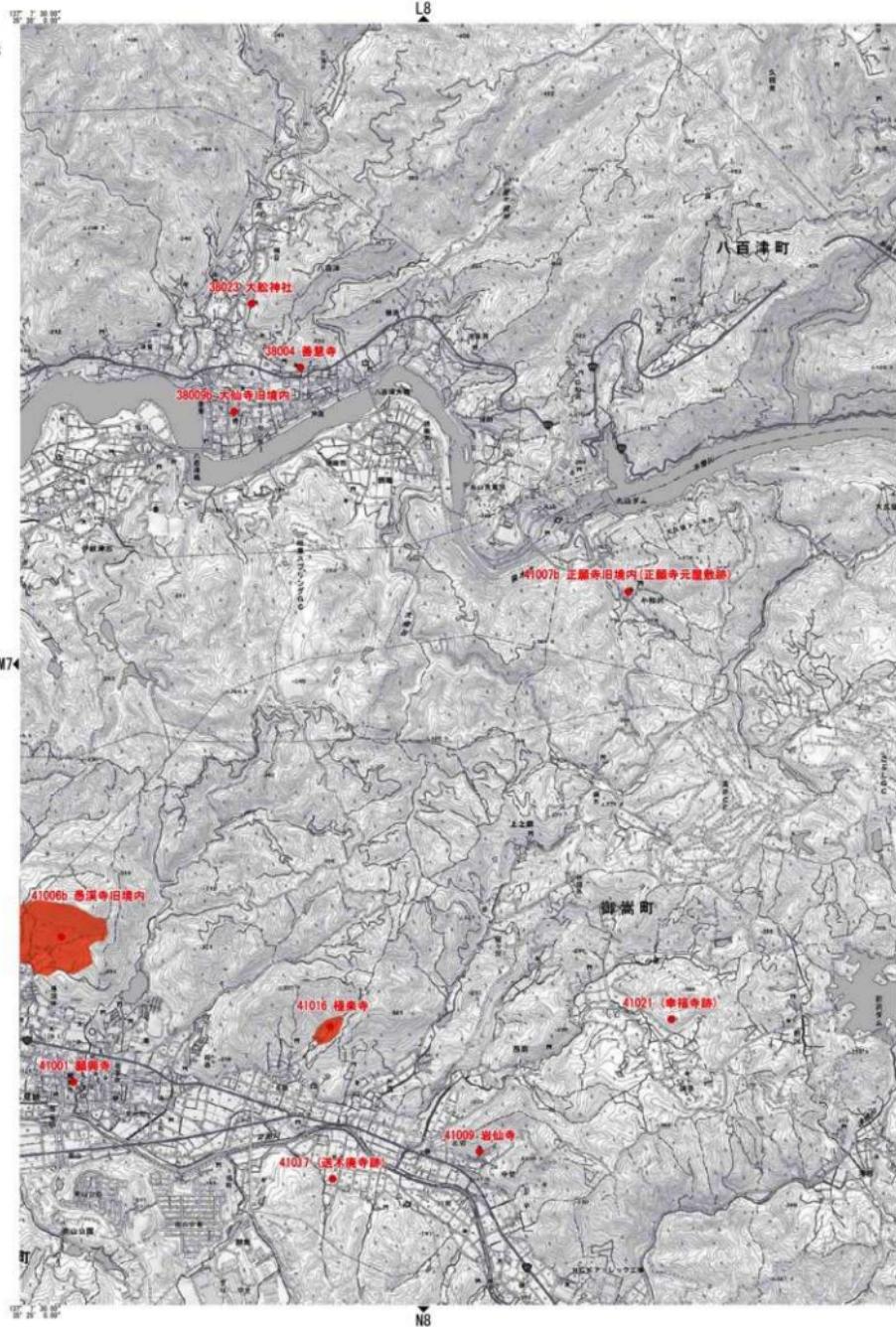
八百津町

- 38010 正福寺
- 38010 正福寺
- 38013 長惠寺
- 38013 長惠寺

御嵩町

- 41005 海叟寺
- 41010 (伏見南寺跡)
- 41023 金觀寺 (金觀寺跡)

L6 美濃	L7 上麻生	L8 河岐
M6 美濃町	M7 美濃加茂	M8 御嵩
N6 犬山	N7 小泉	N8 土岐



M8 御嵩

209

瑞浪市

08023 開光院

八百津町

- 38004 菩提寺
38006 大仙寺旧境内
38023 大船神社

御嵩町

- 41001 鹿興寺
41006 惠漢寺旧境内
41007 正願寺旧境内
（正願寺元聖教跡）
41009 岩仙寺
41016 穂乘寺
41017（送木糞寺跡）
41021（幸福寺跡）

08023 開光院

L7 上麻生	L8 河岐	L9 切井
M7 美濃加茂	M8 御嵩	M9 武並
N7 小泉	N8 土岐	N9 瑞浪

八百津町

恵那市

100386-興禅院旧境内

100313-ミクニン寺(上の洞中世墓)

瑞浪市

● 08034-円池寺經音堂

10101 松王寺(寺屋敷跡)

10103 (伝金昌寺跡)

10073 (東作中世墓)

10093 若林庵(若林觀音堂跡)

10024 開鏡寺

10075 大円坊教寺(大円坊遺跡)

M9 武並

211

瑞浪市

08034 円池寺觀音堂

恵那市

10024 菩提寺

10035b 洞神院旧境内

10075 大円坊教寺(大円坊遺跡)

10077 (東作中世墓)

10092 若林庵(若林觀音堂跡)

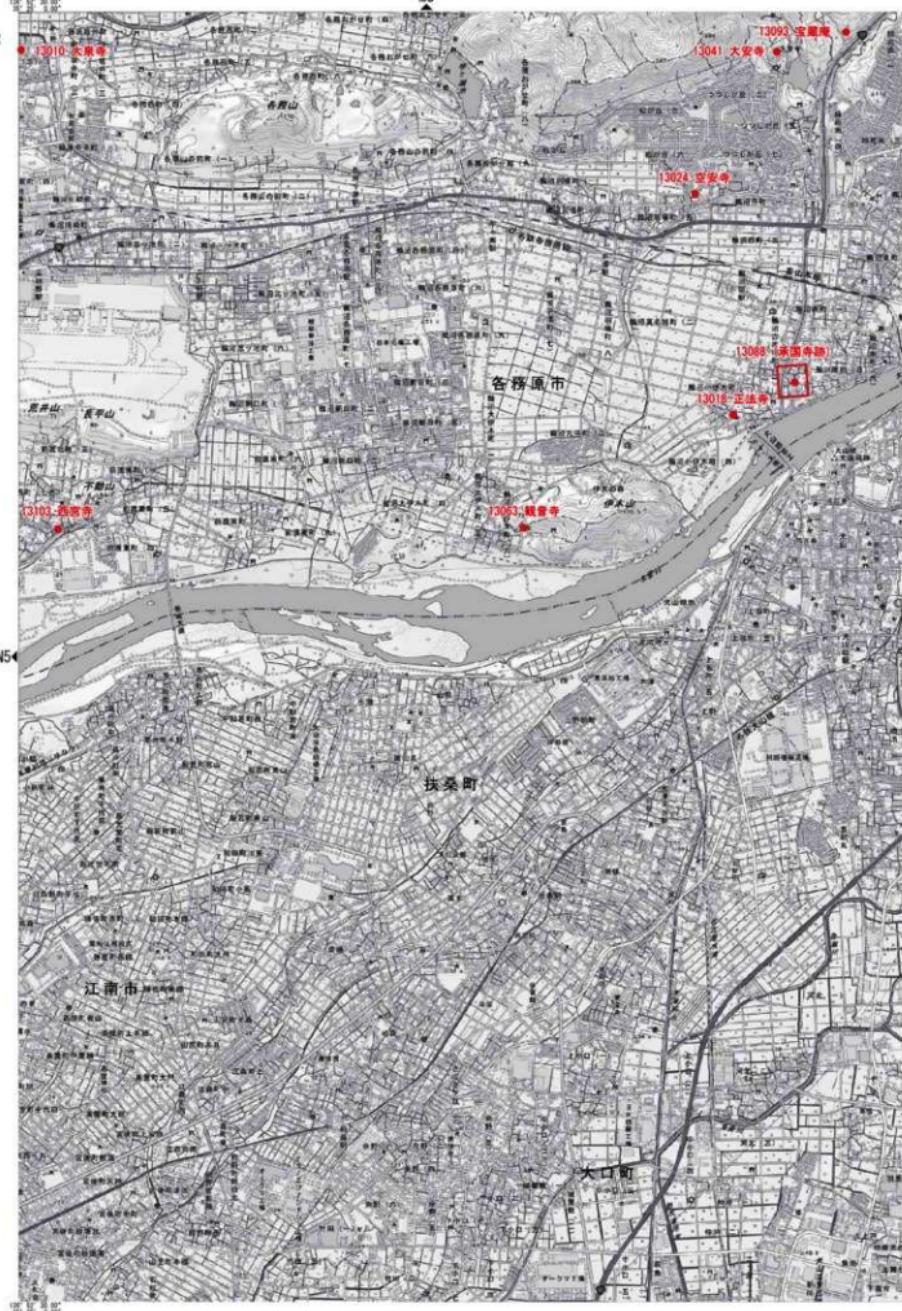
10101 松王寺(寺屋敷跡)

10103 (伝金昌寺跡)

10113 ピクニン寺(上の須中世墓)

M10

L8 河岐	L9 切井	L10 美濃福岡
M8 御嵩	M9 武並	M10 恵那
N8 土岐	N9 瑞浪	N10 岩村



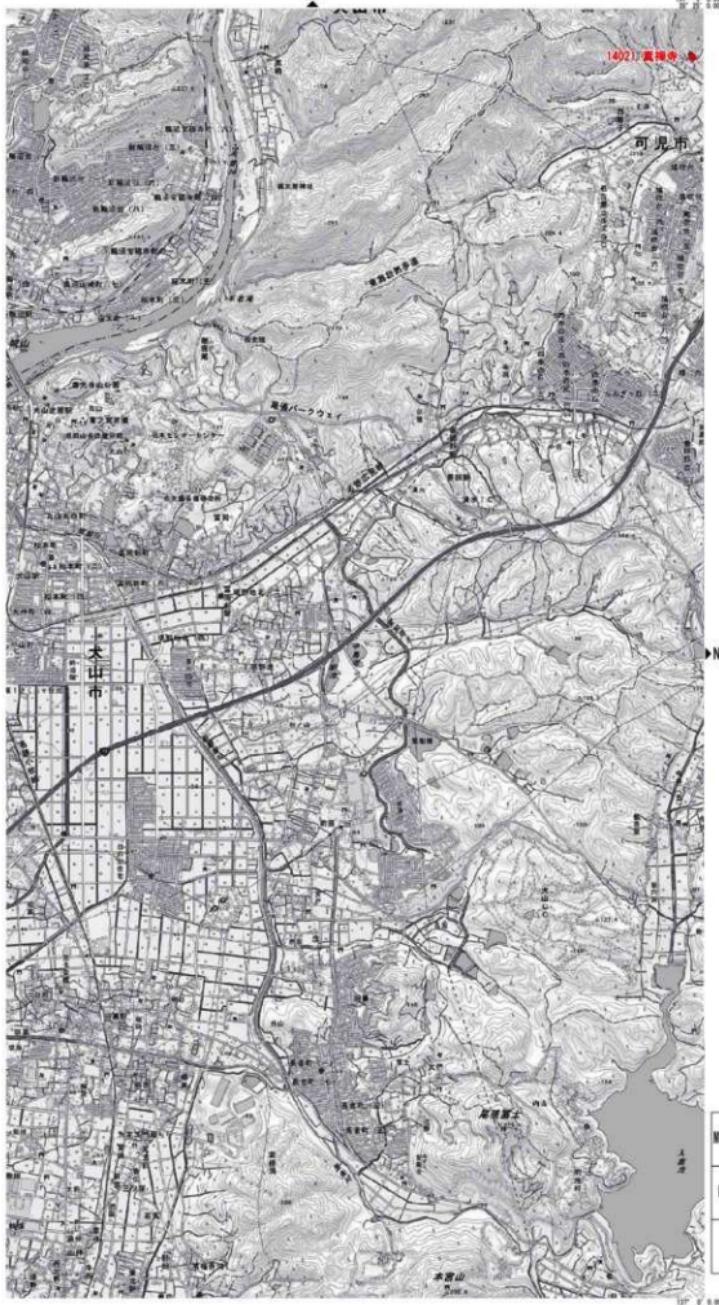
N6 犬山

各務原市

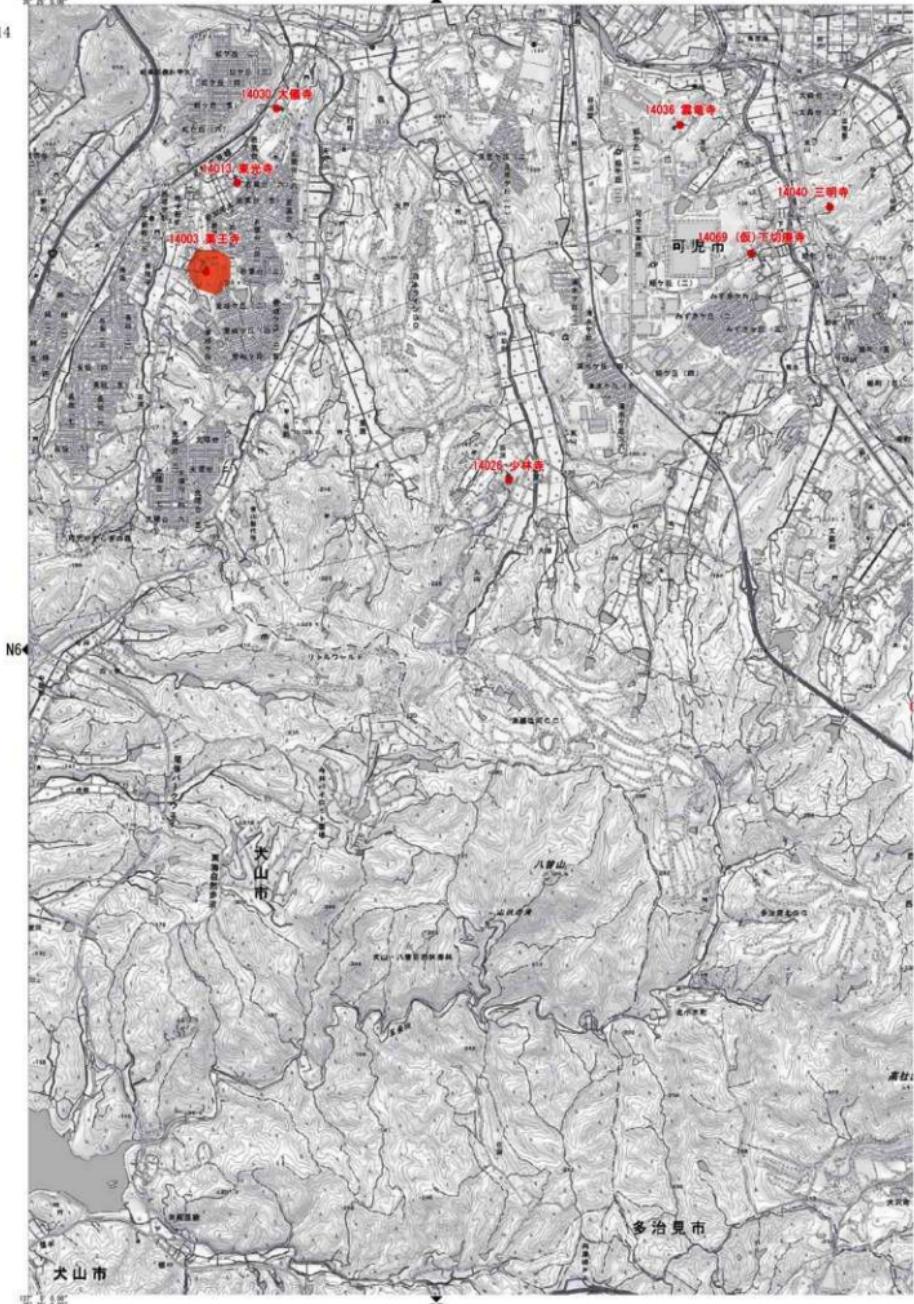
- 13010 大泉寺
13018 正法寺
13024 宝安寺
13041 大安寺
13063 観音寺
13088 (承因寺跡)
13093 宝嚴庵
13103 西宮寺

可児市

- 14021 真桙寺



N5 岐阜北部	M6 美濃關	N7 美濃加茂
N5 岐阜	N6 犬山	N7 小泉
		07 高麗寺



M7

137° E 36.95° N

N7 小泉

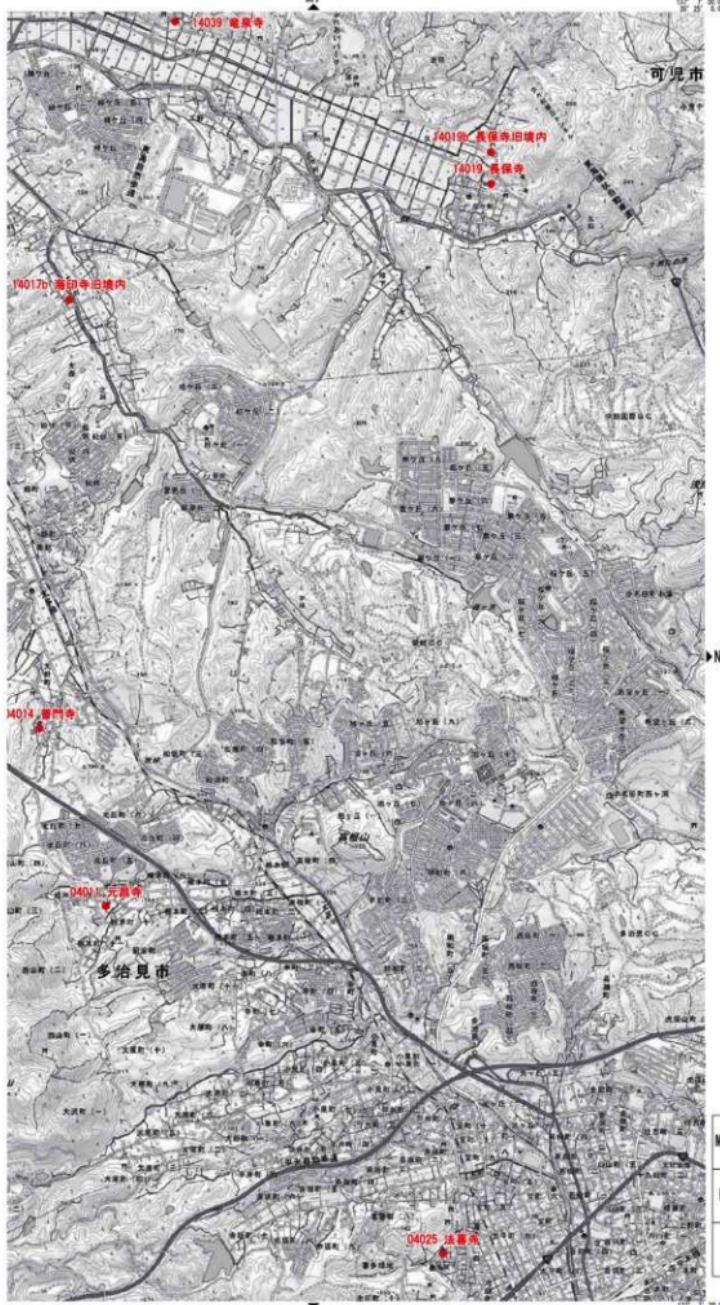
215

多治見市

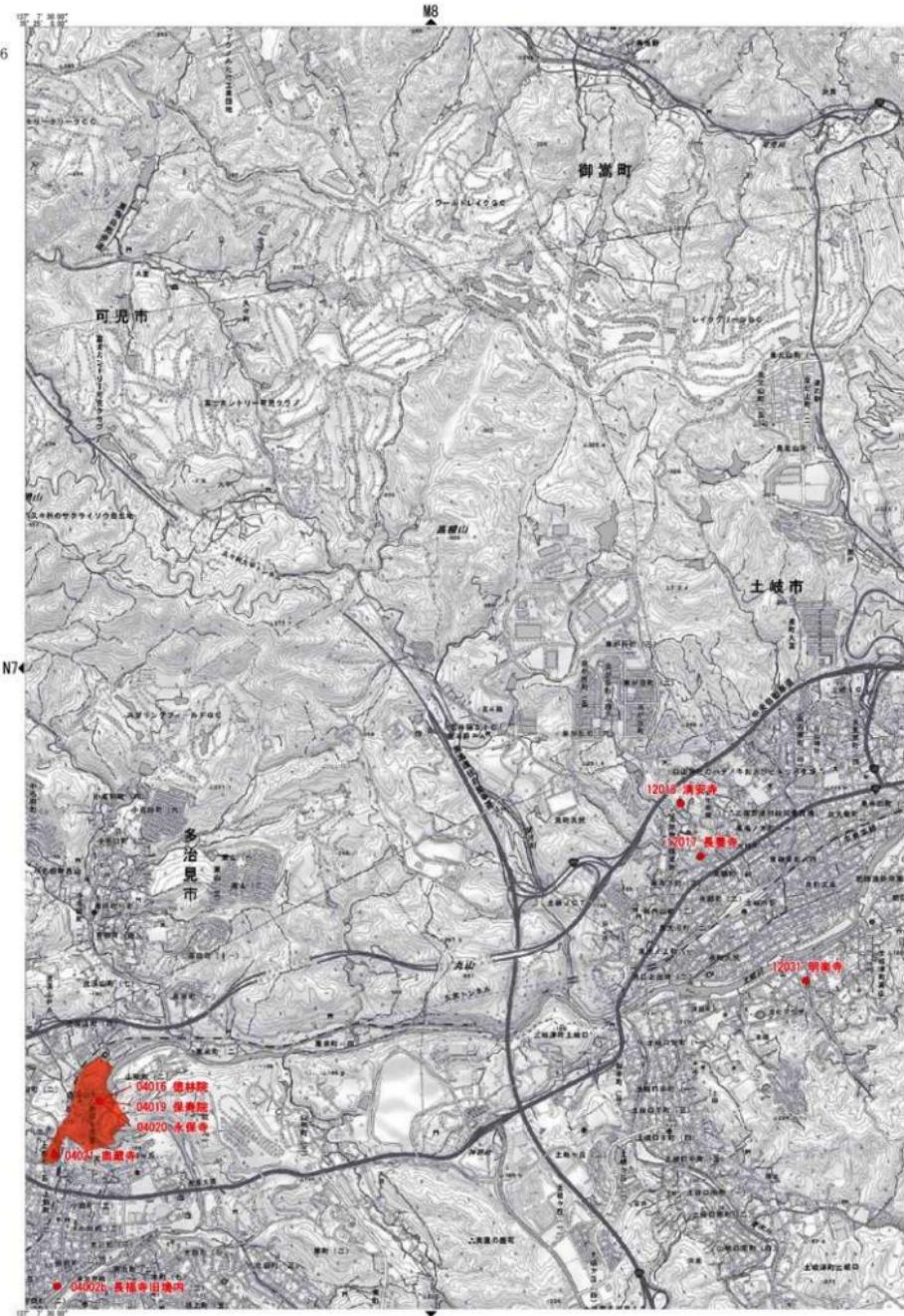
- 04011 元昌寺
- 04014 香門寺
- 04025 法善寺

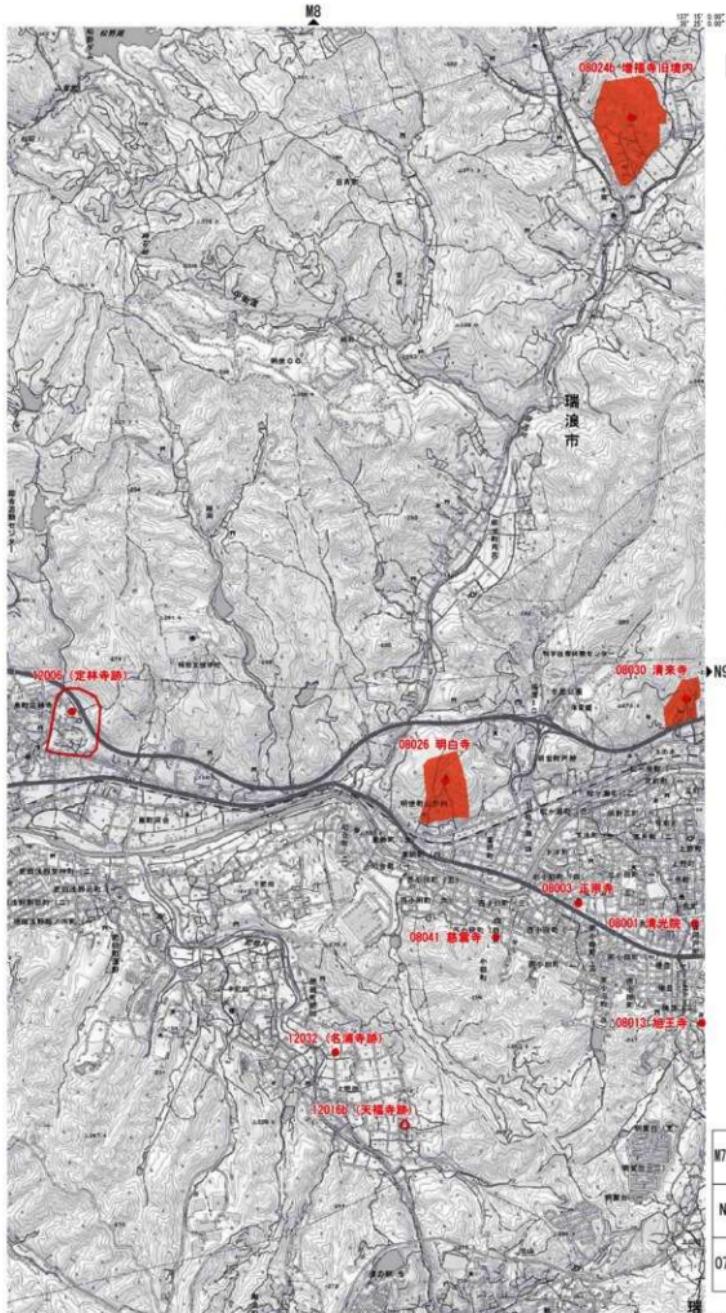
可児市

- 14003 墓王寺
- 14013 東光寺
- 14017b 海印寺旧境内
- 14019 永保寺
- 14019c 長保寺旧境内
- 14026 少林寺
- 14030 大福寺
- 14036 霊巌寺
- 14039 電泉寺
- 14040 三明寺
- 14069 (仮) 下切鹿寺



M6 美濃関	M7 美濃加茂	M8 御嵩
N6 犬山	N7 小泉	N8 土岐
07 高麗寺	08 多治見	





N8 土岐

217

多治見市

- 04002b 長福寺旧境内
- 04015 桜林院
- 04019 保壽院
- 04020 永保寺
- 04021 高藏寺

瑞浪市

- 08001 晴光院
- 08003 正宗寺
- 08013 墓王寺
- 08024b 増福寺旧境内
- 08026 明白寺
- 08030 清来寺
- 08041 萬葉寺

土岐市

- 12016 (天福寺跡)
- 12017 長善寺
- 12018 清安寺
- 12031 朝慶寺
- 12032 (名瀬寺跡)
- 12166 (天福寺跡)

第5節 中濃圏域のまとめ

本節では、中濃圏域の寺院数を旧郡単位で集計し、時代・時期ごとの成立数や立地を検討した上で、古代と中世の寺院について整理する。

1 概要

(1) 中濃圏域の旧郡

中濃圏域は、延喜式における山県郡・武芸（儀）郡・郡上郡・賀（加）茂郡・可児郡（現在の関市・美濃市・郡上市・美濃加茂市・可児市・加茂郡（坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村）・可児郡（御嵩町））が含まれ¹⁾。本節ではこれらの旧郡をもとに寺院（以下寺院跡を含む。）の分布等を検討する。なお、近世以前の詳細な郡域は明らかではないため、戦前に作成された五万分の一地図や『改正美濃国明細全図』（明治17年作成、岐阜県図書館蔵）を参照した²⁾。

(2) 寺院数（表63）

740か寺を対象として調査した結果、伝承等も含めて古代成立寺院 79か寺、中世成立寺院 326か寺、合計 405か寺を確認した³⁾。寺院数では、武儀郡が最も多く、次いで加茂郡、郡上郡、可児郡の順に少なくなる。飛鳥時代には、武儀郡、加茂郡、可児郡の中濃圏域南部の平地にあたる美濃加茂台地においての成立がみられる。奈良時代になると、郡上郡での養老元（717）年に開山された白山信仰に関する山麓・山腹への寺院の成立が増加する。平安時代には、圏域南部の平地への成立数が増加するほか、武儀郡の高賀山周辺では、高賀信仰にまつわる寺院が成立する。中世に入り、鎌倉時代での成立は平安時代と同程度だが、室町時代に入ると各郡とともに寺院数が急増する。

(3) 時期毎の建立時期等の検討（表64）

ここでは、市町村史等の文献に成立年代等の記載がある寺院を選択し、成立、移転、転宗、廃絶等を 50 年単位で集計し、寺院の消長やその関連性を検討する⁴⁾。なお、詳細な時期比定は、本来ならば発掘調査等によって明らかとなった年代観で検討すべきであるが、現状では寺院の発掘調査等がほとんど進んでおらず、ここでは主に文献における記載を参考に検討した。しかし、その取扱いについては十分に考慮すべきである。なお、発掘調査等により成立年代が推定できるものについては発掘調査成果を参考にした。

① 成立時期の記録

寺院の成立記録は、7世紀以前からみられる⁵⁾。可児郡の願興寺（御嵩町）では白鳳期初期に遡る軒丸瓦が出土し、中濃圏域は西濃圏域とともに、県下では早く寺院が成立したと考えられている地域である。その後、8世紀前半に一時的に増加し、8世紀後半から10世紀までは一定数みられるが、11世紀から12世紀前半までは減少する。しかし、12世紀後半以降は成立数が増加し、15世紀後半に飛躍的に増加する。それ以後、17世紀後半まで成立数が多い状態が続く。

② 転宗時期の記録

寺院の転宗記録は、12世紀までは9世紀後半に1例を確認できるのみであり、これは郡上郡の長瀧寺（郡上市）の法相宗から天台宗への転宗である。13世紀以降には転宗の記録が散見され、15世紀後半に急増する。15世紀後半に転宗した26か寺の転宗の内訳は、すべて浄土真宗への転宗であり、

そのほとんどが天台宗からの転宗である。16世紀以降は転宗した寺院数を一定数確認できるようになる。依然として浄土真宗への転宗が多いが、禪宗への転宗も一定数見られる。

③ 移転・廃絶時期の記録⁶⁾

寺院の移転の記録は13世紀後半から散見される。15世紀後半から増加し、16世紀後半に24か寺と最も多くみられ、17世紀以降多い状態が続く。一方、廃絶の記録は少ないものの、16世紀後半には兵火による廃絶の記録が11か寺確認できる。このことは、16世紀後半に移転した寺院が多くみられることと関係すると思われる。15世紀後半から17世紀後半までは寺院の成立数も多く、中濃圏域ではこの頃に寺院の成立・移転が盛んに行われた。加えて、転宗した寺院も15世紀後半以降増加し、中世末から江戸時代にかけて、寺院活動が活発に行われた時期であるといえる。

（4）寺院の立地（表65、図96～98）

ここでは、所在地及び成立時期が明らかな寺院について、平地（段丘）、山麓、山腹、山頂（尾根上）に分けて記載する。表65をみると、平地に位置する寺院は全体の約36%、山麓に位置する寺院は全体の約51%、山腹・山頂に位置する寺院は全体の約12%である。山腹・山頂に位置する寺院42か寺のうち、山頂に位置するのは4か寺と少ない。山麓を含む山地に造営されている寺院は全体の約63%である。

次に時期別の立地状況を概観する。7世紀代の瓦が出土している寺院は武儀郡、加茂郡、可児郡で確認されており、いずれも圏域南部の平地に立地する。8世紀には、郡上郡の長瀧寺を中心に白山信仰が、10世紀後半には武儀郡での高賀山信仰といった山岳信仰に関する寺院の造営が始まり、山麓及び山腹・山頂への造営数が増加する。この時期には、可児郡の極楽寺（御嵩町）や武儀郡の大聖寺（関市）など、集落域からのアクセスが比較的容易な山間部に成立する寺院がみられる。一方、武儀郡の普門寺（美濃市）は、中納言の藤原高光によって面平山山頂に建立された寺院と伝わる。現本堂は山頂から約50m南へ降りた山腹に位置するが、かつては山頂に位置していたといい、山頂からは高賀山を眺望することができる。

その後、寺院の成立数が減少する11世紀から13世紀前半までは、山腹への造営は確認できない。鎌倉時代以降、集落域に近い平地周辺への造営が増加する。山麓に立地する寺院が最も多いが、集落域の最奥にあたる平地と山や丘陵との境付近に立地するものが大半を占める。

以下、立地ごとの詳細について記載する。

① 平地に立地する寺院

丘陵・山地据部と寺域が接していない、河岸段丘や扇状地上に位置する寺院である。美濃加茂台地の河岸段丘上では、7世紀代の瓦の出土が確認されている寺院が集中する。願興寺（図96-1）は、可児川右岸の河岸段丘上に位置し、境内の北側には東山道が通る。可児郡の可児川右岸及び東山道沿いには古代寺院が集中的にみられ、伏見庵寺、願興寺跡、送木庵寺（以上御嵩町）が西から順に並ぶ。加茂郡では、木曾川右岸から北に1km前後入った場所に、古代寺院が集中するエリアがある。木曾川と加茂川に囲まれた低湿地帯に元薬師寺跡、元万尺寺跡が、加茂川右岸の河岸段丘上に雲霧庵寺跡、神宮東遺跡（以上美濃加茂市）が位置する。さらに、その北側の山地南側には、加茂県主の氏寺と考えられている矢田庵寺跡（美濃加茂市）が位置し、この場所は河岸段丘の上位段に属す。この立地について、「先住の県主グループが確保した優良地の周辺部に、秦人グループなど新来の渡来系氏族の

活動拠点が展開していった姿を反映』(大塚 1951) しているという指摘があり、古代寺院の立地する土地条件とその位置関係が、氏族間の優位性を示している可能性がある。この美濃加茂台地周辺には中世以降も河川沿いに多くの寺院が造営される。武儀郡の弥勒寺跡(閔市、図 96-2)は、長良川が大きく蛇行する内側の池尻山南側の台地に位置する。境内の背後には山を控え、南側には長良川が流れるため、山と河川で囲まれた極めて限定された範囲に寺院や郡衙施設が並ぶ。

② 山麓に位置する寺院

丘陵・山地裾部と寺域が接している寺院であり、丘陵・山地との境付近の地形が谷部や河川沿いの狭小地と、台地や平野部への見晴らしの良い場所などに分かれる。これらの寺院は、圏域南部の台地周縁部の山地及び丘陵帶、独立丘陵の裾部に位置する。長瀧寺(図 96-3-1・2)の主要伽藍は山麓に位置し、南側に長良川が流れる。境内は、谷地形上の山麓の地形に沿って展開している。山麓の見晴らしの良い平地に立地する寺院には、加茂郡の香昌寺(富加町)や近松寺(白川町)などがある。これらの寺院は、集落域の最奥に位置し、集落域よりもやや高い位置に造営される。

③ 山腹に位置する寺院

山腹に位置する寺院は、主要な寺域が山麓から山腹まで平坦面が広がる寺院と、背後に山頂や尾根を背負う寺院がある。前者には、武儀郡の禅定寺(美濃市、図 97-5)や可児郡の愚溪寺旧境内(御嵩町、図 97-6)、武儀郡の汾陽寺(閔市、図 97-7)がある。禅定寺及び愚溪寺旧境内は標高 185m 付近、汾陽寺は標高 200m 付近に社殿及び本堂跡を構え、山麓まで境内が広がる。これらの寺院は現集落域と比較的近い位置にある。後者には、武儀郡の日龍峯寺(閔市、図 97-4)や加茂郡の中房寺(坂祝町、図 97-8)がある。日龍峯寺は、高澤山の山頂から南東へ約 250m 下った山腹に本堂があり、山麓に展開する直近の集落域までの比高差は 150m である。本堂は、谷地形の最奥に位置するため平地を眺望することはできず、現集落域から隔絶された場所にある。中房寺は、郷部山の山頂よりも約 10m 低い南側に堂跡が位置し、山麓に展開する直近の集落域までの比高差は約 100m である。現在は木々の茂りが激しいが、かつては眼下の木曾川を眺望することができたと思われる。

また、武儀郡に展開する高賀山信仰に関する 6 社のうち 5 社(蓮華峯寺(閔市)、滝の宮(美濃市)、藏王権現(美濃市)、巖屋本宮(郡上市)、巖屋新宮(郡上市))の地形観察図の作成、1 社(星宮粥川寺(郡上市))の地籍図による検討を行った。6 社はいずれも高賀山へ至る登山道の入口の山腹等に位置し、高賀山を囲むような位置関係にある。蓮華峯寺、滝の宮、巖屋本宮、巖屋新宮藏王権現、現星宮神社は、高賀山を押すように社殿が建つ。藏王権現(現金峰神社)からみて高賀山山頂は北西方向に建つが、社殿は南西方向を向き若干ずれる。いずれも、現在は神社境内となっており、旧來の寺域の展開の様相を残しているかは不明であるが、信仰の対象である高賀山の位置を意識した立地及び寺域の展開であったと思われる。

④ 山頂(尾根上)に位置する寺院

山頂(尾根上)に位置する寺院には、面平山普門寺(図 98-9)や伝可成寺跡(可児市、図 98-10)がある。普門寺は、かつての本堂は山頂にあったとされ、山頂から鞍部にかけて約 55m の範囲が平坦となっているが、堂が一字建つかどうかの幅である。伝可成寺跡は、美濃金山城跡から大堀切を挟んだ南東に位置し、幅 20m × 奥行 70m の平坦面が尾根上に 1 面設けられている。平坦面の形状は尾根の地形に沿っており、不定形である。

2 古代寺院の様相（図99・100）

古代の中濃圏域は、美濃国を代表する豪族ムゲツ君氏の本拠地である。その勢力は弥勒寺跡のある武儀郡を中心に、加茂郡、岐阜圏域の本巣郡及び方県郡、西濃圏域の大野郡、越前国にまで広がっていたという。律令制施行後に制定される東山道は、美濃国南部を横断し、中濃圏域では御嵩町上之郷宿に可児駅が設置された⁷⁾。飛驒支路上では、下麻生に加茂駅、閔市に武儀駅及び菅田駅が設置され、飛驒国へ通じていた⁸⁾。特に古代瓦の出土が確認されている古代寺院は、武儀郡、加茂郡（美濃加茂市太田地区）、可児郡東部（御嵩町東部）に集中してみられ、特に可児郡東部の古代寺院は東山道に接した位置に分布する。

飛鳥時代の寺院では、瓦の出土が確認されている寺院には、弥勒寺跡、雲埋廃寺跡、神宮東遺跡、元万尺寺跡、太田元薬師廃寺跡、伏見廃寺、願興寺跡がある。願興寺は、寺の来歴を示した『大寺記』（享保 15（1730）年）によると、弘仁 6（815）年に最澄によって成立したとされているが、本堂の防災施設設置の際に百濟系瓦の流れをくむ白鳳時代に遡る可能性がある軒丸瓦や、外縁の幅線文も県下に類例がない近江の影響を受けた文様構成の軒丸瓦が確認された。このことから、美濃国最古の寺院の1つといわれ、壬申の乱以前から可児川沿いに基盤を据えた豪族の存在が想定される（岐阜県博物館 1995）。武儀郡の弥勒寺跡は、法起寺式の伽藍配置を有する、7世紀末に成立した寺院である。寺跡から複弁八弁蓮華文軒丸瓦と凸面布目平瓦が出土したことでヤマト朝廷との直接的な技術交流があったと想定される⁹⁾。さらに、7世紀前半には殿岡1・2号墳、八王子古墳、御前塚古墳、小瀬古墳、池尻大塚古墳の方墳6基がほぼ同時期に造られ、7世紀後半にはそれらの中心域に武義評衛が設置された。「古墳から評衛、そして寺院へという極めて連続した変遷」（林 2021）を確認できる地域である。また、加茂郡の現美濃加茂市太田区には7世紀末～8世紀に比定される軒丸瓦片が採取された地点（雲埋廃寺跡、神宮東遺跡、元薬師寺跡、元万尺寺跡）が、5km圏内の範囲に集中する。さらに、この集中範囲の西側には、当該期の瓦を生産した輪形古窯跡（坂祝町）が所在する。輪形古窯跡では、近江で見られる朝鮮半島の影響が色濃い湖東式軒丸瓦が確認されており、その瓦当文様から元薬師寺跡との需給関係が成立することから、渡来系氏族の活動拠点が展開していたと考えられる（大塚 1951）。

奈良時代の寺院では、武儀郡の大杉廃寺跡（閔市）で当該期に所属する軒丸瓦が出土している。大杉廃寺跡は、津保川の支流である蜂屋川南の台地上に立地し、加茂郡との郡境近くに位置する。昭和 31（1956）年の試掘調査では、一辺 7m 内外の基壇跡が確認された。周囲には大杉遺跡及び大杉西遺跡といった集落跡が確認されており、台地上を支配した豪族に関する寺院であると考えられている（伊藤 2018）。矢田廃寺跡からは軒丸瓦の他、鶴尾片や須恵器の盤などが出土している。木曾川の低段丘一段目の最奥に立地し、北は高位段丘の段丘崖に連なる。眺望の良い地であり、西方約 700m の場所に鶴（加茂）県主を祀る県主神社があることから、加茂県主一族の本拠地に造営された氏寺の可能性がある（美濃加茂市 1980）とされ、弥勒寺跡とともに律令以前の在地豪族に關係する寺院の可能性がある。また、当時期には、泰澄開基の白山信仰に関する成立の伝承をもつ寺院が長瀧寺を中心とした郡上郡にみられ、武儀郡においても、長良川沿いや美濃権現山地の山麓などの白山に近い場所に洲原白山権現（美濃市）や天王山禅定寺が成立した。

平安時代の寺院では、可児郡の送木廃寺跡で10世紀代とされる単弁八弁の軒丸瓦片が確認されている¹⁰⁾。同形の瓦は同じ可児郡の願興寺跡や伏見廃寺跡、加茂郡の元薬師寺跡でも確認されており、平安時代以降は加茂・可児地域の寺院間に何らかの繋がりがあったことが窺える。この時期には、神仏習合と結びついた山岳信仰がさらに盛行する。奥美濃における白山修験の拠点であった長瀧寺が白山信仰下で栄えて密教と結びつき、以後天台宗の中心地として盛行し、平安時代中期には後一条天皇の勅願で天台別院として成立した。関市と郡上市にまたがる高賀山では、白山信仰の変形と考えられる高賀山信仰が見られる（岐阜県文化史調査研究会 1999）。高賀山は、長良川中流域西岸の山岳地帯の中で最も高い山であり、濃尾平野の各地からその頂上を見ることができる山である。現在確認できる遺品は平安時代のものが最古であり（岐阜県 1971）、高賀山を囲むように六社（蓮華峰寺（高賀神社）、滝の宮（滝神社）、藏王権現（金峰神社）、巖屋本宮（本宮神社）、巖谷新宮寺（新宮神社）、星宮粥川寺（星宮神社））が造営される。六社はいずれも伝承によって天暦年間（947～957）の成立であると伝わっているが、蓮華峰寺（関市）や粥川寺（郡上市）では、平安中期頃の作と考えられている仏像を有している。特に蓮華峰寺は、平安時代～鎌倉末期頃の仏像や懸仏等が多数みられるが、六社のうち唯一、神像を安置する。このことは、「この神社が高賀信仰の最古の中心的拠点であったことを意味するかもしれない」（岐阜県 1971）と考えられている。高賀山信仰は中世以降全盛期を迎え、昭和の初め頃まで続いたといふ。

また、中濃圏域における古代寺院は圏域の南西部に集中し、それ以東では恵那郡大井駅近くまで古代寺院は見当たらず、空間的な断絶があることも特徴である。

3 中世寺院の様相

（1）寺院の分布（図101）

中濃圏域において中世（鎌倉時代以降）に成立する寺院は、圏域南部の美濃加茂台地に多く見られ、東山道飛騨支路沿いでは武儀郡と加茂郡との郡境に近い場所に中世寺院が密集するエリアが見られるものの、圏域全体では古代からの街道を意識した立地はそれほど多くない。表64及び表65が示すとおり、室町時代以降次第に寺院数が増加し、その位置は平地よりも台地周縁部に当たる山麓や独立丘陵の裾部に位置する寺院が多い。また、中世に入ると、治水技術の向上や水運の発達により、河川沿いの集落や街道が増加する。中濃圏域においては、圏域北部の山地から盆地へ流れ込む河川を使った河川交通が発達し、寺院についても山間部の河川沿いの山際などに多く造営されていく。山腹・山頂に新たに成立する寺院は、数は少ないものの一定数みられる。

ここでは、郡ごとに河川や街道との位置関係も視野に入れながら、寺院の分布について概観する。
〔郡上郡〕当郡は、養老元（717）年に泰澄により開山された白山を神体とする白山信仰の美濃における中心地であり、長良川沿いの国道156号は白山への信仰道（郡上街道）として発達した。郡上街道に沿って集落が発達し、寺院も街道沿いやその山際等に多くみられる。古代から長瀧寺を中心に泰澄やその弟子が開いたという伝承（起源）を持つ寺院が多く分布するが、中世においては、長瀧寺は美濃番場として全盛期を迎える。長良川とその支流である吉田川の合流地点付近まで坊や末寺が造営された。また、郡上藩主東氏に関連する寺院も散見される。また、郡域南部及び武儀郡に展開する高賀山信仰は、13世紀中頃に至り虚空蔵菩薩信仰と結びつき（岐阜県 1969）、全盛を迎えた。

〔武儀郡〕山間部を流れる河川（長良川・板取川・津保川・武儀川）沿いや長良川及び武儀川が形成する台地の山際などに多くの寺院が造営される。板取川右岸の山麓に位置する長藏寺（美濃市）は、土岐忠頼の援助を受けて成立した。蜂屋丘陵の据部には、養老3（719）年泰澄開基の寺伝を持ち白山信仰に関わりのある神光寺（関市）や9代將軍足利義尚開基の龍泰寺（関市）が位置するが、両寺ともかつては背後の丘陵中に境内を構えていたと伝わる。郡域西部の山腹には、美濃守護代齊藤利永開基の汾陽寺がある。平地には、東山道沿いで加茂郡との郡境の西側に、後堀川天皇の勅願で鎮護國家の道場として造営された新長谷寺（関市）が位置し、その周囲にも中世成立の寺院が集中する。

〔加茂郡〕当郡では、古代に引き続き、台地周縁部の山麓や独立丘陵の据部への寺院の造営が多くみられるが、中世以降には郡域南部の台地に流れ込む河川（木曽川・飛騨川・津保川）に沿って、台地周辺や山間部にみられる矮小地にも寺院が分布する。可児郡との郡境である木曾川沿いのエリアは、近世以降、黒瀬などの河港を中心に栄える地域であり、河川沿いの山麓に寺院が分布する。また、当郡は中濃圏域の中でも土岐氏に関連する寺院が多くみられる地域であり、美濃守護の土岐政房により土岐氏の祈願所として栄えた大仙寺（八百津町・臨濟宗）や、後花園天皇の勅願寺となった善慧寺（八百津町・淨土宗）など、時の権力者の庇護を受けた寺院がある。津保川によって形成された加茂野台地の周辺には、土岐頼遠開基で夢窓疎石が創立した東香寺（富加町）があるほか、天猷玄晃やその弟子が開山した龍福寺（富加町）などの寺院が集中する。津保川の支流である川浦川沿いには、東山道飛騨支路が通る。この飛騨支路沿いには、古代から法灯が続く清水寺（富加町）があるほか、土岐頼貞開基の龍門寺（七宗町、当初岐阜市福光にあり康応元（1389）年神測に移転）などがある。

〔可児郡〕当郡域北部の美濃加茂台地に東山道が通るが、中世段階で街道沿いに成立した寺院は少ないものの、街道沿いの山中には古代から法灯が続いたとされる極楽寺（御嵩町）や恵觀寺廃寺跡（御嵩町）、そして墨渓寺が位置する。また、分布の多くは室町時代に成立し、台地周縁部の山麓や、比較的集落域から離れていない山腹等に造営されることが多い。天文6（1573）年築城の美濃金山城跡の周辺には、元亀元（1570）年に森可成の菩提を弔うために時の城主である森長可が創建した可成寺（伝可成寺跡）や鬼門除けの神照寺（可児市）など、金山城に付属する施設として寺院が造営される。

（2）平坦面の配置（図102・103）

ここでは、山麓及び山腹・山頂に位置する寺院の堂跡や、門・通路・その他の平坦面などの配置と、それらが位置する地形などについて記載する。また、古代に成立した寺院についても、中世以降存続している可能性がある寺院については、本節で取り扱う。

①地形の詳細

山麓に位置する寺院は、堂跡背面に山地を背負うもの（薬王寺（可児市）、香昌寺（富加町）、恵利寺（関市）など）、堂跡背面に山地を背負い側面の2方向を尾根等で囲まれるものがある。このうち、丘陵据に位置する薬王寺や香昌寺では、堂跡背後の丘陵頂へ至る通路を確認した。

山腹に位置する寺院には、谷状地形を形成する斜面に境内が展開するもの（日龍峯寺（図102-1））、深く解析した谷状の窪地内に位置するもの（墨渓寺旧境内（図102-3））、堂跡背後に山頂や尾根を背負うもの（中房寺跡（坂祝町、図102-4））がある。谷状の窪地に位置するものは、墨渓寺旧境内のように境内の前方が山麓に向かって開けているものと、汾陽寺旧境内（関市）のように堂跡両側面の尾根同士が境内の正面で迫り、境内が山腹の閉じた空間に位置するものがある。墨渓寺旧境内

は谷地形の最奥に堂跡を配置するが、谷地形を形成する尾根上に塔頭等の施設を配置する。汾陽寺旧境内は、堂跡が谷地形の最奥にあり、現本堂はその下方にあたる南西約180mの位置にある。寺での聴き取りによると、現本堂の正面で確認できる方形区画の平坦面にはかつて塔頭があったという。堂跡両側面の尾根は、この塔頭跡の南西側で接近している。谷部への入口付近には、不正形な小平坦面の広がりを確認したため図化したが、地表面での観察の限りではかつての寺域に含まれるかは判断できない。また、谷部入口以南の平野部に向かう谷部は、現在水田が広がっている。これらの谷状の窪地内に位置する寺院では、主要堂宇の両側若しくは片側に沢が流れ込む場合が多い。

また、山腹から山麓にかけて境内が展開するものに、禅定寺（図102-2）がある。本堂を山腹の谷状地形の最奥（最高所）に配置し、山麓に向かって直線的に伸びる参道沿いに塔頭を配置する。

②堂跡とその周辺

堂跡がある、若しくは堂跡推定地の平坦面は、寺域の中で最も広い場合が多い。その場所は、平坦面群が展開する最奥の高所に位置する場合と、平坦面群の中心に位置し、その周囲に小規模な平坦面が展開する場合がある。堂跡において礎石を確認できる寺院は、中房寺である。東西に並ぶ2つの基壇があり、西側の基壇上に礎石列を確認できるが、建物規模は不明である。堂と塔の位置関係について、絵図や伝承等を含め推定することができるのは、日龍峯寺、恵利寺、大聖寺がある。日龍峯寺は、本堂正面へ至る参道沿いに各堂宇が配置されるが、この堂宇の並びのうち、北条政子が寄進したという多宝塔は最も本堂に近い場所に位置する。恵利寺は、本堂からみて左側の尾根斜面上に三重塔があったと推定され、後世の改変を受けているが、わずかに平坦面が残る。大聖寺は、武芸八幡宮の別当寺であり、神社境内に寺域を有する。山麓の谷地形の最奥に八幡宮の本殿及び拝殿を配置し、拝殿からみて右側の山麓斜面上に三重塔を、本殿左側に鐘楼がある。大聖寺の本堂やその他の堂跡は、直線的な参道に沿って横並びに展開している。また、愚溪寺旧境内は、美濃守護代の斎藤利永の裏証判がある寄進した土地を明らかにする絵図（文安6（1449）年）が愚溪寺に伝えられている（御嵩町1992）。絵図の方丈跡の位置に当る場所にはすでに「愚溪庵」と記載されている。これより、まず谷部に位置する方丈等の境内の中心域が造られ、次に谷状地形を形成する尾根上に塔頭を造営し寺域が拡大されたことがわかる。

なお、日龍峯寺では、本堂背後の岩窟内で湧水点を確認できる。中濃圏域において地形観察図を作成した寺院のうち、湧水点を確認できたのは日龍峯寺のみであった。

③門・通路・平坦面

禅定寺、長瀧寺、元大興寺跡、大聖寺では、門から通路が直線的に延びて堂跡に至り、通路に直行する方向に長軸をもつ方形区画の平坦面が展開する。一方、日龍峯寺は、山腹谷地形の最奥に掛崖造の本堂を配置し、本堂から見て右手の斜面に等高線に沿った通路を通し、その通路上に各堂宇を配置している。

門跡の礎石が遺存する寺院には、愚溪寺旧境内がある。方丈跡の真正面に至るのは高石垣中央に設けられた石段であるが、その東側にスロープ状の出入口が設けられ、L字に屈曲して方丈に至る場所に礎石が残る。ここには長屋門があったとされている。山麓から方丈跡に至る通路沿いには、明瞭な平坦面がない。一方、方丈跡を囲むように伸びる尾根上に設けられた平坦面は、それぞれ様相が異なる。方丈跡の北西側に伸びる尾根上には、階段状に平坦面が連続し、平坦面間を移動するには各平坦

面を横断しなければならない。それに対して方丈跡の南東側に伸びる尾根上には、通路に対して平行する方向に長軸を持つ方形区画の平坦面が横に並ぶ。

④堂跡と墓域

地形観察図を作成した寺院について、中世に遡る可能性がある墓域¹¹⁾を確認することができた寺院はなかった。香昌寺や元大興寺跡（閔市）、鹿苑寺旧境内（美濃市）では、石塔や近世墓碑等が散在する平坦面を確認した。香昌寺や元大興寺跡では、堂跡の背後に位置する。一方、鹿苑寺旧境内では、谷状地形の最奥に位置する本堂跡に対し、尾根を挟んだ反対側に無銘の碑が並ぶ墓域の可能性がある平坦面がある。中濃圏域において中世墓の所在が把握されている遺跡に、美濃市横越地区の丘陵に位置する長福寺跡や東觀音寺遺跡及び西觀音寺遺跡がある。長福寺の境内は尾根上に位置していたとされるのに対し、5基の中世墳墓群及び多量の蔵骨器や五輪塔が出土したのは、尾根の背後に当たる谷部の最奥である。また、觀音寺跡とされる東觀音寺遺跡は尾根上に位置するのに対し、中世墳墓群である西觀音寺遺跡は、東觀音寺遺跡が所在する尾根の谷筋を挟んだ西側の丘陵裾部に位置する（美濃市教育委員会 2012）。長福寺、觀音寺とともに、墓域は境内域に近接しない位置に設けている。

また、日龍峯寺の本堂背後の岩窟には湧水点を確認できるだけでなく、県指定重要文化財の宝篋印塔のほか複数の石塔の部材が祀られている。中世段階にはこの岩窟が墳墓窟として利用されていた可能性もある¹²⁾。

（3）宗派

中濃圏域における中世寺院の成立当初の宗派は、臨済宗が圧倒的に多く、次いで浄土真宗、天台宗の順に多く確認できる。曹洞宗や浄土宗も一定数確認でき、少数だが日蓮宗や法相宗もみられる。また、岐阜県内でも数が少ない律宗の寺院や時宗も確認できる。

浄土真宗は、13世紀中ごろに木曾川中流域（岐南町や羽島市）に展開した河野九門徒を中心に美濃国へ布教が開始されるが、本願寺8世蓮如の布教により急速に発展する。表64をみると、15世紀後半における転宗が最も多く確認できるが、そのすべてが浄土真宗への転宗（ほとんどが天台宗からの転宗）であり、中濃圏域における蓮如の影響も非常に大きかったことがわかる。圏域北部の郡上郡においては、親鸞の弟子である嘉念坊善俊が嘉禎年間（1235～38）に郡上に入り布教を試みたが、当時は天台宗の長瀧寺の勢力が絶大であったため志を果たせず、白川郷に移ったという（郡上史談会 1986）。しかし、篠駒城主である東胤行が親鸞に帰依していたことや、蓮如の布教を受けて長瀧寺関係の寺院が真宗に転宗する場合が多く、郡上郡における浄土真宗の寺院数は、圏域内で最も多い。

禪宗は、臨済宗に帰依した美濃守護初代土岐頼貞により、鎌倉時代後期以降、徐々に影響がみられるようになる。土岐氏の拠点地である東濃圏域を中心に、頼貞、頼達、頼康の三代で美濃国各地に臨済宗仏光（五山）派寺院が創建されるが、中濃圏域においては頼貞開基の龍門寺や、頼達創建の蘆山寺（美濃市）、東香寺がある。土岐氏衰退以降は、妙心寺派に帰依した守護代の斎藤利永が、愚溪寺や汾陽寺を創建し、妙心寺派が広がりをみせる（岐阜県 2002）。一方、曹洞宗は、臨済宗に比べて半世紀ほど遅れて美濃国に入り、室町時代中期以降近世にかけて広がりをみせるが、数は少ない。初期の曹洞宗寺院である龍泰寺は、応永14（1407）年の成立で、美濃における曹洞宗展開の拠点であり（閔市教育委員会 1996）、圏域北西部の閔市及び美濃市に中世成立の曹洞宗が多くみられる。

その他の宗派として、浄土宗の寺院は当圏域で 10 か寺確認でき、鎌倉時代に成立したとされる淨性寺（閔市）や善慧寺（八百津町）がある。善慧寺は、貞応 2（1223）年成立し、享徳年間（1452～54）には七堂伽藍や 80 もの塔頭が揃った大寺院であり、文明 4（1472）年には後土御門天皇の勅願寺であった。時宗は、鎌倉時代後期に一遍上人の弟子真教が閔の与阿弥陀仏に宛てた消息があり、当時閔市にはすでに時宗が布教し、時宗寺院が成立していたとされる。さらに、永正 12（1515）年には、遊行派本山の清淨寺が 22 世意楽のとき、閔二ツ岩（閔市小瀬、詳細な位置不明）に 3 年間移された。律宗については、明徳 2（1391）年に書き改められた「西大寺諸国末寺帳」の美濃国の箇所に 4 か寺の寺院名がみえる（松尾剛次 1995）。このうち小松寺は閔市の大慈山小松寺か、美濃加茂市の広橋山小松寺ではないかといわれているが、詳細は不明である。大慈山小松寺は、治承 2（1178）年に、国家安泰の祈願所として平重盛が開基し成立したという伝承がある。広橋山小松寺の成立時期は不明だが、正長元（1428）年銘がある宝篋印塔が寺跡に残る。

中世以降、白山の登山口に位置した長瀧寺は中宮として全盛期を迎えた。長瀧寺を中心に、下山七社（中宮・佐羅宮・別宮・本宮・金劍・岩本・三宮）という信仰拠点を形成して組織化され、信仰圏の拡大に伴い、次第に長良川を下って移動した（岐阜県 2001）。神光寺は、平安時代後期の觀音像や泰澄大師像、室町期の白山曼荼羅を有する寺院であり、三宮は白鳥町為眞の白山神社から神光寺に移ったとされる。また、岩本宮は、白鳥町中津屋の白山神社から、鎌倉末期～南北朝時代には洲原白山権現に移り、さらに岐阜市大洞の願成寺、続いて伊吹山に移った。美濃や尾張方面からの白山参詣者は、先ず洲原白山権現に参詣したといい（白鳥町 1976）、洲原白山権現は「白山前宮」とされ（美濃市 1979）、美濃禪定道の入口にあたる前宮であった。中世成立の天台宗寺院は 14～15 世紀頃に郡上郡において多く見られるが、その多くが長瀧寺の配下であったり、長瀧寺で得度を得た者が造営した寺院である。しかし、そのほとんどが 15 世紀後半から 16 世紀前半にかけて浄土真宗に転宗している。

注

- 1) 「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 1980『角川日本地名辞典 21 岐阜県』、角川書店
- 2) 『改正美濃国明細全図』では、閔市千疋・植野・戸田・側島は山県郡、郡上市石徹白は福井県大野郡に属す。表 63 では、該当地域の寺院数を「山県郡」「福井県大野郡」としてカウントした。
- 3) 基礎資料調査や現地調査により把握した寺院の沿革を基に、寺院の成立時期を整理した。現在の所在地へ移転している場合は、移転後の所在地の旧郡に含めた。なお、2つの時代に跨る場合（慶長年間等）には、古い方に帰属させた。
- 4) 「行基が創建」と記載のある場合は 8 世紀前半、「蓮如の時代に創建・転宗」と記載のある場合は 15 世紀後半に位置付けた。
- 5) 特に早いものでは、閔市龍峯寺で、同寺縁起（延宝 5（1677）年）によると仁徳天皇の時代（4 世紀以前）の両面宿禰に起源を持つと記載されるが、縁起の奥書には、同寺の別當から伝え聞いたことに潤色を加えた縁起であるとの記述がある（尾関 2009）。また、日龍峯寺は高沢山山頂付近に位置することから高沢觀音とも呼ばれる。武儀町教育委員会 1992 によると、「金山郷守觀音縁起」（時期不明）に「仁徳天皇の御代に、飛驒國大野郡八賀の郡日面村出波の平の巖窟より、両面四手の奇人出現、飛行して、この山に杖を止め、大悲の陀羅尼を誦し、国家安全五穀成就の祭祀ありて後、下之保高沢山へ飛来せり…」と書かれているという。

尾関章 2009『両面の鬼神 飛驒の宿禰伝承の謎』、勉誠出版

武儀町教育委員会 1992『武儀町史』

- 6) 移転の記録は、自治体史等に記載の沿革から移転したことが確認できるものをカウントした。複数回移転している場合は、最初の移転のみカウントした。廢絶の記録は、兵火により焼失したことを確認できるものを「廢絶（火）」としてカウントした。なお、廢絶後に再建されたものも含む。「廢絶（他）」は、廢絶後に再興しない寺院をカウントした。
- 7) 旧東山道等については既存の資料（島方洗一 2012）を参考にした。また、地理情報システム QGIS3.10.14 を用いて、地理院タイルの背景地図上に米国スタンフォード大学が公開している戦前の五万分の一地形図をジオリファレンサーで読み込み、測図時点の郡界をトレースしている。
- 8) 中濃圏域における東山道上の駅は、どれも郡名を冠するものばかりであることから所在地の特定が困難であり、位置不明である。また、飛驒路上の菅田駅は、下呂市金山町菅田を遷座地とするが、加茂・武儀両駅のいずれかに駅名を変えたとする説と別地とする説がある。さらに、東山道の各務駅から加茂郡に至るルートについて、島方 2012 では一度尾張国へ入るルートとして推定されているが、大塚 1951 は、大田区に古代寺院が集中することや可見・加茂地区の古代瓦と関係性のある瓦が尾張国から見つかっていないことから、各務駅から木曾川右岸を北上して加茂郡に至るルートを想定している。
- 9) 美濃国内では川原寺式軒丸瓦が確認されている寺院跡が多い。八賀 1972 は、川原寺式の瓦の分布とその製作技法の共通点から、「中央と密接に結びついた新興勢力が、乱の功績による論功を一つの契機とし、寺院建立という大事業を果たすのではなかろうか」と指摘した。以後、関市弥勒寺跡は功臣身毛君広とその一族に対する壬申の乱の論功行賞として、川原寺系の技術集団が直接派遣されたと考えられてきたが、三舟 2020 は、「川原寺自体は天智天皇の建立によるもので近江大津宮付近の南慈賀寺などにも分布するところから、壬申の乱との関係のみを重要視する説にはいかない」と指摘する。また林 2021 も、「全国における川原寺式軒瓦の状況を見る限り、文様も各地で変容していたり、技術的にも必ずしも同一とはいえないものが多く、論功勲章だけでは説明できなくなっているのが現状である」とする。
- 10) 送木魔寺と元万尺寺跡から出土した軒丸瓦については、願興寺跡瓦の混入である可能性が指摘されている。（大塚 1951）
- 11) ここでは、主に集石を伴う中世石塔を確認した範囲を墓域として取り扱う。
- 12) 宿禰伝承を伝える日龍峯寺「縁起」（延暦 5 (1677) 年）（尾閑 2009 による現代訳）によると、「異人は高澤の幽穴に居られたが、仁徳天皇の御聞に逢し、この両面四手の異人に勧して、山を開き、日龍の精舎を創建させた。（中略）それより数百年を経て、天平年中に伽藍ことごとく荒廃したが、異人の尊影はわずかに残った。行基菩薩が尊像を礼拝し、これは眞の菩薩であると崇拝し、伽藍を建立して先の岩穴に本堂七間四面を作成し、大峰に白山権現を勧請した。（中略）」と記されており、伝承では、本堂裏の岩窟は日龍峯寺の起源に遡るものとしている。なお、日龍峯寺の地形観察図作成後に、本堂南西側の幅の広い通路状の平坦面に面する岩壁にも小規模な窓状の掘り込みを確認した。内部に五輪塔の空風輪 1 点があった。

【引用文献】

- 伊藤聰 2018 「大杉遺跡・大杉西遺跡（閖市）」（平成 30 年岐阜県発掘調査報告会資料）
- 大塚章 1951 「可見・加茂地区の古代寺院-同范・同系軒丸瓦の展開を中心として-」『岐阜史学』第 91 号、岐阜史学会
- 岐阜県 1972 『岐阜県史』通史編原始
- 岐阜県 2003 『わかりやすい岐阜県史』
- 岐阜県企画部地域振興課 1993 『土地分類基本調査「美濃」』
- 岐阜県博物館 1995 『美濃・飛騨の古代史発掘』、岐阜県博物館友の会
- 岐阜県文化史調査研究会編 1999 『飛騨美濃合併 120 周年記念事業 ひだみの文化の系譜』、岐阜県
- 郡上史談会 1986 『図説郡上の歴史』（岐阜県の歴史シリーズ(5)）、株式会社郷土出版社

- 島方洸一 2012『地図でみる東日本の古代 律令制下の陸海交通・条里・史跡』、株式会社平凡社
- 白鳥町教育委員会 1976『白鳥町史』通史編上巻
- 関市教育委員会 1996『新修関市史』通史編 自然・原始・古代・中世、関市
- 八賀晋 1973「地方寺院の成立と歴史的背景」『考古学研究』第20巻第1号、考古学研究会
- 林正憲 2021「美濃地域における古墳から寺院への変遷過程」『星飯の丘に集う-中井正幸さん還暦記念論集-』、「中井正幸さんの還暦をお祝いする会」事務局
- 松尾剛次 1995『勅請と破戒の中世史-中世仏教の実相-』、吉川弘文館
- 美濃加茂市 1980『美濃加茂市史』通史編
- 美濃市 1979『美濃市史』通史編上巻
- 美濃市教育委員会 2012『美濃観音寺山古墳・長福寺遺跡・西観音寺遺跡・東観音寺遺跡』(美濃市文化財調査報告書34号)
- 御嵩町史編さん委員会 1992『御嵩町史』通史編上巻、御嵩町
- 三舟隆之 2020「第五章 尾張・美濃の国造と古代寺院」『古代氏族と地方寺院』、(株)同成社

表63 寺院の成立状況

群名	郡上郡	大野郡	武儀郡	山県郡	加茂郡	可児郡	小計
時代							
飛鳥	0	0	3	0	3	2	8
奈良	14	3	7	0	4	0	28
平安	9	0	12	0	9	6	36
古代(細分不能)	0	0	4	1	1	1	7
古代寺院小計	23	3	26	1	17	9	79
鎌倉	13	0	12	1	5	4	35
室町	37	0	41	0	43	20	141
安土桃山	6	0	35	2	17	9	69
中世(細分不能)	25	0	20	0	26	10	81
中世寺院小計	81	0	108	3	91	43	326
古代・中世寺院合計	104	3	134	4	108	52	405
参考寺院等							
近世(江戸)	8	0	70	1	40	29	148
時期不明	22	0	42	1	50	37	152
近代以降等	9	1	15	0	7	3	35
近世以降等寺院小計	39	1	127	2	97	69	335
対象寺院合計	143	4	261	6	205	121	740

注) 時代・時期は次のとおりとした。飛鳥(592年～)、奈良(710年～)、平安(794年～)、鎌倉(1185年～)、室町(1333年～)、安土桃山(1573年～)、江戸(1603年～)。なお、飛鳥時代から平安時代を古代、鎌倉時代から安土桃山時代を中世とし、明治時代以降は寺院以外のものを含めて近代以降等とした。

表64 時期別の成立数等

西暦	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700
内容	6	27	3	7	1	5	8	1	2	2	22
成立											
続宗											
移転											
廃絶(火)											
廃絶(他)											

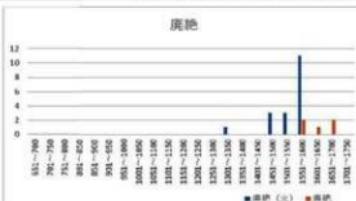
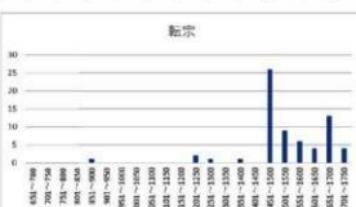
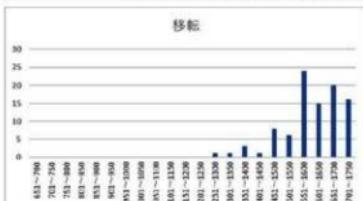
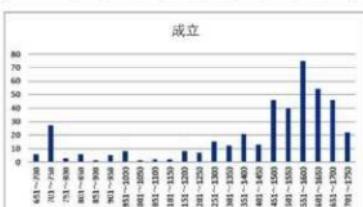


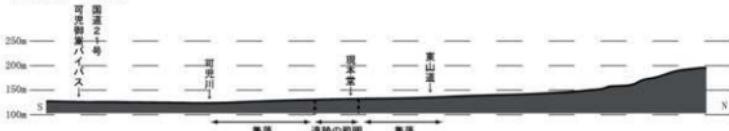
表65 時期別の立地数

内 容	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	合計
平地	8	5	1	2	1	2	1	4	4	14	10	129
山麓	9		1	1		1	2	5	6	5	10	183
山腹	1	5	1	2	1	4	1	1	6	2	7	42
その他									1	1	1	4

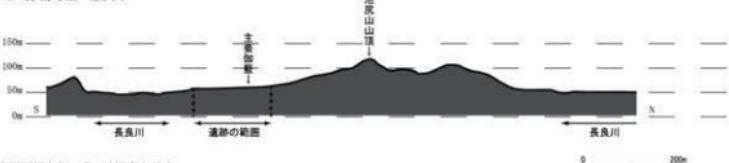
※山麓から山腹にかけて存在する寺院は山腹に含めた。

平地の寺院

1 願興寺（御嵩町）



2 緯跡寺跡（関市）

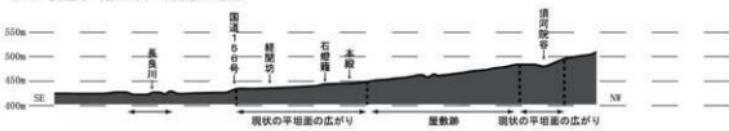


山麓の寺院

3-1 長瀬寺（郡上市）…南西～北東



3-2 長瀬寺（郡上市）…南東～北西



※断面図左側の○は標高を示す

0 200m

図96 中濃圏域 地形断面図（1）

山腹の寺院

4 日龍寺（関市）



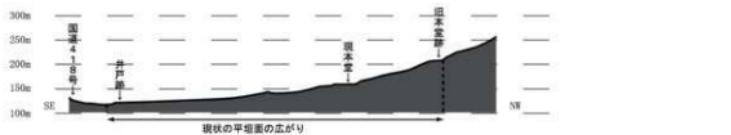
5 梵定寺（美濃市）



6 慶澤寺旧境内（御嵩町）



7 泊陽寺（関市）



8 中房寺（坂祝町）

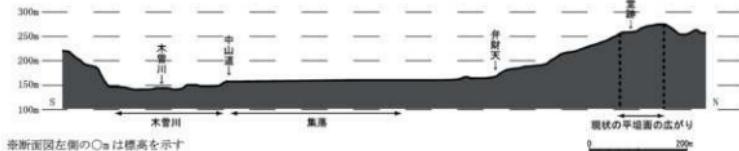


図97 中濃圏域 地形断面図（2）

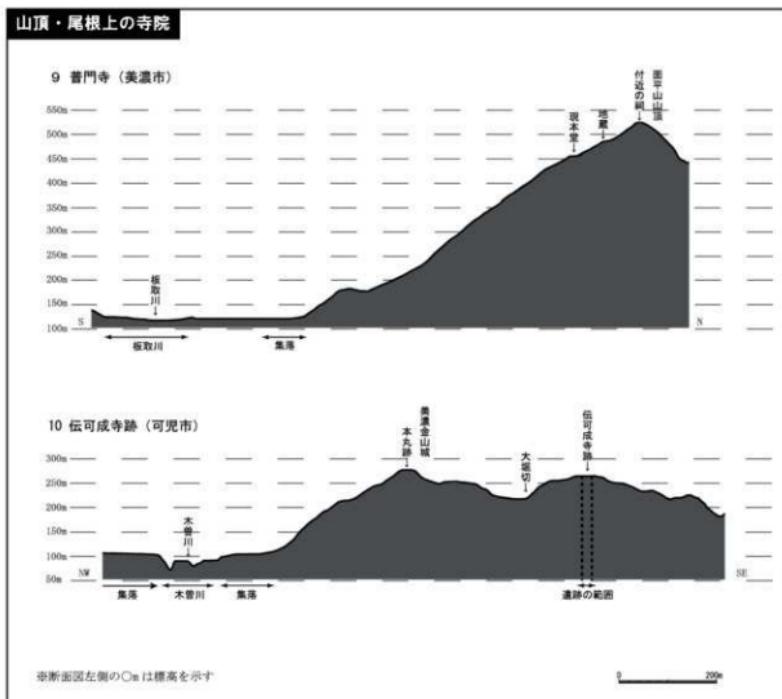
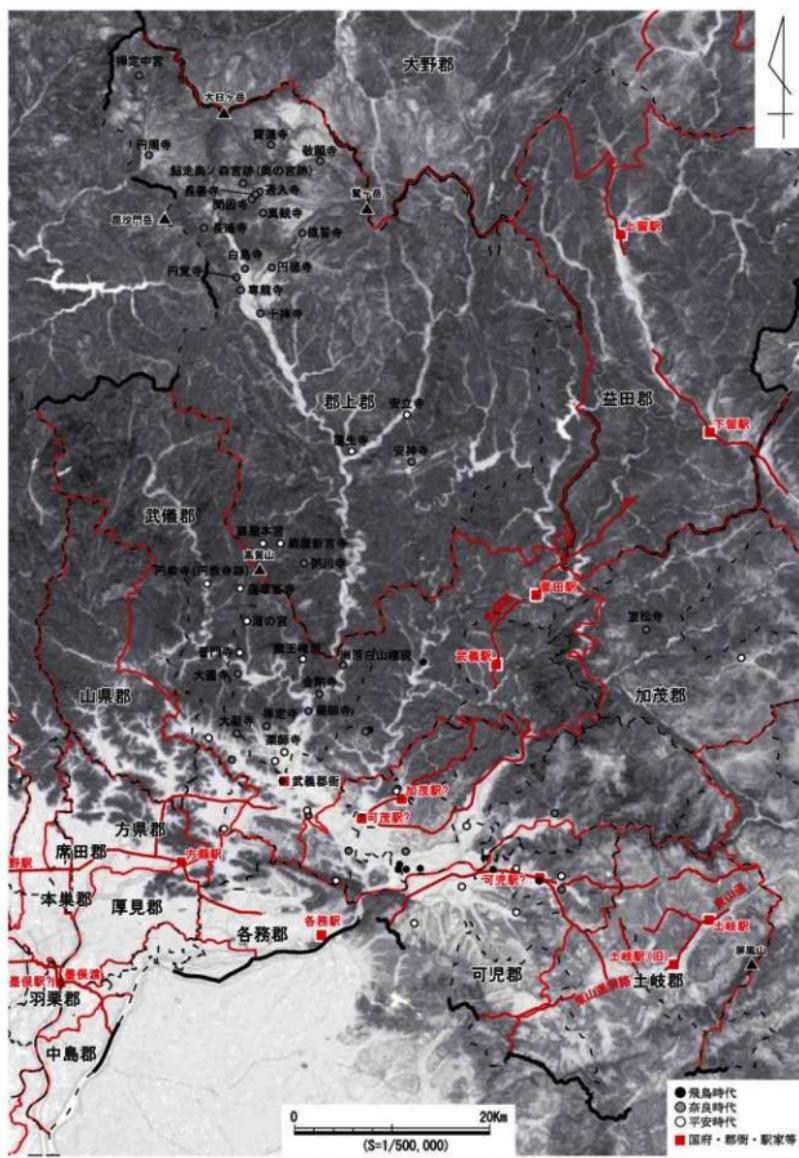


図98 中濃圏域 地形断面図（3）



※背景地図に地理院タイル縮尺量図を使用

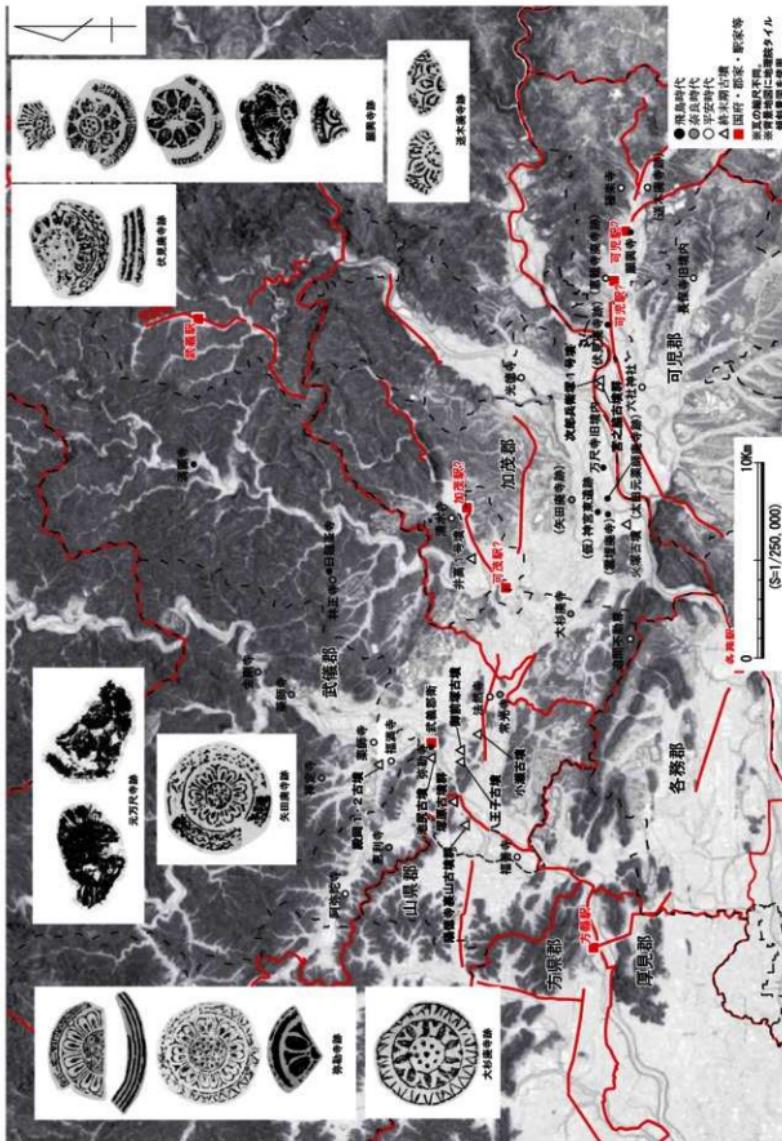
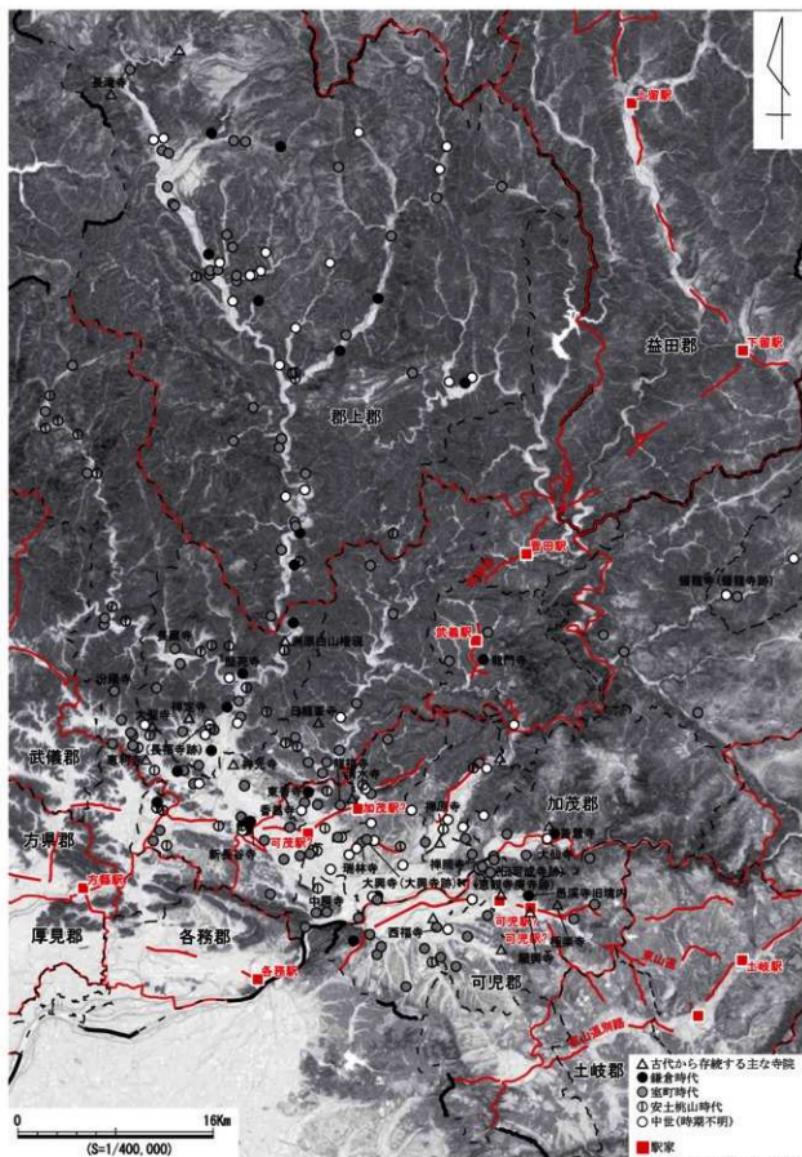
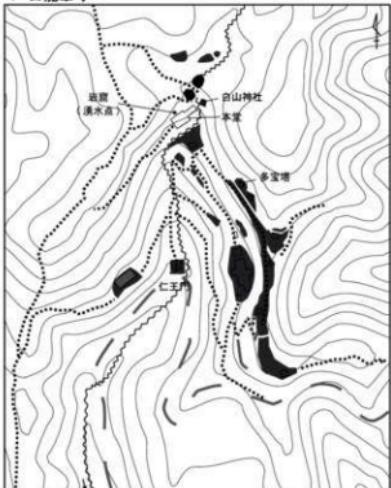


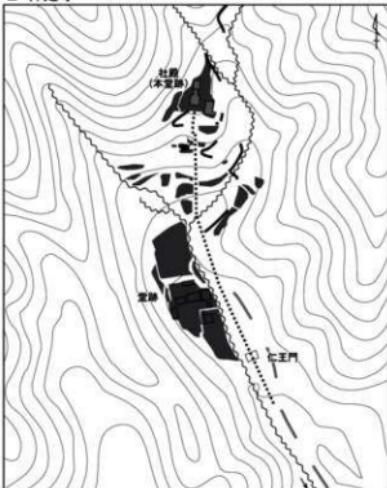
図100 美濃加茂台地周辺の主な古代寺院



1 日龍寺



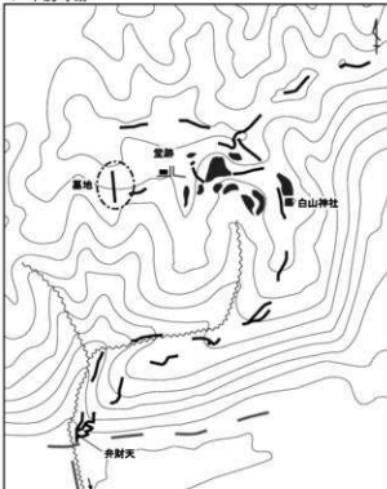
2 梵定寺



3 愚溪寺旧境内



4 中房寺跡



<凡例>

■平坦面 ■礎石から推定できる建物 □基壇状の高まり

----- 通路

~~~~~ 流水部

■ 池

■ 現在の建物等 ----- 現在の通路

0 100m

図102 中濃圏域 地形観察図模式図（1）

## 5 長瀧寺跡

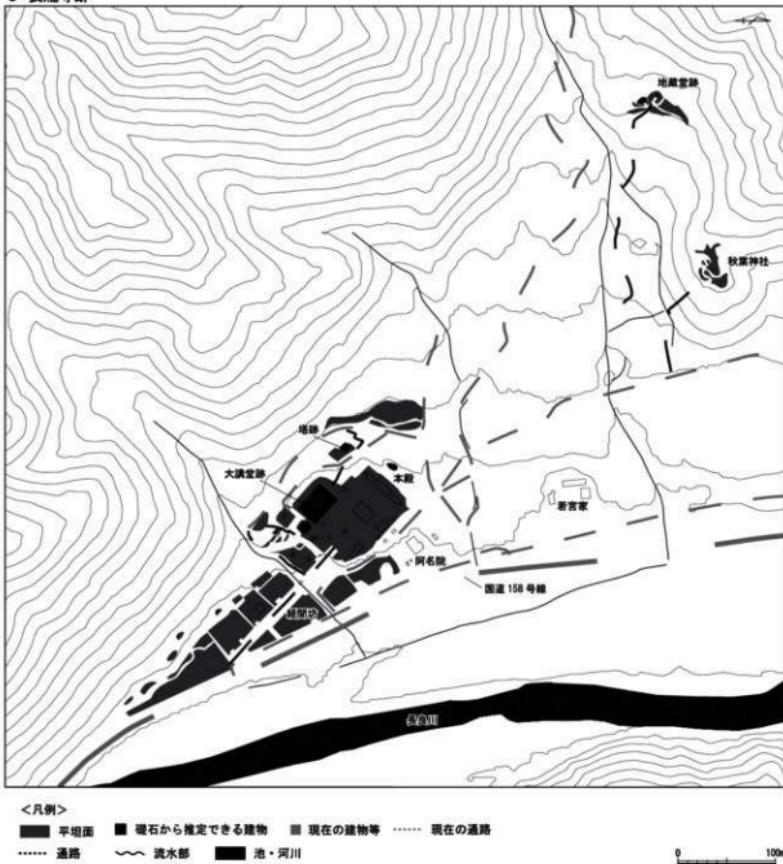


図103 中濃圏域 地形観察図模式図（2）





岐阜県文化財保護センター調査報告書 第162集  
岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書  
(第3分冊)

2023年3月17日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター  
岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 株式会社もとすいんさつ